

世紀の頃より北米、今の合衆國の地方に植民するに於いて佛人は決して英人の後に出てはせなかつたのである。然るに第十七八世紀の間を通じて英人との角逐に於いて、一著又一著寸進尺退、ルイジアナ州の如きは、些かの價格を以て之を英國に賣渡すといふ次第で、新英、蘭十三州が米國獨立の中堅となり、而して北米合衆國は、幾多の種族の集りとは云へ、遂に其國語を英語にし、其制度を英吉利風にする事となつたのである。印度經營に於いても、クライブ、ヘスチングスが冒險的事業を企つる以前に於いて、既にデブレイ等の經營あり、其初は是亦英佛の角逐を見た次第であるが、是も追々佛蘭西は勢力を失墜し、印度皇帝の冠冕は、遂に英國の皇室に歸するに至つた。續いて、加奈陀に於いて見るも、加奈陀の多くの地名は、實に佛蘭西風の地名である、クエベックの如きは、其名も佛國の西南部、所謂ラングドックの語調を存して居るに拘らず、之を首府とせる加奈陀が、現に英國の屬領である、其癖加奈陀では、佛蘭西加奈陀人は實に百五十萬を算する、而して是等の佛蘭西加奈陀人は、空しく慷慨して、佛人が英人の爲に凌轢せらるゝ事を嘆じつゝある次第である。蘇士運河も、ドレセップの名は蘇士運河のあらむ限り續くべく、實に佛蘭西人に依て

印度經營

加奈陀の現狀

蘇士運河

埃及經營

パナマ運河

特定時代の國民の心の時

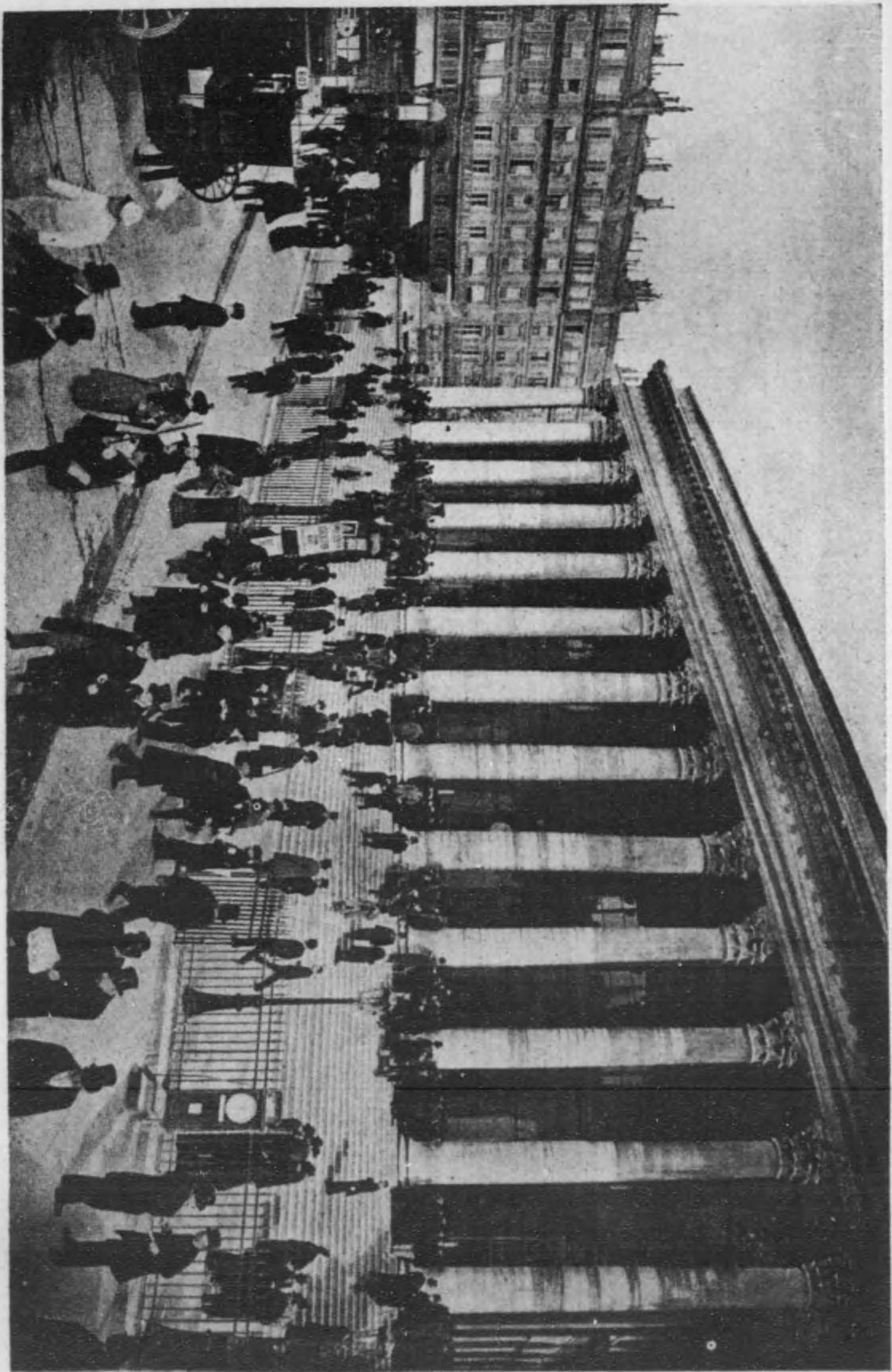
經始せられたのであるが、是も中頃より英吉利の手に移り、今日は蘇士運河は全く英吉利の掌中に在る。埃及經營に於いても亦然りて、アラビイ、パシヤの騒ぎの頃までは、まだ、佛蘭西の勢力の儼然として認むべきものがあつたにも拘らず、今日には佛蘭西は殆どカンチエ、ネグリジアルとなりつゝあるのである。パナマ運河も亦其初は佛蘭西人の著想に係り、而して遂に之を遂ぐるに能はず、其中米國が此遺し物を拾ひ、さうして更にそれに磨きを掛けて居るといふ次第である。斯の如く、凡そ歴史上、大事業の例と云ふ例は、悉く佛蘭西民族が天下に先だちて著想を爲す、實に創むることに於いては、萬事、毎度、總べて佛蘭西人を推すといふ状態であるにも拘らず、終りまで之を持ち耐へ、終りまで之をやり遂げるといふ點は、どうも佛蘭西人の短所であり、はせぬかと見ゆるやうな事例の比々、皆是なるは、洵に佛蘭西人の爲に惜まざるを得ぬ所である。

併しながら、此事は、必ずしも、單に佛蘭西人のみとは限らぬので、或る特定の國民は、或る特定の時代は、於いては、守成に長じ、或る特定の時代は、於いては、創業及び守成に長じ、而して或る特定の時代に至ると、遂に創業のみに長ずるといふ事が、往々

あるのである。カリフォルニアに於ける英人、獨逸人、日本人などの長短得失は亦此例であるが、是等は必ずしも國民に固有なる心理と謂ふべきに非ずして、寧ろ現代の佛人の心理、即ち特定の時代に於ける特定の國民に固有なる心理と謂ふが至當であらう。佛人たるもの、既に始め有るの長所を有つて居るから、更に終り有るの長所をも兼ね有して、鬼に金棒の實績を挙げやうと思ふならば、蓋し一舉手一投足の勞で、それは容易に遂げらるゝものに相違ないのである。

巴里生活を評論する者は、勢ひ人間のヴァイスに説き及ぼさざるを得ぬのは甚だ遺憾の事である。ヴァイス、假に惡習、惡癖とて云ふべき事柄は、世界の各民族皆之を有して居るが併し、歐人のヴァイスは随分仕様のないヴァイスである。歐人は、一般には品性の氣高い連中であるが、併しながら若しも一たび其品性が墮落すると、其ヴァイスは實に始末に了へぬ種類のヴァイスとなるやうである。何故に斯かる事があるであらうか、是は基督教が修養教でない爲であるにも由りはせぬかと思はる。基督教には、神は愛なりとか、原始的の犯罪とか、贖罪とか、神に對し、神と關係する贖罪、祝福等の特色こそあれ、克己、復禮、靜慮、工夫、懲忿窒慾の事は殆ど基督教には

其八、惡習と基督



佛蘭西國。巴里。

株式取引所の光景。

建築の近き手本は羅馬のヴェスバシアン堂
なりといふ。

見られぬ。古の僧院生活も、唯、他動的幽靜があつただけであつて、未だ工夫の三昧に入るものは無かつたやうである。斯くて基督教道德は御多分道德となり、慣習道德となり、群集道德となり、客觀道德となり、義の一字は最も修養の發地であるが、歐羅巴の言葉には、義と云ふ文字は一寸見當り悪い、斯くて歐羅巴人のヴァイスも起ることであらうかと思はる。

其九、歐人の快樂
主觀樂と客觀樂と
畫家の困

歐人の快樂は、是等と相表裏して、亦、餘程面白、いものがある。全體歐人は、ロオドエ、ヅペリイなど、二三の高潔なる人士の外、一般人民としては、人生の樂を解して居るかどうかが一寸疑はしく思はれる。歐人の解して居る樂は、主觀的のたのしみだけで、客觀的の樂は無いては、あるまいか。例へば、天然を見て樂み、歴史を察して樂むは、客觀的の樂である。美色を見、美音を聽き、美味に飽き、美臭を嗅ぐの樂は、是實に主觀的の樂である。我國にては、下等人民すらも、が、就れも、皆、能く俳句を解し、俳句を作り、和歌を詠ずる、是は如何に、我國民族に、客觀的の樂の、普きか、を知るに、足るの事實である。さて、斯くて、主觀的樂の外に、樂を知らざる人民を、對手の事として、歐羅巴の畫家は、宗教離れのせる、今日、畫題の選擇に、餘程困難を感じ、つゝ、ある、蓋し、客

觀的の樂は、皆畫題として現すべきものであるが、主觀的の樂みは、どうも之を現すに適當せぬからである。畫に芳い香を描くことも出來ず、畫に美しい女を描いて見た所で、所謂畫に描ける美人で、主觀的樂としては到底隔靴搔痒を免れず、畫に御馳走を描いて見た所が、臺所の展覽會たるに過ぎぬと云ふ次第で、洵に詰らぬものとなる。どうも歐羅巴の畫家は、今日頗る畫題の選擇に困難しつゝあるやうである。巴里の商家に於ける店員の理解力の著しく鈍いことは、人の往々經驗する所である。勿論是は其特定の店員に於ける精神作用の一時的の障礙にも因ることであらうが、佛蘭西の教育を視察して、中等若くは補習教育の普及如何から察し來ると、幾分か亦原因の無い事でもないやうに思はれる。全體補習教育には、佛蘭西も隨分骨を折つて居らぬでもないが、獨逸人の理窟詰めなる割合には、案外補習教育の實際的なるに引換へて、どうも佛蘭西の補習教育は、それ程適切でないやうに思はれる。

取引所の前の雜選、取引所の建物の内外で喚はる聲、叫ぶ聲は、實に當世の利益に狂奔する者に取りて天來の音樂であるかも知れぬ。今や實に取引所の内は夙に

其十、
理解力に
乏下中理

補習教育
的非實用
的

其十一、
博奕、
取引所の
内外

溢れて、希臘のアレオバガスを形どれる。其優美にして莊麗なる外廊まで、相場を呼ぶ修羅の巷である。さて取引所と向ひ合つて居る珈琲店の内では、佛蘭西人の博奕を好むこと、第二の天性なりとも覺ゆる程の有様である。之を爲すは尙止むに優れりと、支那の聖人の宣へることではあるが、何かもう少し弊害の少き消閑の法は無きものであらうか。精神を弱くし、體質を弱くし、品性を下し、百弊有りて、利無きものは實に博奕であらう。

佛國に於いては、革命が稍、傳説的となりつゝある。千八百九十九年の秋、労働者社會黨の示威運動が随分頻々と起つて、今にも社會黨的の革命が起らむとする雲行に見えた。併し、それも示威運動だけで、實際は格別の事が無く、済んだ。社會黨の勢力は、巴里の労働取引所をも變質せしめて、之を乗取るに至つた。是等は洵に珍らしき事柄である。巴里の労働取引所は三十年前の創設で、固より労働紹介事業を、大規模に且完全に實行する趣旨であつたが、政治上に害用せられ、全く資本家の敵となつて、殆ど同盟罷工相談所、同盟罷工俱樂部の觀を呈するに至り、毫も本旨たる労働紹介事業の實績を擧げぬ。そこで各々の同業組合は、別に其職業毎に勞

示威運動
的生活
労働取引
所の變質

其十二、
革命

働紹介事業を營み、巴里市又同業組合は、之に對して保護金を與へる。そこで巴里の勞働取引所へ來る職工は、職工の中でも下等なる者が多く、勿論雇主に於て、此勞働取引所に職工の注文を爲し來る者は絶無である、良き職工は皆此所へ來る事を厭ふ、是は取引所の空氣が全く革命的なるが故である、嘗に社會主義に止まらず、實に無政府主義にまで陥りつゝあるからである。凡そ資本家、雇主の側では、平生取引所に對して反情のみ甚だ熾である、然らば巴里市は、何故に十分の檢束を加へ、改革を取引所に試みぬか、それは市會議員の多數が急激社會黨であり、且又同業組合員にして、役員等の藥籠中の者も多數であるから、斯かる英斷は當分望み無き事である。巴里の市會議員は八十區各一人づゝを出し、凡そ二十歳の男子の普通且直接選舉に依るのである。

其十三、
佛人の學

佛蘭西人の學術は嘗て第十八世紀に於いては、各種の偉大なる科學上の發明者を出したことである。第十九世紀に至つても著々絶えず、現今に於いても、ボアンカレ、エ、バストゥルの如き世界の大家たるべき人を有せざるに非ざれども、一般には學術が氣が利いて居るといふ點を特色として、必ずしも大理想、大研究、大抱負と

人の振見
はて我
ほせ

いふことを特色とせぬやうである。佛國の學術は何等大宇宙觀若くは大國民主義に基礎を置ける深奥なる根柢を有する、憤、悱、啓、發の結果らしいものが無い、唯、一時の流行を趁ふ所の學術研究が多いやうに見受けらるゝ。勿論各種の専門に於いて英國が長所とする學問、學科あり、獨逸が長所とするあり、又佛國が長所とするあり、社會研究、就中觀察法を用ゐる社會研究の如きは如何にも餘他列國に比して遙に佛國の特長を推す次第である。獨逸人の神秘的、推理的、權威中心的思想に比し、佛國が理想的、平等的、空想的なる思想の特色を有するは夙に人の言ふ所、佛國の學者フイエエ氏なども之を詳に論じて居る。之に對して英國は甚だ實際的である、と云はれて居るが、是等の點は佛國民族の過去數百年來の實地生活より歸納せる所、如何にも然るべく頷かるゝ節である。

佛國の爲に最も憂ふべきもの、一つは其德育の權威の減衰である。ルボン氏と談話せる折にも、宗教無しの德育は我日本の特長とする所、而して氏は實に之を激賞し、又極めて之を艶美して居つた。是はルボン氏のみならず歐洲の識者は孰れも皆美む所、我輩は歐洲の識者との會見に於いて屢、此談話に接し、屢、斯かる

其十四、
權威の無

學校德育の現状

範稱的批評に接した。禪、柔道、劍道、之を實現機關とし、民族歴史の精華たる國民社會道德の理想を實質とし、斯くて成る所の德育は、歐洲識者の最も嘆服を以て與かり聽かむことを希ふ所である。佛國の學校德育は、成程、漸くの事、宗教離れがして來た。是は佛國の爲に大に賀すべきであるが併しながら、今日佛國の學校德育としてある所のものは、煮えない法律の如きものである。人若し其面目を知らむと欲せば、箕作麟祥譯泰西勸善訓蒙が即ちそれである。斯の如く熱無く、歷史上の力無く、而して現世の權威無きものを以て、少年、青年の道德を維持せむと欲するは、極めて難しと云はねばならぬ。

其十五、言語の過發達

言語は、國民心理を探るに頗る都合好き機關を供するものであるが、今や佛國の言語は、實に發達し過ぎたる状態、即ち既に盛りを過ぎて、今や散り始めたる花にも喩ふべきものでありはせぬかと思はれる。嘗て露西亞の民族心理を評する際に、露西亞語の極めて子音に富める事實を挙げたが、佛國の言語は、今や殆ど、文字はあつても讀まぬ文字、子音はあつても發音せぬ子音が、極めて多くなりつゝあるのである。且にミュエとアスピレエとがあるが、アスピレエよりも更に本源に遡れば

口の發音の變遷

腹と口先

東京人

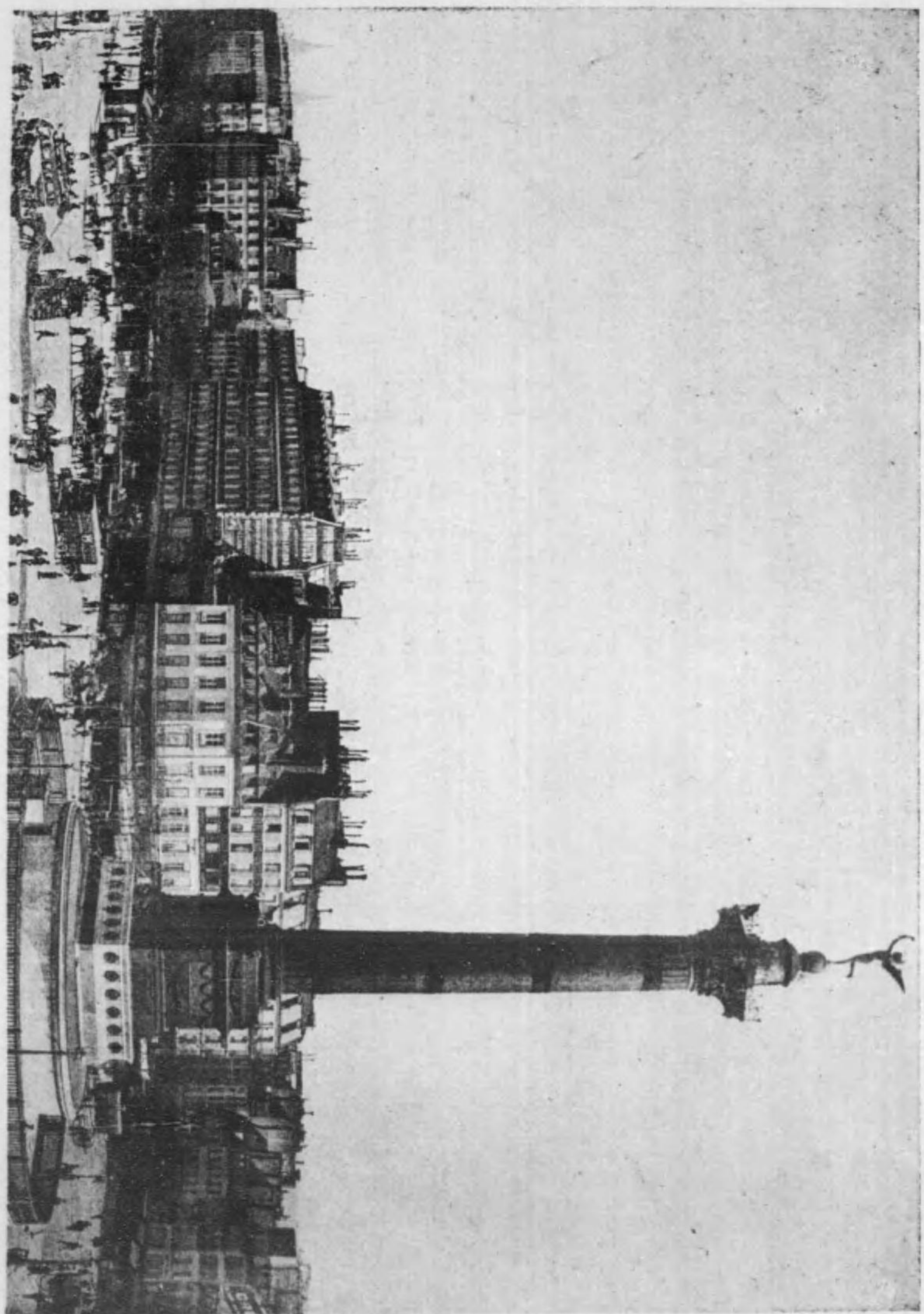
唇にさへ力がはいらぬ

且は本來は波行の子音であつたに相違ない、それが先づ以てアスピレエとなり、續いてミュエとなり、全く發音せられぬに至つた。「は」と云ふには、我々は咽喉に力を入れねばならぬ、アスピレエで「あ」と云ふには、咽喉と口先との間で極軽く「は」と云ふのである。ミュエで「あ」と云ふ時は、全く腹や咽喉に力を入れずに済む、全く口先の音となる、即ち此言語の變遷の順序は、腹に力が入ると入らざると、口先でも、言はぬと言ふとの變遷の順序である。獨り個人に於いてのみならず、國民の腹に力が入ることが段々流行らなくなつて來るやうでは、洵に頼母しからざる次第と云はねばならぬ。東京人が唇の先で「し」とつ「つ」とか「し」と「人」はとか言ふ、是れ既に「ひと」と言ふの比へて、發音が頗る腹を遠ざかつて、口先の方に次第に移りつゝある證據ではあるまいか。同じく口先の機關を以て言ふにしても、唇に力を入れて「くわんのん薩埵」と言ふ代りに、軽く「かんのん薩埵」と言ふ、是れ既に其唇にも亦力を入れずに物と言ふ、人間が輕薄になつた確證である。斯の如くにして、アアヴィングが「ウエストミニストル寺觀」の散文詩で述べて居るが如く、斯くして人は過ぎ去り、國は過ぎ去り、而して世は移り行く。佛國の言語と、歐羅巴の極東所謂亞細

其十六、
巴里の二
焦點

凱旋門と
七月銅標
外と内

亞の、一、部、と、云、は、る、所、の、言、語、と、を、比、べ、て、我、輩、は、亦、此、歎、な、き、に、し、も、非、ず、て、あ、る。
併しながら巴里は實に良い處である。巴里は一つの楕圓に較ぶべく楕圓には二つの焦點がある。巴里の二焦點の一つはブラアスドレトワアル、今一つはブラアスドラ・バスチュである。ブラアスドレトワアルには有名なる凱旋門立ち、ブラアスドラ・バスチュには有名なる七月銅標が立つて居る。凱旋門は佛蘭西民族の一世の怪傑那波崙が、歐洲否、全世界を震撼せる、其偉大なる功業の記念にして、七月銅標は、佛蘭西民族が内に向つて斷然たる自由の新天地を創設せる其記念である。ブラアスドラ・バスチュは、舊と國事犯の牢獄を以て有名なるバスチュの建つて居つた所で、自由主義の革命に於いて之を打壞し、其跡に建てたのが彼の有名なる七月銅標である。凱旋門は其名の示す如く、星の辻、即ち十二條の大なる街衢の集ふ所で、巍然として天空に聳え、其兩翼のバスレリイフに於いて、其弓形の中に彫まれる、オオステルリツ、ワグラム、イエナ以下、佛人の赫々たる大戦捷を奏した其古戦場の名に於いて、如何にも佛國人の偉大を語る所の、世界に誇るべき一大記念物である。巴里に遊び、凱旋門に登臨し、更に東南獄屋が辻に七月銅標を仰望するとき



佛蘭西國。巴里。

バスチユの辻。

七月銅標。

社會教化
上の價値

は實に佛蘭西人が一個不朽の國民たることを知ると同時に學校の教育に於いてはいざ知らず社會教化に於いて如何に佛國の經世家が深く心を用ゐる所あるかを知るに充分である。新造我國の如きは未だそれ等の點に於いて何等施設する所無きのみならず往々電車の直行の都合とやらで歴史上の記念物までもほとんど打壞すが如きはハイカラを以て名ある經世者としては頗る愧づべき事であらうてないか。遮莫佛國民族は過去に於いて實に偉大なる民族であつた將來に於いて固より此偉大を繼續する事が出来ぬといふ次第ではない。要するに識者出て僞英生じ而して國民は其指導に従つて勵精一番せば國運の恢復必ずしも期し難いとせぬであらう。

四 佛國の地方生活及農民

佛國を觀察する者往々巴里を視て而して地方を視ずこれは如何なる國の觀察としても甚だ譽むべき事ではないが殊に佛國の如き獨り佛國の中央大都會たる

地方觀察
の必要

のみならず併せて亦世界の中央大都會たる巴里を其國の首府として有する所に在りては斯かる觀察法は最も恐るべき誤謬に陥ること無しとも限らぬ。佛國の自治村は之を觀察するは頗る興味あることであるが我輩が先年一ヶ年半餘滞在して居たサンクルウと多くの關係を有するセイヌ・エ・オワアズ州のリュエイル村の視察談を茲に少しく語らう。

リュエイル村

リュエイルはサンクルウより更に二里餘を隔てたる一農村で、人口一萬二千四百外兵士五百、エコオル・サンニコラスの寄宿生五百、是は私立小學で、巴里から來る者が多いのである。住民は小さな土地所有の小農、洗濯屋及び巴里の工場に通ふ職工が若干居る。人口の増加は極めて緩徐にして、且餘り移住に依る變動も無い出生率も亦甚だ低きこと、佛國の普通と同じである。經濟は年費三十萬法、村債も若干あり。村役場には婚姻室あり、儀式堂あり、千八百七十年の戦士會、消防隊、農會、共濟組合、及び音樂會等、孰れも其會の旗を有し、之を村役場に保持してある。村役場の役員は、村長一人、助役二人、村會議員二十七人、孰れも名譽職である。村會議員は直接選舉被選舉權は二十五歳以上、選舉權は二十歳以上、是は寄留者にも及ぼす。

營造物

村會議員より互選する委員會は、財務委員會十人乃至十五人、工作委員の數は右に同じく、學校委員會も亦同じく、儀式委員會十人乃至十二人、衛生委員會右に同じく、其の他稅務委員あり、收入役一名、是は村稅のみを取扱ふ。書記長一人、書記一人、戶籍吏一人、巡查一人、これも村吏である。選卒、治安係五人、刑事係二人、憲兵五人、是は陸軍の役人である。外に小使二人以上が即ち役員の總數である。村役場の内に治安裁判所の出張所あり、毎週水曜日に判事が出張して來る。

右の千八百七十年戦士會は、尙武の精神を鼓舞するを目的とする。消防隊は消防機一臺を有し、村の住民三十人から組織する、其隊長は中尉、下に二人の下士が居る。村内に小學あり、幼稚園あり、小學校は生徒五百四十人、外女子小學校は生徒五百人、此校では校長は婦人である、設備甚だ美ならず、教室に今尙直立の刑罰を科するのを見た。全然無月謝で、一年の經費三萬法。小學には校友會あり、教育射撃及び運動を目的とする。此會の所有として極めて短距離なる射撃場があるので、二百米突以上の本式なる射撃場は、近くモン・ヴァレリアンなる陸軍射的場を借用する、之には村及び國の補助がある。外に幼稚園あり、圖書館あり、村立養老院あり

農會

之に入院者、女二十二人、男八人、外、貧しき親が病院に在る爲收容せる三人の小兒が居る。院長は一人、尼僧、監督二人、厨主一人、園丁一人が居る。私立病院あり、千九百三年タタと云ふ米人が寄附して建てたもので、外來も入院も共に純然たる施療である。床の數二十四、院主は英國婦人、其外醫員、藥劑士等が出動する。此村の最も見るべきものは、農會で、而して是は佛國の村落に於いての最も注目するものである。本村農會々長ルセルフ氏の宅を訪うて種々話した、氏は純然たる農夫であるが、家は頗る富めるらしく、野菜の改良の新しい種子などが、氏の名ルセルフと云ふ名稱で世界に通る物もある。農會は、其目的、害蟲驅除、農具機械を共有し、且共同使用すること、農業上の作物に於ける病氣の治療、肥料の改良、肥料の共同購入を目的とする。但し佛人の大缺點たる持久の精神、共同の精神の缺乏から、未だ大に實績を擧ぐる程には至らぬ。且つ共同販賣は、機運未だ到らず、各の農業者は、種々の物を銘々て作り、銘々が之を外國にまで販賣する。此農會は、別に金庫を有し、道路修築、耕地整理を爲す、年々二三千法の資金は、道路の爲に投ぜらるる、尤も是は耕作地の道路である。斯くて二十五年許り經つと、五米乃至五十米以

地方に
一歩踏
み出
せ
華と實

上は、畑を歩むこと無いやうになる計算である。この金庫の資金は、重に狩獵料から入る、佛國では、道路で狩獵することは法律で嚴禁してあるが故に、必ず地主に狩獵料を拂はなければならぬことになつて居る、此料金が、即ち農會の金庫の資金となるのである。農會の役員は、會長一人、幹事二人、會計二人、評議員八人乃至十人、此評議會は毎月開會する。會費は六法、其他財源は、名譽會員の寄附金、狩獵料及び州の農業金庫よりの補助である。今や村の農民の殆ど總數は此農會員となつて居る。併し農會は未だ試作地を有するに至らず、又會場を有せず。さて農會とは別に、家主會及び地主會がある。斯の如くにして佛國の地方に踏出すこと一歩なれば、既に巴里とは全然趣を異にし、而も勤儉貯蓄は彼此共に一率であるが、其生活の状態は全く面目を異にして居る。農民は實の代表者であり、都會は華の代表者である。佛國の國民生活は實に華の勝つた生活であるが、併し尙佛國の全體に於いては、斯の如く豊富なる實があることは、佛國を觀察し、佛國の運命を談ぜむとする者の斷じて見通すべからざる所である。况や近時の文明社會の憂ふべき短所として屢々擧げらるる、都市人口

佛國は頗る田舎の都部住民の比

の集中に於いては、首府を除くの外、餘り大なる都會を有せざるの點に於いて、其國悲觀論者の慨歎せる佛國は、此弊の尙少きものあるのて、即ち佛國に於ける田舎の勢力は、其分量上の關係より、之を他の國々に比して、今尙頗る著しきものがあるのである。第十九世紀末に於いて、人口二十萬以上の都會の住民の、一國人口總計に對する百分比例は、英國は二十四・七、和蘭が二〇、丁抹が一六・三、米國が一四、佛國は一〇、獨逸が九、以太利が八、日本が七、五、白耳義が七、五、葡萄牙が五、九、埃匈國が五、二、土耳其が四、五、西班牙が四、三、ルウマニアが四、二、瑞典那威が四、露西亞が三、六である。若し人口一萬以上の都會を以て云へば、英國は五、四、五、和蘭が三、八、三、獨逸が三、〇、米國が二、七、八、白耳義が二、七、三、佛蘭西が二、四、丁抹が二、二、七、以太利が一、七、三、瑞典西が一、六、七、西班牙が一、六、五、瑞典那威が一、四、七、日本が一、四、五、希臘が一、三、六、埃匈國が一、三、五、露西亞が一、二、二、葡萄牙が九、五、ルウマニアが八である。實に佛蘭西は、若しも巴里を除くならば、二十萬以上の都會の人口に於いても、日本より低くなることは明白である。乃ち佛國に於いては、今日の世界文明國の中で、割合に偉大なる勢力を有する地方人民、農民の狀態は、其國運を論ずるに於いて極めて注意を要する。

葡萄酒の國、牛乳の國

所のものである。佛國は葡萄酒の國である、否、牛乳の國である、而して牛乳と云ひ葡萄酒と云ひ、決して皆都會に於いて生産せらるゝに非ずして、悉く地方のみの生産物である。曩に擧げたる葡萄酒及び牛乳の商賣高を以てするも、農民が如何に大なる役目を國運の上に働いて居るか、分るであらう。唯、人口減衰の問題に關してのみ、佛國人は農民と雖も、文明過開の弊を今や呈しつつある次第である。

五 將 來

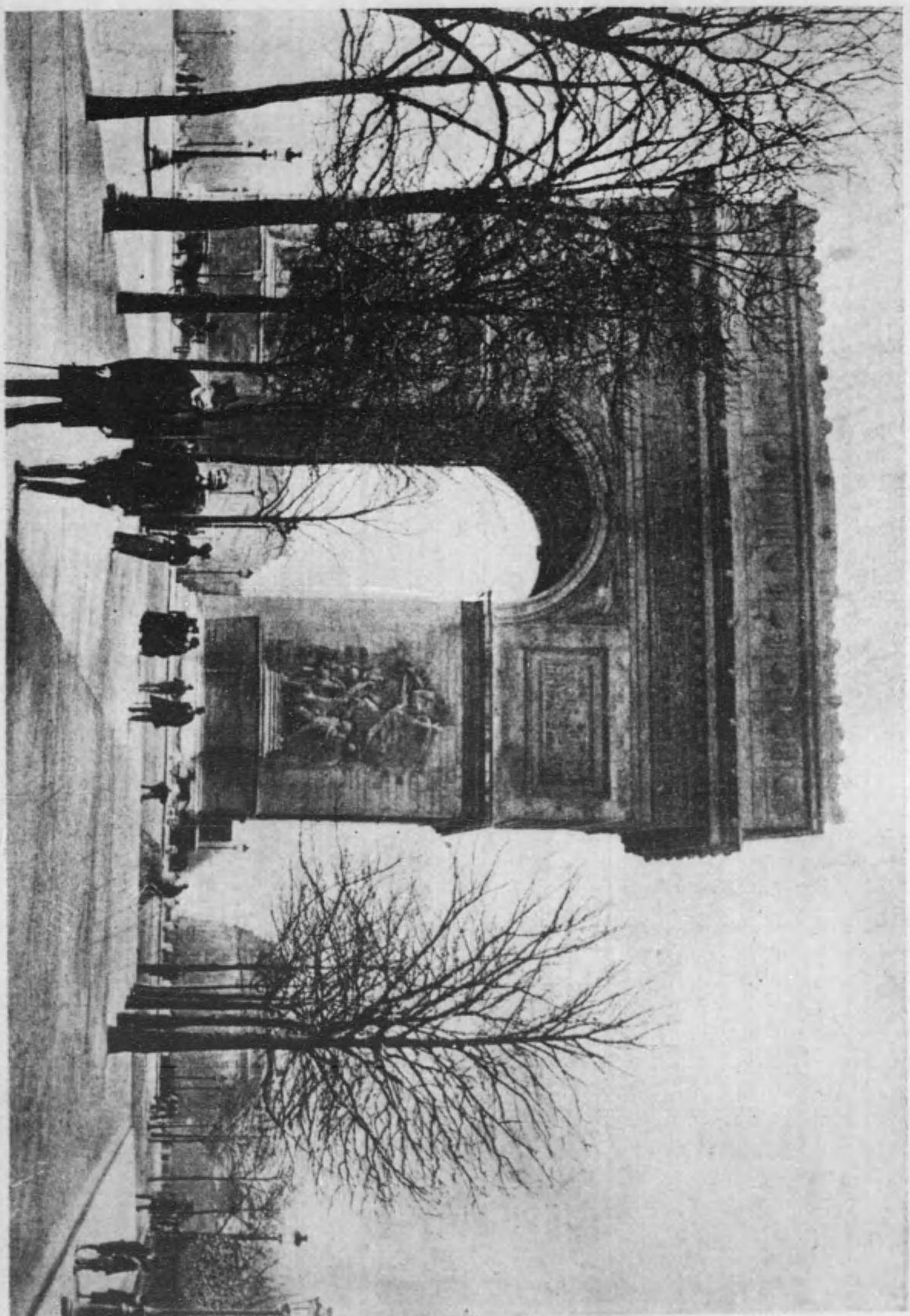
佛國は大國である、佛國民は偉大なる國民である、佛國の文明は燦然たる文明である。佛語は實に世界の一流語たるの特權を有し、日刊新聞、ブチ、パリ、ジアンは百二十萬、世界第一の發行數を有する。此佛國が今や或は國運の一頓を見むとするは、世界の文明の爲に併せて我々の與國の爲に、幾分遺憾の情を以て迎へねばならぬ現象である。佛國を救治して、其本然的發展の徑路を再び趁はしむるは、實に佛國に取りての問題たるのみならず、併せて亦世界の進運に取りての大問題である。

佛國救治策

是に於いて我輩は聊か佛國の將來の爲に、佛國救治策として、二三の管見を提出しやうと思ふ。

遷都論

佛國を其一頓せる國運より救治するの第一策は遷都である。乃ち佛國は宜しく中央政府の所在地を、巴里より遷して、天下の耳目を一新し、巴里の中央集權、巴里の都會集中より生ずる政治上、社會上の弊害を軽くすることを圖るべきである。佛國の地勢及び人文より既に縷々詳論せる所に依りて明かなるが如く、佛國が巴里の佛國であるといふ事態が繼續する間、佛國が今日の國運を其儘續け行くの外、の無いことは明々白々なる次第である。而して巴里に於いて、佛國が誇るべき多くの物を有することは、言ふまでもなく大なる事實であるが、併しながら巴里に於いて、佛國は亦悔むべき多くの事を有することも、亦是れ同様争ふべからざる事實ではないか。况や巴里以外に、佛國の精神たり、佛國の富たり、佛國の勢力たる農民、地方生活、地方社會、然も歐洲列國の孰れにも譲らざる所の、其分量に於いても大なる地方なるものが控へて居るではないか。巴里も固より佛國の一部たるを妨げざるも、佛國をして眞の佛國たらしめむと欲せば、主として之を地方の佛國たらし



佛蘭西國。巴黎、
凱旋門。

前に立てるは時の大統領フェリックス・フォオル氏。

實地教育
の獎勵

充分にコ
ムトを尊
敬せず

めねばならぬ。地方の佛國、附たり佛國の巴里斯の如くにして佛國は眞の昔時の
隆運に蘇生することが出来るのである。我輩は佛國の爲に策するに於いて、先づ
第一に遷都論を掲げて佛國經世家の參考に供するの已むを得ざるを感ずる。
第二策は、實理的科學的教育の獎勵である。併しながら此事に對して佛國人は
必ず言ふであらう、君の言ふ實理的と云ふ言葉は、誰が發明した言葉であるか、我國
のオオギュスト・コムトが發明した言葉ではないか、我國は實理的科學的教育に於い
ては、實に歐洲列國に先だちて一日の長のあることは、君と雖も知らぬ事は無から
うと。如何にも實理的、ポジチイヴといふ言葉はコムトの發明である、併し、コムト
は佛國に出てたりと雖も、佛國は未だコムトを充分尊敬する事を知つて居るかど
うか、甚だ覺束ないのである。併しながらコムトを尊敬するや否やは問題でない、
今日實理的といひ、科學的といふと雖も、局面一變の策を學風の全局面に對して講
ずるに非ずんば空漠たる概念に於ける實理的、教育科學的教育を掲ぐるも、所詮何
の見るべき無き結果に了る次第である。我輩は今佛國に向つて實理的科學的教
育を勸むるに際し、更に具體的の一案を呈しやうと思ふ。それは如何なる方策で

あるかといふと、東洋學の獎勵である。東洋の學風の獎勵である。哲學研究の如きに於いては、西洋の哲學は、必ずしも特に之を研究せずとも、既に西洋の人心に行渡つて居る事であるから、是等は第二的地位に引下げ、大學若くはコレージュ・ド・フランスに於いて、若しも哲學を研究する場合があるならば、第一に東洋哲學就中支那日本の哲學を研究すべきである。我輩は、此策を國風維持的なる實際家的なる、ちみなる英國人に對しては提出せぬ、亦保守的なる、唯我獨尊的なる獨逸人に對しては之を提出せぬ、惡く云へば突飛の誹りを受くるまでも理想的なる、活動的なる、而して善に従ふこと流るゝが如きを特色とする佛國人士の前であるから、我輩は亦斯の如き、取つて置きの方策を提出するのである。

第三に更に進んで佛國に勸むべきは、宜しく進んで日本と同盟すべきの策である。但し是は國際上の事態に關するの、我輩は天下の誤解を避くべく、敢て茲に數言を費すの自由を取らうと思ふ。成程我日本は貧乏である、資本に乏しい、佛國は富んで居り、資本の過多に苦んで居る、故に御爲ごかしの外交策論を述べて、名を佛國の爲、佛國將來の爲、佛國國運の救治の爲に藉り、日本と同盟せよと勸める者と

認められては、如何に貧乏國民の日本人とは云へ、甚だ情けなき次第と云はねばならぬ。我輩の敢て佛國の爲に、日本と同盟すべしと言ふのは、第二項の方策を實行し、佛國の人心を一新するが爲に、必要缺くべからざるの策として、勸めするのである。乃ち此同盟は政治的に非ず、此同盟は固より經濟的に非ず、此同盟は實に文明的同盟でなければならぬのである。凡そ國と國との同盟と云へば、幾分政治的色彩を帯ぶるを免れぬ、極めて些か經濟的色彩を帯ぶる事も、是れ亦止むを得ぬかも知れぬが、眼目は經濟や政治に存するに非ずして、實に文明を主とする文化を主とする所の同盟であらねばならぬ。佛國にして、苟も日本の文化に對して自らに向つて新たな生氣を吹込まむが爲に、同盟を希望するならば、日本國民の一人として、我輩は彼此の間に、斡旋の勞を執ることを躊躇せぬのである。而して斯の如き方法に依て、佛國に一種の社會的血清療法を施すことに於ける成功の存すべきは疑を容れぬのである。斯の如きの議論は、我輩は之を英國人之を獨逸人の前に提出しやうとせぬが、善に従ふこと流るゝが如き天下獨得の美質を有する我佛國人士の前であればこそ、進んで斯かる卑見を陳述する次第である。

第四策は、外観的の諸の事項を一切廢止する事である。此事は少しく消極的であるが、併し人心を新たにせむとする者は、此位の覺悟がなければならぬ。例へばロンドン展の廣野に於ける、七月十四日の共和國大祭に於いて、我輩は、千九百年、その觀兵式をトリビンの座席より觀覽したことがあるが、其軍隊の訓練の成績が、必ずしも理想的と云へぬのみならず、妙齡の婦人が金切聲を振上げて、「ヴィッラルメエ」、「ヴィッラルレビブリック」と叫ぶが如き現象は、必ずしも國運の長久を物語るものとは聞えぬのである。觀兵式既に廢止すべしとせば、我輩の所謂外観的諸事項なるもの、範圍は、大抵是で推察出来ることと信ずる。

第五策は、賭博の禁止である。是にも亦一言を費すならば、競馬を首めと云ふ一旬を附加へた、其他は之より類推せらるべきである。

第六策は、皆兵主義の實行である。三國同盟に對する二國同盟は、兵數に於いて動もすれば不足する所から、佛國は今、獨逸、埃太利は勿論、以太利に比しても將に劣らむとする所の人口を以て、無理算段をして兵士を募集しつゝある。既に亞弗利加土民兵を加へたる佛國現今の軍隊を以て、蠻族、地方鄙人より成れる羅馬の軍隊

に比する學者もある。その上に皆兵主義と言ふは如何にも無謀の如く聞ゆるが、我輩の謂ふ皆兵主義は、佛國民は其階級職業の如何を問はず國民皆兵と云ふ覺悟を成すべしといふこと、即ち瑞西に於いて見るが如き此主義の實行を意味するのである。佛國は宜しく兵役稅を新設し、凡そ直接兵役に従事するに非ざる限り、如何なる男子も皆兵役稅を納め、即ち兵役の貴重なる義務は、國民全體が之に當ると云ふの主義及び實際を明かにすることを要する。

第七策は、財産に對する方策、人口減衰を來たすが如き原因の省除の爲に、乃ち相續稅の遞減法を設定することが必要である。例へば一人の財産を一人に相續せしむるときには、高き率の相續稅を課する、二人に分つときには其の率がずつと輕減する、三人に分つときは、更に遙に輕減するといふが如き相續稅に於ける一種の遞減稅率法を設定することは、佛國の財産上より來る人口減衰を救済するに頗る適切なるものであらうと信ずる。

以上我輩は稍、書生の空論に類するの嫌ひを冒して、佛國將來の爲に、佛國國運の救済の數策を述べた。佛國人は實に天下の書生的國民である、書生の趣味を最も

世界列國の大勢
よく解し空論の趣味を最も能く解する者は天下唯我輩と佛國人士諸君とあるのみと言はねばならぬ。然らば則ち我輩の書生論我輩の所謂空論は亦佛國に取つて多少對症の藥を投ずるものであらうと信ずる。若しも現在の儘で進み行くなれば我輩は恐る佛國は遠からず第二流國若くは第三流國に墮したるに至らむことを。

嗚呼、今日に於いて支那に於ける東印度に於ける佛國の勢力は言ふに及ばず亞弗利加の對岸モロコアルジェリイ等の佛國の措施は外交上幾多の波瀾ありとは云へ實に振はざること夥しといはねばならぬ。而して現今佛國の對外活動は單に此二方面あるのみに過ぎぬてはないか。佛國たるもの遠く眼を外に配ることを休めて宜しく心を内に役すべきの時代に今や臨みつゝあるのである。

第十三 歐洲に於ける猶太人

一 人口

猶太人は歐洲の各地に擴まり到る處猶太人に對する嫉視反目の光景を目撃する次第であるが其人口即ち數量上の分布に於いては著しき違ひがある。大體から云ふと猶太人問題の最も盛なるは獨逸民族の國歐羅巴の中央部に於いて在るので其以外は餘り甚だしき大なる數に上つて居らぬ。少しく古い統計であるが千八百九十年に於ける猶太人の人口を見ると實に左の如き數を示して居る。

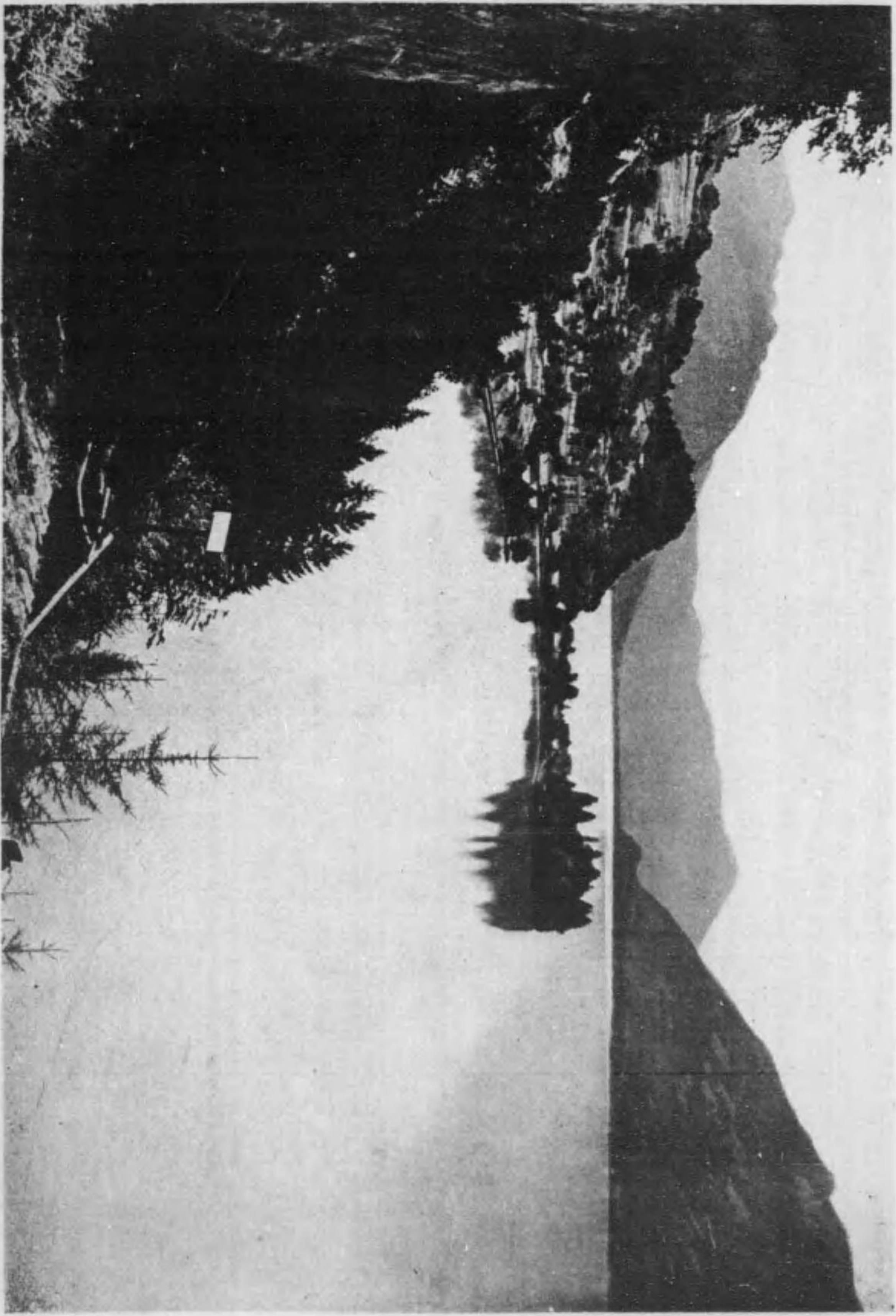
獨逸 五六七八八四

奧太利匈牙利 一八六三六四〇

ルウマニア 四〇〇〇〇〇

歐洲に於ける猶太人

三六



世界列國の大勢

露西亞	三六〇、〇〇〇
和蘭	九七〇〇〇
土耳其	八〇〇〇〇
佛蘭西	一二五〇〇
英吉利	五〇〇〇〇
以太利	四六〇〇〇
ブルガリア及び東ルウメリア	四〇〇〇〇
其他の歐羅巴	二四〇〇〇
亞米利加	一〇〇〇〇
亞細亞	五〇、〇〇〇
亞弗利加	二八、六〇〇
濠洲	二九、六〇〇
全世界總計	二、〇〇〇
	七四〇、三〇〇

一説に曰はく

瑞西國。

ブリエンツ湖畔の山色水光。

イゼルトワルド邑。

一九一〇年四月十九日、この水をおたると、

山深く、春淺し。

猶太人の
消長

概略右の數を示して居る、此比例は今日に於いても餘り多くの違ひは無い。さて獨逸に於ける猶太人の數は、獨逸の總人口に對して幾何を示すかと云ふと、千八百七十一年には、總人口一萬分の百二十五、千八百八十年には百二十四、千八百八十五年には百二十、而して右の千八百九十年の數は實に百十五を示して居る。同様に人口一萬中の猶太人の數を擧ぐれば、ルウマニアが七百九十人、奧太利か四百八十人、匈牙利が四百二十人、露西亞が三百七十人、和蘭が二百二十人、土耳其四百八十人、ルガリア八十人、佛蘭西十五人、以太利十三人、英國十二人をして居る。即ち獨逸總人口の發達に比して、猶太人の人口の次第に比例的に減少しつゝあることは明かである。

凡そ斯の如き分布の状態に就いて見るも、猶太人に對する、或は國民、民族との嫉視、反目、或は各種の社會的人種的現象等が、獨逸、奧太利、及びルウマニア、要するに歐羅巴の中央の北より南に向ひて劃する一線に沿ひたる地方に最も激烈なることは、容易に想像せらるゝのである。

二 排猶太人主義及チオニスムス

アンチ
セム
ス

此主義の
國會議員

此主義の
主張
第一

第二

斯の如く、凡そ人口の大數なる所には、隨つて勢力も亦其大を加へる。猶太人の人口の多い地方は、猶太人の勢力の大なる地方であり、勢力の大なる地方は、即ち排猶太人主義の盛なる所である。されば獨逸、奧地利、匈牙利、露西亞、巴爾幹、佛蘭西に於いて、此主義は最も盛である。是に於いて、千八百八十年より同八十五年に至るの間に、右の主義を標榜せる各種の協會が起り、而して千八百八十七年には、排猶太人主義の國會議員が初めて獨逸に、一名の當選を見るに至り、其數千八百九十年には、増して五人となり、千八百九十三年には更に十六人となつた。

抑、猶太人主義の主張は、大體左の如くである。第一に、猶太人の各國に於いて公職に就くことを制限する、即ち一般に官吏となることに就いては多少の制限を爲し、軍人となるに於いてもまた多少の制限を爲し、教育者となるに於いても、亦頗る嚴重なる制限を爲さむと試むるのである。第二には、來住の制限である、即ち猶太

第三

第四

第五

人が外國より來りて一國に移住せむとする場合に、之を受け容るゝに於いて、他の各國民族に對するよりも遙かに嚴重なる制限の下に、纔に之を許容せむとするのである。第三には、猶太人の勢力を削減し、其古に復らしめ、やうとすることである。千八百六十九年六月三日獨逸帝國法律に、宗教區別に依る公權、國民權の制限は之を廢止す、殊に町村及び地方の公職に就くの權は何等宗教に制限せらるべからずとあるにも拘らず、此法律を廢止し、此法律の公布以前の如く、猶太人の公職に就くのを制限し、公權、國民權の制限を試みむとするのである。第四に、限地居住の許可である、即ち一國の中、某々の都會に限り猶太人の居住を許し、其許されたる都會に於いても、某々の字、某々の町に於いてのみ猶太人の居住區域を設定し、猶太人の居住區域以外に旅行せむとする者は、嚴重なる届出を爲し、且つ一定の許されたる期間以内に其土地を立去るべきことを、必要條件として嚴密に厲行するの類である。斯の如きは、最も露西亞に於いて嚴烈に實行せられて居る所である。第五は、職業に對する制限である、例へば藥劑師、若くは銀行事業に非ざれば、他の各種の人間接觸を目的とするが如き職業に従事することを得ずとするの類で、是れ亦露西亞

歐洲に於ける猶太人

究竟の趣

此主義の
動機
第一

に於いて頗る厲行せられ随つて名を藥劑業に托して實は各種の營業に従事するが如き弊害が尠くないのである。

斯の如くにして猶太人の職業權利を制限し猶太人に對して各種の社會上の不平等なる待遇を與へむと期するのが排猶太人主義の當面の主義で而して其究竟の趣旨は成るべく猶太人を一定の面積より成立せる特定の國家社會の裏より省き去らむとするに存するのである。

併しながら排猶太人主義の動機を吟味せむが爲には我々は更に仔細に立入つて觀察する所なければならぬ。凡そ排猶太人主義の動機は大體四つある。其第一は、一般人間に固有なる殊に歐洲民族に固有なる異教排斥の感情である、即ち異なる宗教を奉ずる者に對して仇讐も管ならざるの感情是は歐洲基督教民に特に最も著明なる且普通なる一種の病的感情である。蓋し何人も斯かる感情を多少保有せざる者無きは宗教其者の極端なる主觀的性質から論理上にも避くべからざる必然の結果であるとは云へ、歐洲人に於いての此感情の發現は殆ど病的を以て目せねばならぬ程度に進んで居る。斯かる歐洲人の間に全然異なる宗教を奉

第二

じて介在せむとすることであるから猶太人が歐洲基督教徒より排斥せられ迫害せらるゝに至るは止むを得ざる次第と云はねばならぬ。第二は異人種憎惡の感情である。此感情は亦如何なる人種如何なる人間にも存する而して我日本人の如きは此感情に富める點に於いては必ずしも歐洲人の下に出でざるの名譽を有する。併しながら歐洲人も亦此感情に於いて決して異教排斥感情の猛烈と差引勘定すべき程輕き程度に於いて在るものでない。彼等の異人種を排斥するは支那人のそれにも似て自らは文明人と號し他の人種をば東夷西戎南蠻北狄といふ感じを以て視て居る。斯の如き類似の心理的偏向を有する歐洲人の間に介在する猶太人は實に不幸である。第三は富に對する嫉妬の感情である。人は多く富智及び名に於いて己れに優る者を許容せざるの感情を有する而して修養に乏しき殊に異教排斥を必ずしも惡事とせぬ所の耶蘇教に依て修養せられたる歐洲人の富に對する嫉妬は固より避くべからざる事で不幸にして猶太人は多く此嫉妬の目的物たる富を有するに於いて概して各其居る所の國の固有の民族に優ること數等である是に於いて富に對する嫉妬は亦猶太人の歐洲諸國に流浪

第三

排猶主義の生成

チオニスム

するに於いて不幸なることの原因の一つを供する。第四には後天的劣等性格に對する嫌忌の感情である。猶太人は固有の宗教を奉じ言ふまでもなく固有の人種に屬し、而して又殆ど固有とも謂ふべき富に對する大なる成功を爲して居ると同時に、又後天的の取得生成とは、云へ、一種の劣等なる性格を有することが往々ある。此猶太人の後天的に得來れる一種の劣等性格は、之を嫌忌する方が先づ以て正當とせねばならぬもので、斯かる劣等性格の爲に、猶太人が歐洲各國民から嫌はれつゝあることは、是は猶太人の方に責があると云はねばならぬ。

凡そ右の四種の感情、其理非曲直正邪は暫く措いて、是等の感情の合成より、猶太人と各國固有の民族とは、到る處極めて不良好なる關係に於いて相駢んで生活して居る。而して其發する所乃ち排猶太人主義となり、而して猶太人の状態は、志士一點の同情を値するとは云ひながら、益々慘憺たる状態に沈まむとしつゝある。

是に於いて猶太人中にも亦考のある人々が、一種の計畫を生ずるに至つた、是れ即ちチオニスムの計畫である。猶太人がかゝる不幸なる境遇に在るのは、猶太民族の社會國家を成すべき一定の國土を有せざる事が、抑根本の弱點缺點である。

土地を興へられぬ民なし

といふことに氣が付いて、猶太人の大なる富を以てして一定の土地を買ひ求め、此處に國を建て、生活することにしたならば、甚だ便利である。此慘憺たる境遇より、猶太民族の現在及び將來の運命を作り出だすには、之を措いて策無しと考へたのである。

併しながら、凡そ天蒸民を生ず、地球上に民族が生じて居れば、本來は必ず其占有に屬する所の土地があつたのである。猶太人も、實に曾ては二千年前、亞細亞の西方に於いて、極めて繁榮なる國家を成し、極めて幸福なる國土の上に棲息して居つたのである。凡そ物は、之を壞すことは易く、之を造ることは難い、一たび失へる國土を恢復して、猶太人が一定の國土の上に、同胞民族を以て鞏固なる國家社會を形造らむとする、チオニスムの企や、甚だ可し、併しながら、其事既に太だ晚しと云はねばならぬ。

三 寄生生活

歐洲に於ける猶太人

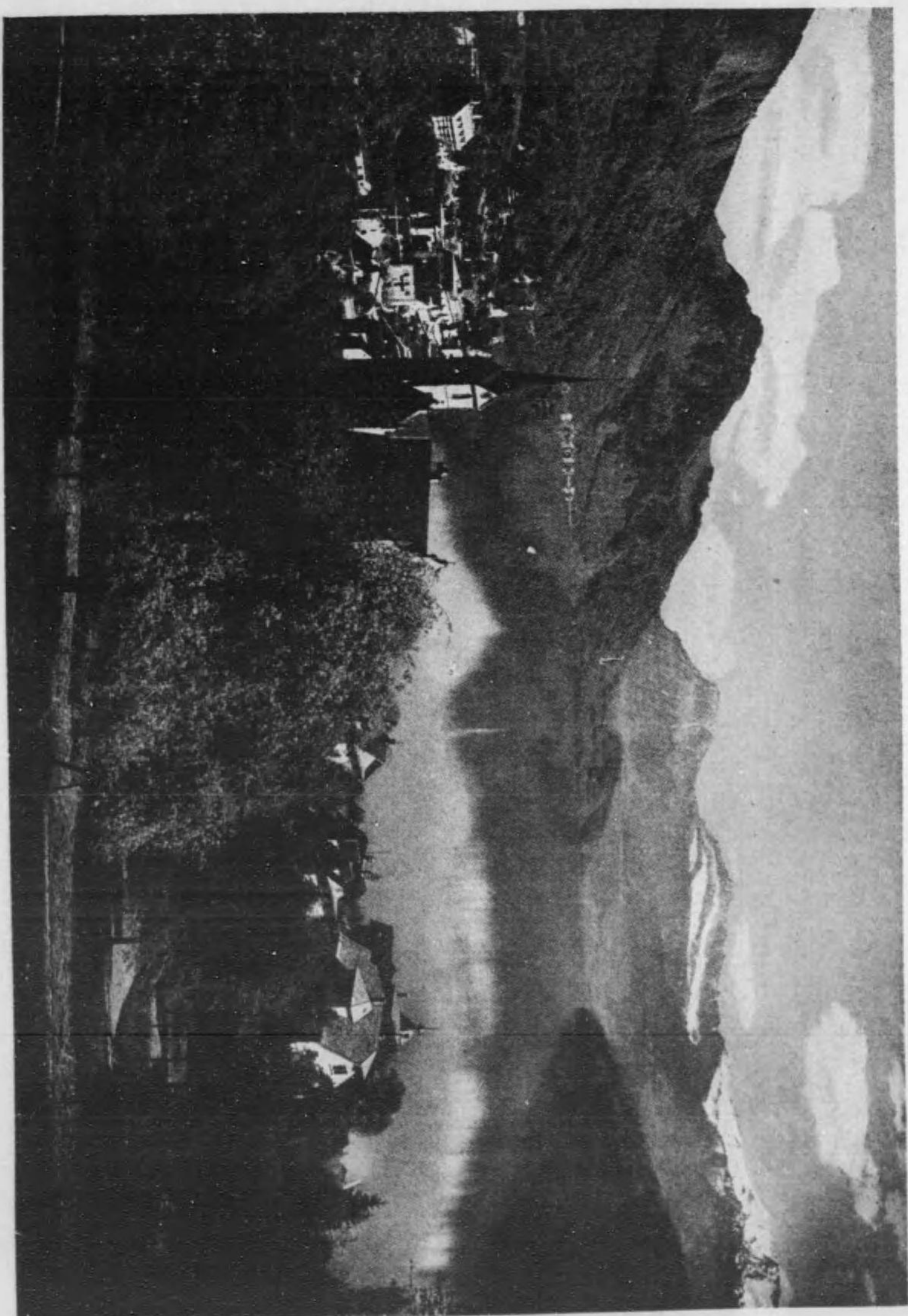
パラスチ
スムスチ
の寄生生活
の損失

の寄生生活
の利益

猶太人は、實に社會的寄生生活の最も好き標本を備へつゝある。

寄生より生ずる所の損失は、政權、公權の亡失である。凡そ寄生的民族は、自然の道理として、其國固有の民族の如く、政權を享有し、將亦公權を享有することが出来ぬ。其之を享有するは、偶、固有の民族が、自家の便利の爲に之を許容するか、若くは自家の爲に功勞ありしの理由を以て之を特許するかの場合に限る。寄生者の地位としては、當然のさまりとしては、固有民族と同等なる政權、公權を享有することの出来べからざる道理となつて居るのである。是は明に寄生より來る所の大なる損失である。

併しながら寄生生活は、斯かる損失のみを結果するものでない。寄生には、亦寄生の利益がある。諺にも言ふ如く、乞食を三日すれば廢められぬ。是は寄生生活とは、事變れども、一種の獨立喪失の生活である。他に依頼して遂ぐる所の生活である。社會的寄生生活は、實に義務の輕減、若くは責務の樂になると云ふ、少くも其本人に取つて當面の大なる利益がある。猶太人の各國社會に寄生生活を營むにも、斯かる寄生から生ずる得は、其失と共に經驗し來るので、是は寄生生活を遂げつゝある



瑞西國。

ファイエルワルドステッテル湖畔。

ウエッギス邑の春日、

李花、杏花、今を盛りなり。

湖畔偶成。

菅の根の、長き夏目を、暮れがてに、

君をし戀ひむ、と言ひし人にも、

アルペンの、高嶺の雪と、とこしへに、

とけずも人を、君戀ふらむ乎。

八森の湖、水は通へど、八重が嶺を、

隔つる雲の、行きがてにして。

十年前の拙著『西遊漫筆』

寄生的慣習

貧しき猶太人の状態
不潔と眼病

所の猶太人が、苟も人心ある者から、頗る皆同情を値すべき、慘憺たる、憫れなる生活状態に陥りつゝあるに拘らず、尙且頗るその繁榮發達を續け行く所の、大なる原因である。

凡そ社会的寄生生活の大に存する處、そこには、年所を累ねるに、隨ひ、其間に一種の慣習を發達し、隨つて一種の道德を發達する、是は假りに名づけるならば、寄生的慣習道德とも謂ふべきであらう。旅行家は、多く、猶太人と云へばいつも非常なる金満家、銀行家、資本家であるやうに、見て、猶太人と云へば、直に富に對する嫉妬の客體を聯想するが、併し、猶太人を觀察せむと欲する社會學者は、必ずや、富める猶太人と同時に、貧しき猶太人も、併せ觀るの、必要がある。是等の貧しき猶太人に就いて、先づ以て最も著しく現るゝ所の事項は、第一が、不潔なること、及び眼病の多いことである。試に和蘭のアムステルダムに遊び、猶太人の一人、哲學者スピノオザの生れたる土地、今も其住居の家の保存されある邊りの町々を探つて見ると、此邊は即ち猶太人の巢窟で、而して其狭く、紆曲せる、而して餘り清潔ならざる街道に遊びつゝある子供、中供、大供が、兎角に眼病の多いことに注意せず居られぬ。其光

歐洲に於ける猶太人

第一

景は、恰も我國の奈良縣下、夙の村落、穢多の里落たる、某々村某々大字を見舞ふをりと極めて類似する感じを與へる。

寄生的慣習道德の著しき事共の、一。は無恥と云ふ點に在る。蓋し寄生的生活を營む所の民族が、初めから何等の羞惡無き、廉恥無き民であつたのではないのである。われ、恥づる、あらむとするも、人、我をして、恥ぢしめず、蓋し人は人以下を以て我を待遇するので、其平常居かるゝ所の境が既に甚だ低いからである。斯の如く、廉恥の心、羞惡の心あるも、廉恥、羞惡を實現する機會が、殆ど我より奪はれ、去つて居る所から、斯かる境地に居ること日久しうして、遂に、全く、羞惡無く、廉恥無き、民族の精神状態を化成するに至る。斯の如きは、實に後天的劣等性格の著しき一つである。

第二

寄生的社會生活より生ずる第二の特性は、僻みの多き事である。即ち他人の我に對する態度言語等に對し、左程でなきものを、甚だしく惡意を以て解釋する。又他人が未だ我に對して何等の言動を表さざるに對しても、業に既に他は我を輕蔑し、若くは我を迫害するものと誤解して、他が我に對して、惡意無きに、我先づ、他に對して、惡意を以て之を迎ふるに至る。斯の如き僻み、斯の如き誤解の裏面として、陰險

第三

がそれに伴ふ所働的には、僻みとなり、能働的には、陰險となる。既に陰險なる性格を發揮するに至れば、之に對する者は彼を危險視せざらむと欲するも得ず、是に於いて彼は益、社會に於ける立場を狭くし、殆ど正當なる理由の下に、他より排斥擯斥を受くるの止むを得ざるに至る次第である。

寄生的慣習道德の第三點として著しきは自我主義である。斯の如く羞惡無く、廉恥無く、僻み多く、而して陰險にまで至るを餘儀なくさるゝが如き境遇に在る者は、勢ひ亦自我主義極端なる自我主義に於いて、自家究竟の安立の地を求むるに至る。近く其例を取るならば、階級に於いては我國の穢多職業に於ける高利貸の如きが即ち此類で、所詮、世人には對手にせられず、世人よりは極めて冷酷なる待遇を受ける、其原因が我に在るが爲なると、我に在らざる事の爲なるとを問はず、事實斯の如き境遇に在る者は、究竟極端なる自我主義を發揮して、是に於いて多少の自我實現の満足を求むるの外は無いのである。「金色夜叉」の間貫一が極端なる怨恨の結果、高利貸の番頭を以て畢生の事業と爲したといふが如きは、這裏の消息を語り得て詳なるもので、社會的寄生生活を營む民族の自我主義の説明として、甚だ適切

第四

なるを感ずる次第である。

寄生的慣習道徳の第四に著明なる點として、茲に勤勉の美風を擧げねばならぬ。天は自ら助くる者を助くと云ふ事が不幸にして極めて暗澹たる色彩を以て實現されつゝあるのは、寄生的社會生活を營む民族の間に於ける勤勉の美風である。彼等は己れの腕に依り己れの脚の上に立ち、勤勉を以て我生を營むに非ざれば、何等の生命無く何等の慰安無く、是に於いて彼等の精力は、此種の色彩に於ける勤勉の裏に集中せらるゝ次第である。

寄生的發達

斯く擧げ來れば、如何にも猶太人の短所を爬羅剔抉して餘力を残さざるに似、いから社會批評家は、冷靜ならざるべからずとするも、如何にも酷薄なる論評を以て、獨り自ら快くするかに見らるゝ虞が無いが併しながら斯かる事實に就いて、其由つて來る所を見れば、是れ一に寄生的生活、社會的寄生と稱する學術上の一種の境遇より來る所の原因、結果の關係に外ならぬので、これが民族に對する褒貶とは決してならぬのである。故に寄生的慣習道徳が發達する傍らに、亦寄生的生活に於ける各種の社會的發達が認めらるゝ。

猶太人の成功の方面

第一に經濟界
第二に自由職業

習熟と遺傳

壓迫と恩惠との恩

凡そ政權及び公權に於いて壓迫せられ、社交上の資格に於いて輕蔑せられ、擯斥せらるゝことあるに於いては、勢ひ其纒に許されたる方向に、全精力を傾倒するは、人間生活の必至の趨勢である。是に於いて社會的寄生を營みつゝある猶太人は、先づ第一に經濟界に絶大なる精力を擧げて、業に既に經濟界の最大優者となりつゝある。第二に限定せられたる自由職業の方面に、其勢力を伸張して、是等の職業は殆ど彼等の占領に委し去らむとするの勢となりつゝある。

斯の如く、恰も空氣枕の一方を壓迫して、他の一方に空氣の充滿漲盈するが如く、本來天賦の能力に於いて、何等歐洲民族に譲らざるのみならず、恐らくは多くの點に於いて、更に進める厚き天分を有する所の猶太人は、その寄生生活の直接影響として、斯かる發達を遂ぐるのみならず、一たび此方向に向ふや、其一生の間には、益習熟を加へ、其世代を通じては、更に遺傳に依り、先天的に、或は經濟界に向ひ、或は自由職業に對する著大なる成功を爲すべき賦性を作り、斯の如くにして、斯かる寄生生活に於ける民族は、益一種特定の方面に、其勢力を張り來る次第である。乃ち猶太人は、斯かる特定の方面に於いて、専門的造詣を深うし、専門的勢力を張るに至り、又

現在及び將來、益々張りつゝ、若くは張らむとしつゝある、その原因の、一つは、確に各國固有の民族の猶太人に對する壓迫と迫害とに存するものと覺悟せねばならぬ。猶太人をして、或は財界、或は自由職業界の優者たる、特別優尙なる地位より平凡なる地位に復歸せしめむと欲せば、歐洲各國固有の民族は、先づ其強き壓迫の手を緩め、先づ其激烈なる迫害の絆を紓ぶることを、先決條件とする。

四 職業の偏向

猶太人の職業は、右の如き關係上より益々制限せられ、又益々偏向的發達を爲しつゝある。

普魯西にては、陸海軍士官、一般中學教師、高等行政官及び司法官たることは、猶太人に向つて鎖されて居る。同じく教育界學術界に於いても、大學教授となることだけは、何等差支なきこととなつて居る、故に猶太人にして、大學教授として盛名ある碩學も、尠くない次第である。

職業制限の實例

新聞事業

奧國

伯林

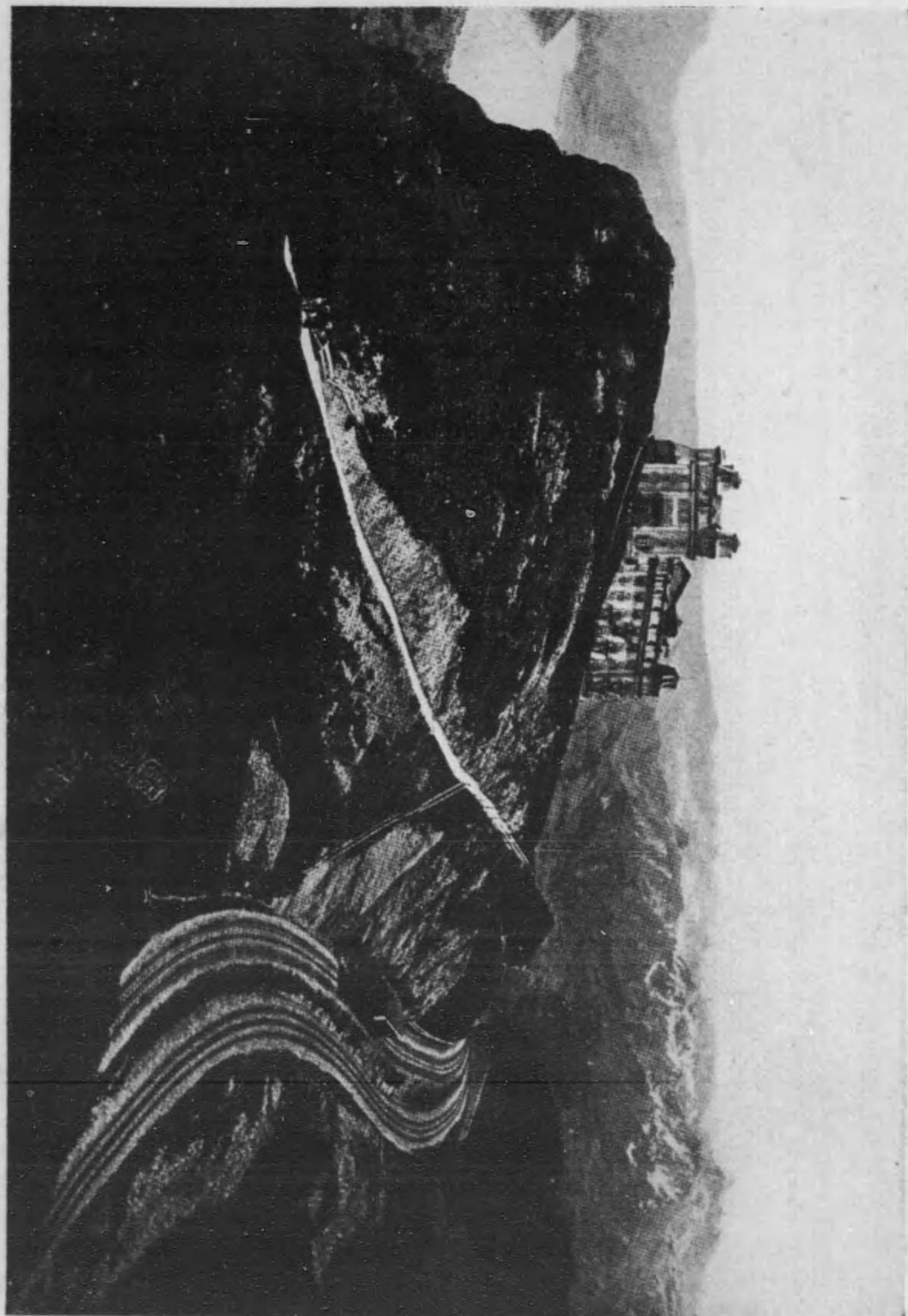
新聞記者の如き自由職業は、斯の如き職業上の制限を受けつゝある所の猶太人に向つて、最も好個の快手腕を揮ふべき分野として、殘されて居る。奧太利にては、千九百年に於いて、早く既に新聞業の殆ど總べてが猶太人の手に歸した。伯林にては、二十年前猶太人が少しく、奧太利より猿臂を伸ばして、此地の新聞事業に手を着けてより以來、今は既に八割以上は猶太人の掌中に歸して了つた。僅々十六七年間に於いて、斯の如き長足の進歩を爲さむとは、實に當時何人も思ひ掛けざる所であつた。然るに伯林に於ける新聞事業席捲の此勢は、今や益々進んで、今日に於いても尙續々維也納其他より新聞業に従事する猶太人が新たに伯林に入り込み、かくて此國の新聞界は、時々刻々猶太人に依て、蠶食されつゝある。『伯林日報』は有名な猶太人新聞經營者ルウドルフ・モッセ氏の經營に屬するが、此社に於いては、凡そ社に従事する者は、其編輯部營業部機械部の孰れを問はず、女工の末に至るまで、悉く猶太人に非ざれば採用せず、現在其使用する所の人數が八百有餘に上つて居る。財界殊に取引所界の優者は、各國殆ど常に猶太人である。鑛山業、銀行業の如きも、亦着々折れて猶太人の手に歸しつゝある。抑、財界銀行界に於いての成功は、既に

財界

モッセ氏

歐洲に於ける猶太人

六五



中世紀に於いても、例へば沙翁劇「ヴェニス商人」にも現るゝ如く、地中海の商權の中心たる以太利、就中ヴェネチアに於いて、猶太人が既に巔然として頭角を露しつゝあつたのである。トランスヴァールの戦争が長引いた時分に、極めて多くの打撃を受けたものは、佛國其他の鑛山業者にして、南亞に鑛山業の株を有する連中であつた。凡そ世界に於いて、戦争に反對するものあるときは、斯かる關係上より、猶太人が必ず其リストの中に見らるゝの關係があるのである。

五 國際的勢力

猶太人は實に大なる國際的勢力である。

第一は金融上の勢力である。右の如く、財界、銀行、取引所界に於ける優者が既に猶太人である以上、世界の金融市場に於ける猶太人の勢力の非常に重大なるものであることは、容易に洞察せらるべき所である。我日本の如きも、近年既に二十餘億の國債を有するに至り、世界の金融に支配せらるゝこと極めて密接なる關係あ

瑞西國。

リギ登山鐵道。所謂アプト式。

山頂の旅館。

下なる湖水は、

ファイエルワルドステッテル湖の一入江。

蓋なる山は、

ユングフラウ、乙女山。

第二、平
和事業

るに至つた次第で、未だ猶太人の國內に社會的寄生生活を爲す者を見るには至らずと雖も、猶太人の勢力、猶太人の状態、猶太人の地位關係を、度外には、措いては、外債政策は到底成立たぬのみならず、之を眼中に措かざる我國の國際政策は、其基礎甚だ薄弱にして、また無謀なるものと云はねばならぬ。我國の爲政家は、宜しく強大なる國家を成せる世界列強の動靜に著目するに止まらずして、必ずや此大なる寄生社會、此大なる民族社會たる猶太人に就いて、常に觀察を懈るなきやうあらねばならぬ。

第二は平和事業である。猶太人は既に、或は財界に、或は取引所界に、或は鑛山業に、或は銀行業に、其最も重なる根柢を經濟界に有し、而して其最も重なる手足を新聞界に伸ばして居る次第である。斯の如き關係上より、猶太人に取つては、戦争より生ずる動盪富貴國民的の誇り、國民的膨脹等の利益を收むることは殆ど縁が無く、而して戦争より來る禍害株式の下落鑛山業の不穩、銀行の損失、取引所の亂高下と云ふが如き禍害を感ずること最も痛切である。されば各國に散在して、各社會的寄生生活を営みつゝある猶太人が、いづれも最も平和事業に對する熱心なる

債權者と
して

リコスモポ
リタンの愛國心
の門外漢として

擁護者であることは、是れ論理上當然の結果と云はねばならぬ。

猶太人には、先づ其債權者たる關係より、戦争が其利害に直接に影響すること甚だ大である。戦争は、勝敗孰れにせよ、當事國の債務者としての價値を輕減する所以である。猶太人が或國に對して債主たるに於いて、其國の勝つも負けるも、共に債主たる猶太人には、若干の苦痛たるを免れぬ。

猶太人は、又到底愛國心と云ふが如き、高尚なるか將た弊害あるか孰れにせよ、一種の公的の心情の生じ得ざる地位に在るものである。猶太人は、其境遇上から本來四海人である、本來のコスモポリタンである。彼等は縱令佛國に居住し、佛國の國籍に入り、佛語を話すも、特に熱烈なる感情を以て佛國を愛する能はざる地位に置かれて在る。彼等は獨逸に在りても、獨逸國を愛する能はざる地位に置かれて在る。凡そ戦争は、一種の狂熱を以てするに非ざれば爲し得べからざる仕事である。而して其狂熱の根柢には、最も美しきものとして愛國心が無ければならぬ。然るに此戦争の根柢たるべき、一種必要なる特別なる心情が彼等に缺けて居る以上、彼等が外の方面に向つて走り、平和事業に向つて熱心するは、一種消極的の事情から

好名の道
具として

亦しかあらねばならぬことである。

平和主義は、近代の所謂文明思想からは、多く是認されて居る所の美名である。美はしき名義である。凡そ人は既に富を得て、而して名を思ふ、然るに其名の點に於いて、猶太人たるもの、動もすれば不當なる迫害を受けつゝある。しかし、我主義は極端なる自我主義に在り、とはまさか宣言することは出来ぬ、また誰しも之を欲せぬ、此場合に在りて、平和主義と云ふが如き、現在以上の理想生活が、我が緯々たる胸中に存することを示すは、其信用を増し、且其品位を高むる上に於いて、頗る著しき効果のある事である。彼等が、或は先輩の説に聽き、或は識者の言に領いて、平和主義を以て畢生の事業と爲さむとするが如きは、是れ彼等に取つての美事であり、而して世界の爲にも亦歓迎すべき一つの理由を供するものである。

猶太人は、多く右の如き状態にて、其富の割合に、其人物の割合に、其人文の割合に、又其理想の割合に、自國に在つては、頗る不得意である。どうも彼等が當然尊敬されねばならぬだけの尊敬を受けずして、唯其血液が違ひ、宗旨が違ひ、要するに社會的寄生生活を營みつゝあるといふだけの理由を以て、彼等は二等も三等も低き地位

社交の機
關として

に置かれて居る。即ち一言にして之をいへば、自國の社交界では失意である所から、社交を外國に求むる。其外國も亦猶太人を排斥するに於いて一步も自國に譲らぬにせよ、併し利害關係はさすがに外國は自國に比して幾分か薄い故に、猶太人が外國に向つての社交に熱心なることは、普通の歐洲國民以上である。斯の如くにして歐洲に於ける猶太人は、次第々々に友人を國外に得るに至り、此事情の上に坐して、其四海人たることは更に數層を加へ、而して何時かは平和の友となり、毎に國際的見地より事物を觀察し、事物を論斷し、事物を處理するに至る次第である。以上述べたる數種の事情幾多の心理状態よりして、平和事業は次第々々に猶太人の熱心なる主張と經營とに係るに至り、此平和事業の方面よりして、猶太人は亦一個の國際的大勢力となりつゝある。

猶太人が國際的大勢力となりつゝある所以の第三點は、新聞事業を通してである。既に歐洲に於ける新聞事業、就中埃太利及び獨逸等、歐洲大陸の中央に於ける新聞事業の全然、若くは殆ど、猶太人の手に歸しつゝある以上、近世社會生活、殊に近世國際政局に於いて、絶大なる權能を揮ひつゝある所の、新聞經營の權力を握りつ

つある所の猶太人に對して、歐洲各國の炯眼なる政治家が、其驕心を失はざるやうに力めつゝあることは、是れ固より必然の勢である。今日に於ける新聞紙は、恰も猶麵包の如く、また猶米の飯の如きものである。麵包無く米の飯無しには生活すべからず、新聞紙は多少濁りあり、多少の毒素を含んで居ると知りつゝも、今日の文明生活では、到底之を食はず讀まずに居る譯に行かぬ。更に痛切に言ふならば、新聞紙は、文明社會の生活に取つて實に空氣である、不潔なりと雖も呼吸せざるに居る譯に行かぬ故に、經世に志ある識者は、必ず先づ新聞紙を肅清することを以て要務と爲す。新聞紙を自然の成行に委し、新聞も商賣すからと、平氣で言ふ新聞屋のするがまゝに任せて顧みざる所の、政治家は、恰も煤煙の爲に鬱蒼たる樹木の年々歳々枯れ行くをも放任する所の、無識なる都市經營者の類である。樹木の林が枯れ行くならば、人間の林も亦之と同様枯れ行く場合のあることは、明白なる事實であるにも拘らず、是等には一切無頓着なる都市經營者と、毎朝午前三時までに其日配達すべき牛乳の検査を悉く了る所の、伯林市の經營者との間に、いかにかりの逕庭があるか、それは餘談として、新聞事業は斯の如く文明社會生活に大關係

あり、此權柄を握つて居る所の猶太人こそ、國際的の一大勢力たるべく此點より因縁の付いて居ることも、必至の勢である。

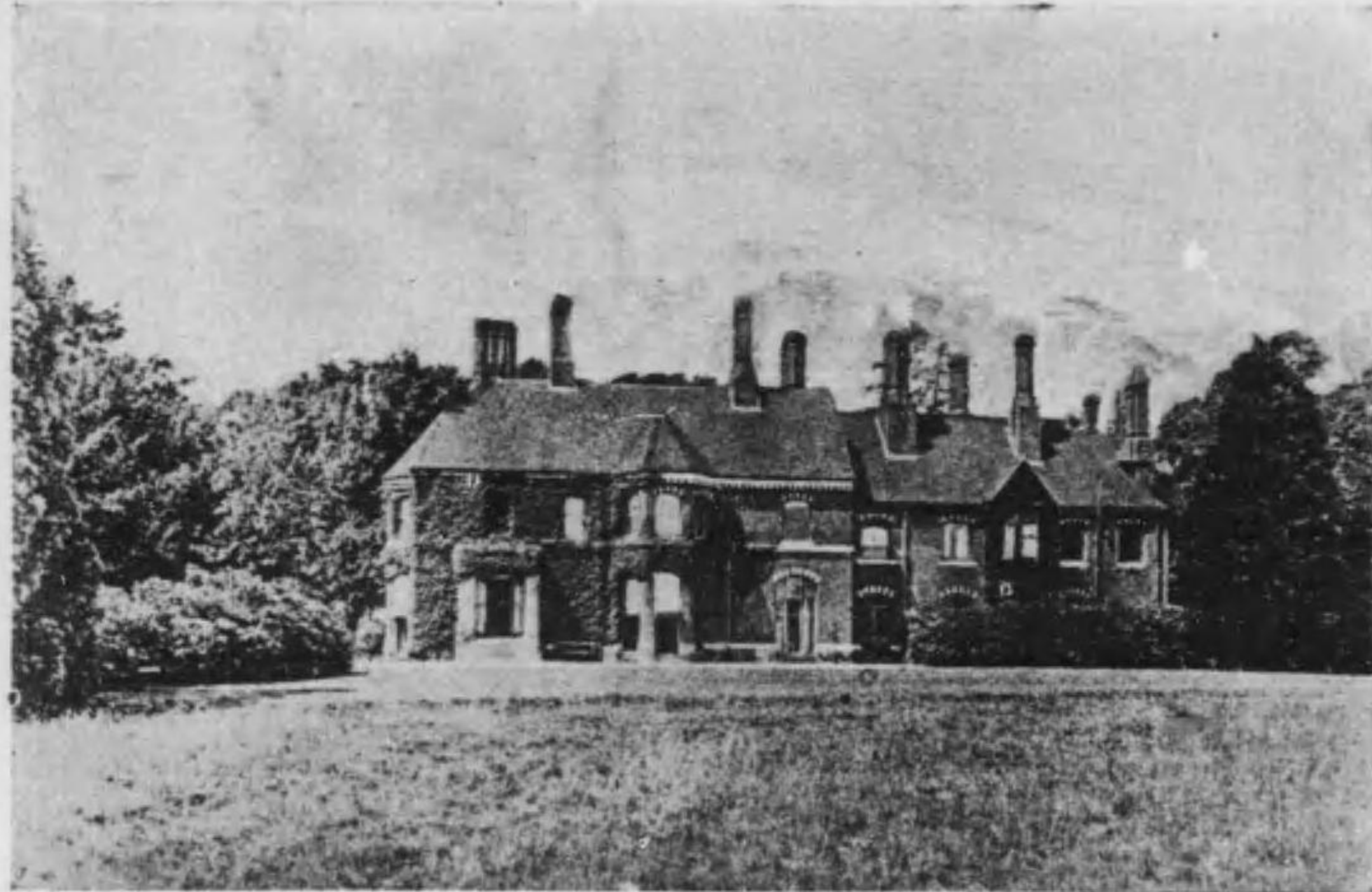
猶太人に對する迫害は、既に尋常茶飯の事と歐洲社會にはなりつゝあるけれども、斯かる迫害が一定の限度を踰ゆるときは、如何に猶太人と雖も、遂に堪忍袋の緒を切る事がある。然るに、彼等の堪忍袋の緒を切るとは、疾雷耳を掩ふに違あらざる底の態度を以てせず、一種偏執的敵愾的態度を以てする。是は歴史上殊に外交史上屢、實例のある事であるが、例へば露西亞がキシネフに於いて、其他に於いて、有事の日及び無事の日に於いて猶太人を迫害した。然るに猶太人は、我日本の如く、露國に對して戰を宣すべき實力も無ければ、機會も有たぬ、彼等は到底武器を奪はれたる所の町人が亂暴なる武士に對すると同様なる地位に在るものである。是に於いて彼等は復讐的方法を執るには、偏執的敵愾心を以てする、即ち英米をおだて、露西亞に反對する思想を熾んにするが如き議論を新聞が書き、又其態度を以て財界を擾亂す。斯の如きは、其原因の理非曲直は暫く措くも、全く戰爭をするの能力は無く、殊に各國に散ばつて居る所の猶太人も、國際單位としては固より何

でも無いが、併し中々侮るべからざる國際上の大勢力となるのである。斯かる態度で、然も歐洲各國に散在する猶太人が、是等の考に於いては同調なる活動をする所から、各國が時として思はざる外交上の失敗を取ること、は、往々歐洲列國の外交家の苦き經驗としてあるのである。

之を總するに、若しも猶太人の勢力が大に伸張する場合に於いては、左の如き各種の結果が、世界將來の運命に向つて出て來るものと覺悟せねばならぬ。第一に非國家的世界主義が發展して、第二に國民的國家的大競争を幾分緩和するに至るべく、第三に、而して歐洲各國はそれだけ國家としての力を減じ、第四に歐洲人の胸臆に於ける本來の個人主義は大に頭を擡げ來るべく、第五に基督教主義は益々懷疑的となり、其價值を失墜して、社會統制力を減耗すべく、第六に歐洲社會の混亂缺裂は、斯かる邊より促され來るであらう。

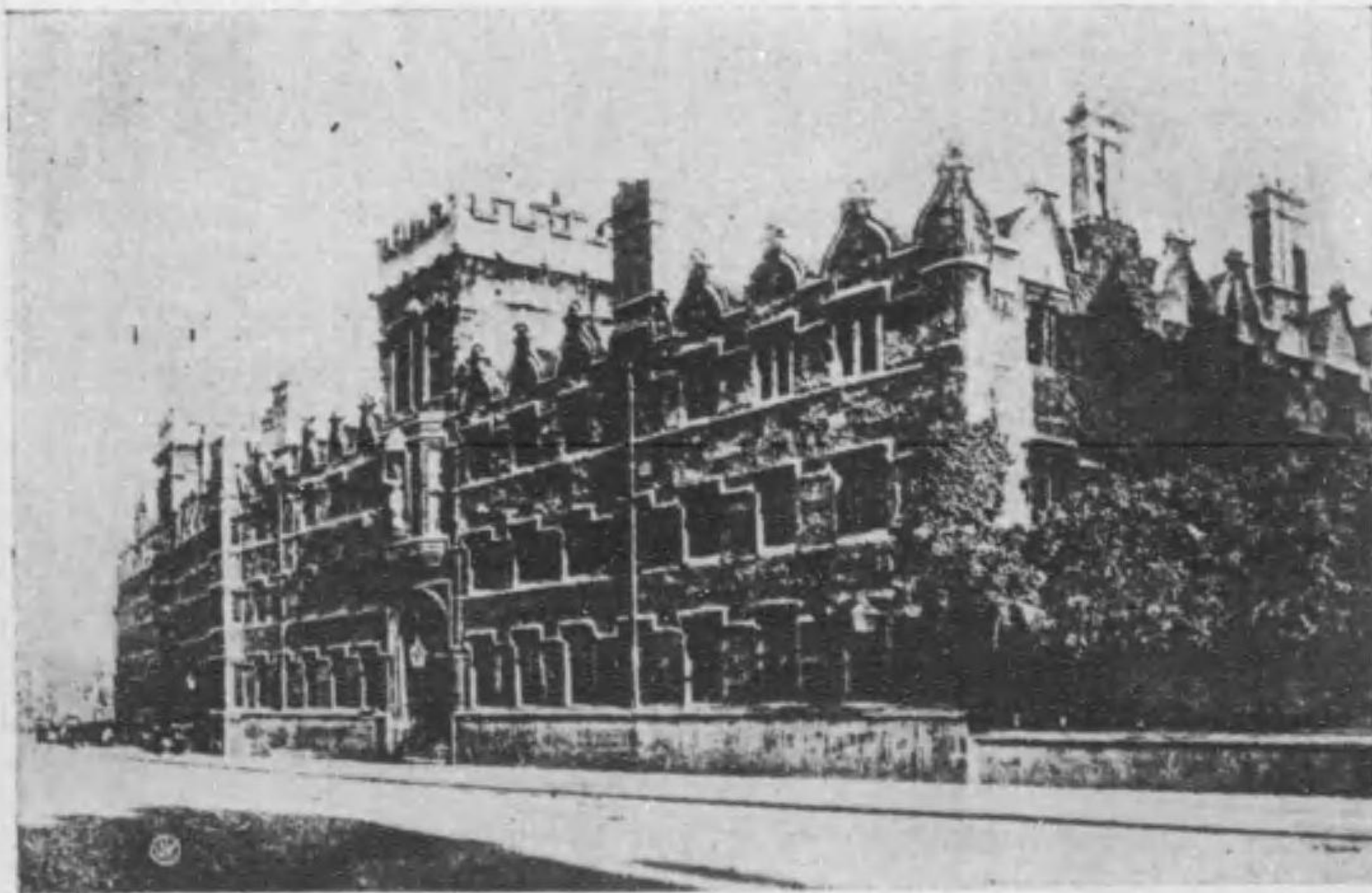
併しながら若しもチオニスムスの成功し、猶太人は其從來の寄生生活に於ける悲むべき運命より解放せられ、世界の那處にか、大小に拘らず一定の領土に於ける儼然たる一國家を肇造するに於いて成功するならば、以上の如き猶太人の特色、隨

英兩國先輩棲居之處



トスルホクオホの氏ソリハ

ドルオフスクオの氏ドンラオホ



世界列國の大勢

つて以上の如き猶太人の國際及び世界の運命に對する妙用は總べて消失するて
 あらう。即ち猶太人も亦歐洲列國の間に於ける、栗の丈較べの一つと成り行く
 に止まるであらう。

六四

島國

不思議な現象

地位

氣候

第十四 アングロサクソンの生活

一 英國と日本

英國の地位は往々日本と比較せられ、日本を以て東洋の英國と云ふこと世人の耳に熟して居るが、如何にも島國として大陸と關係するに於いては、我國と英國と其趣を同じうする。然るに其島國たる點に就いては、我國を悲觀し我國民を罵つて島國根性と罵倒する者あるにも拘らず、英國民を島國根性と罵らざるは、甚だ不思議なる現象と云はねばならぬ。

島國は島國であるが、其地位の頗る相異なることは注意せねばならぬ。英國は歐洲の西北に位し、其首府倫敦を以てして、既に北緯五十二度に在る、我國の首府東京に比すれば、殆ど十六度許り北に寄つて居る。然るにも拘らず其氣候は甚だ溫和

アングロサクソンの生活

て、一年の中三ヶ月間濃霧に裹まるゝ短所を以てするの外、四時夏は熱からず、冬もさまで寒からず、加ふるに春秋の景色が夫々に調ひ、其時候も相當に長く、四季の變化の人の思想感情を且慰め且新たにするものがある。是は大西洋の西より流れ来る所の所謂灣流の爲て、其地位の僻在せるにも拘らず、氣候の上に於いては天の特寵を享けて居る。

大陸との關係

經緯度の上では斯の如く偏して居るに拘らず、英國の地位は歐洲に對しては實に極めて好都合なる地位に在る。前世紀の初に至るまで、歐洲大陸の中央が佛蘭西であつたことは既に述べたる所であるが、英國は此歐洲の中央たる佛蘭西に對して、僅に一葦帶水の英吉利海盆、英人の俗に云ふ白銀の海を隔て、相對し、輕軻直に南を指せば、輒ち歐洲、さては世界の中央たる佛國を衝くの形勝に在る。是れ英國をして、歷史上歐洲人の畏憚する所たらしめたる大なる原因にして、而して歐洲政治家が英國を眼中に措かずしては、何等の國際政策を樹つる能はざりし所以である。蓋世の梟雄那波崙を以てしても、懸軍萬里、歐羅巴及び亞弗利加の天地を横行せしに拘らず、目の上の瘤とも謂ふべき英國に對しては、遂に明籌奇策の出づる

婦人亦之泳ぎ越す

大陸政策

無く、僅に大陸政策を以て之を壓せむと試みた。併しながら長鞭馬腹に及ばず、露西亞遂に其命を奉ぜず、是に於いてか征露の一役、遂に梟雄の事業をして千古の蹉跎に歸せしめた。此間英國は寧ろ却て攻勢を執り、海路直に佛蘭西の西南境、イベリアの半島を衝き、陸上の本據を此處に定めて、常に佛國の後ろを窺ふの勢を示した。海に於いて高名なるネルソンを有する外に、陸に於いて亦雄偉なるウェリントン

島國の自覺及利用

を有せしは、實に英國の誇りとすべき所である。されば、凡そ島國たることは、固より國の一つの特色であり、又實は、一つの誇りとすべき事であるが、英國は殊に其地位を自覺し、其地位を利用し、而して十二分に島國の國威を張るに於いて成功せるものと云はねばならぬ。我國民は、濫に島國たるの故を以て自ら悲觀するが、英人は島國たることを極端に十二分に利用し、發揮して居る。島國根性と云ふ罵倒の聲、自卑自屈の聲の聞ゆるは、是れ其原因の島國たるに歸するか、又其根性の果して島國根性と見らるべきものでありや否やは別として、兎も角も英人に比して劣る所の性格が今日の日本人中の或る部分、即ち島國根性など、暗く連中に存することの確證である。

神功皇后は英國人式

日本は大八洲國と稱し、本州、四國、九州、北海道及び其他大小數百の島嶼より成立するが、英國は是よりも更に大ざつばなる地勢を有し、大貌列顛及び愛蘭の二つの大なる島より成り、大貌列顛は我本州に匹敵し、愛蘭はわが北海道に匹敵する。大貌列顛も我本州の如く狹長ならず、大體二等邊三角形の形を成し、而して其底は南英吉利海盆に在る。更に細かく地形を言ふならば、恰も日本婦人が帯をお太鼓に結んで坐つた形が、正に大貌列顛島のそれである。其頭は蘇格蘭で、而して其髪は形は女王巻きと稱するもの、而して頸の部分が昔し蘇格蘭と英蘭との境界を劃せるソルウエのフリステ、其お太鼓の部分は即ちウエルスで、而して其坐れる裾の後ろに引いたる部分はコルンウォールである、即ち此女は東に向つて座つて居る。其脊中の方に當つて更に離れて存するものが愛蘭である、愛蘭は恰も一個の不手際なる荷物の如き形を成して居る。東に向つて坐れる、容姿端麗なる此當世婦人の脊に、鞆でもなき、不恰好なる、一つの大きな、風呂敷包みの如き重荷が、將に其脊中に轉げ落つべくあるのが是れ愛蘭である。

ウエルスは山間の僻地で、今日と雖も英蘭とは風俗慣習を異にし、教育の程度を

異にし、而して其民族をも異にして居る。

抑々此二大島及び其他の小島より成立せる、所謂統一王國なる英國民を成す所の民族は、實に複雑なる由緒を有して居る。其初め此國にはブリトン人が住し、ジュリアス・シイザルの遠征を試みし時代、スウトニアス・ポオリナスの時代には、粗野ながら愛すべき性質のブリトン人の國であつた。然るに其後大陸より、アングル人及びサクソン人が入來り、詩聖の詩にも有名なるアルサル王の圓卓勇士なども此時代で、所謂サクソンの七王國なるものが、今の英蘭の南方及び中部に成立するに至つた。此頃蘇格蘭及び愛蘭には、スコット人、ピクト人及びケルト人が住して居り、勿論是等は右アングル人サクソン人の英吉利王國に對しては、まるで化外の民であつたのである。

サクソン王國は、アルフレッド大王に於いて其極盛の域に達し、既にして更に北方海賊王とも謂ふべきデーン人の來襲あり、カニウト王の如きは、最も嚴肅なる態度を以て此國に君臨し、今の倫敦に都し、テムス河に差し引きする所の潮に對して、帝王の威も、以て天地の法則を如何ともする能はざるを説いて、以て阿諛諂佞の侍

新しき日本婦人

日本は大八洲國と稱し、本州、四國、九州、北海道、及び其他大小數百の島嶼より成立するが、英國は是よりも更に大ざつばなる地勢を有し、大貌列顛及び愛蘭の二つの大なる島より成り、大貌列顛は我本州に匹敵し、愛蘭はわが北海道に匹敵する。大貌列顛も我本州の如く狭長ならず、大體二等邊三角形の形を成し、而して其底は南英吉利海盆に在る。更に細かく地形を言ふならば、恰も日本婦人が帯をお太鼓に結んで坐つた形が、正に大貌列顛島のそれである。其頭は蘇格蘭で、而して其髮の形は女王巻きと稱するもの、而して頸の部分が昔し蘇格蘭と英蘭との境界を劃せるソルウェエのフリステ、其お太鼓の部分は即ちウエルスで、而して其坐れる裾の後ろに引いたる部分はコルンウォールである、即ち此女は東に向つて座つて居る。其脊中の方に當つて更に離れて存するものが愛蘭である、愛蘭は恰も一個の不手際なる荷物の如き形を成して居る。東に向つて坐れる容姿端麗なる此當世婦人の脊に、鞆でもなき、不恰好なる、一つの大きな風呂敷包みの如き重荷が、將に其脊中に轉げ落つべくあるのが是れ愛蘭である。

ウエルスは山間の僻地で、今日と雖も英蘭とは風俗慣習を異にし、教育の程度を

不手際なる荷物

復讐なる由緒の民

異にし、而して其民族をも異にして居る。

抑々此二大島及び其他の小島より成立せる所謂統一王國なる英國民を成す所の民族は、實に複雑なる由緒を有して居る。其初め此國にはブリトン人が住し、ジュリアス・シーザルの遠征を試みし時代、スウトニアス・ポオリナスの時代には、粗野ながらも愛すべき性質のブリトン人の國であつた。然るに其後大陸より、アングル人及びサクソン人が入來り、詩聖の詩にも有名なるアルサル王の圓卓勇士なども此時代で、所謂サクソンの七王國なるものが、今の英蘭の南方及び中部に成立するに至つた。此頃蘇格蘭及び愛蘭には、スコット人、ピクト人、及びケルト人が住して居り、勿論是等は右アングル人サクソン人の英吉利王國に對しては、まるで化外の民であつたのである。

サクソン王國は、アルフレッド大王に於いて其極盛の域に達し、既にして更に北方海賊王とも謂ふべきデーン人の來襲あり、カニユット王の如きは、最も嚴肅なる態度を以て此國に君臨し、今の倫敦に都し、テムス河に差し引きする所の潮に對して、帝王の威も、以て天地の法則を如何ともする能はざるを説いて、以て阿諛諂佞の侍

第一の次

臣を戒めた逸話も傳はつて居る。然るに第十一世紀に至りて、更に佛國の北方に居住せるノルマン人のウィリアム王がこの國に攻め入り、遂に千六十六年を以て所謂ノルマン征服となり、英國の主權者は此ノルマン王統となつたのである。斯の如くにして幾多の變遷を経、其間民族は混淆に混淆を重ね、今の英蘭に住する所の民族が、最も其血液の複雑なるものとなり、血液の稍、純粹なる當年のブリトン人、ケルト人は、ウエールスの山中に追ひ込められ、其間蘇格蘭は、復た一個の王國を形造り相當の進歩を爲し、愛蘭は純粹なる血液を保ちつゝ、ケルト人の國として稍、停滞不動の勢を示し、第十二世紀を通じて英蘭との交渉はあつたけれども、目覺ましき解決の着くこと無く、然る間に第十六世紀に至りて、スチュワート王統の下に、英蘭及び蘇格蘭は合して一王國となり、是に於いて、大貌列國の大島は、完全なる一君主の下に於ける一國となり、愛蘭の氣勢益、揚らず、遂に更に今日の英國の形勢に至るべく、所謂統一王國を成すの原因が、是より駁々として進んだ次第である。

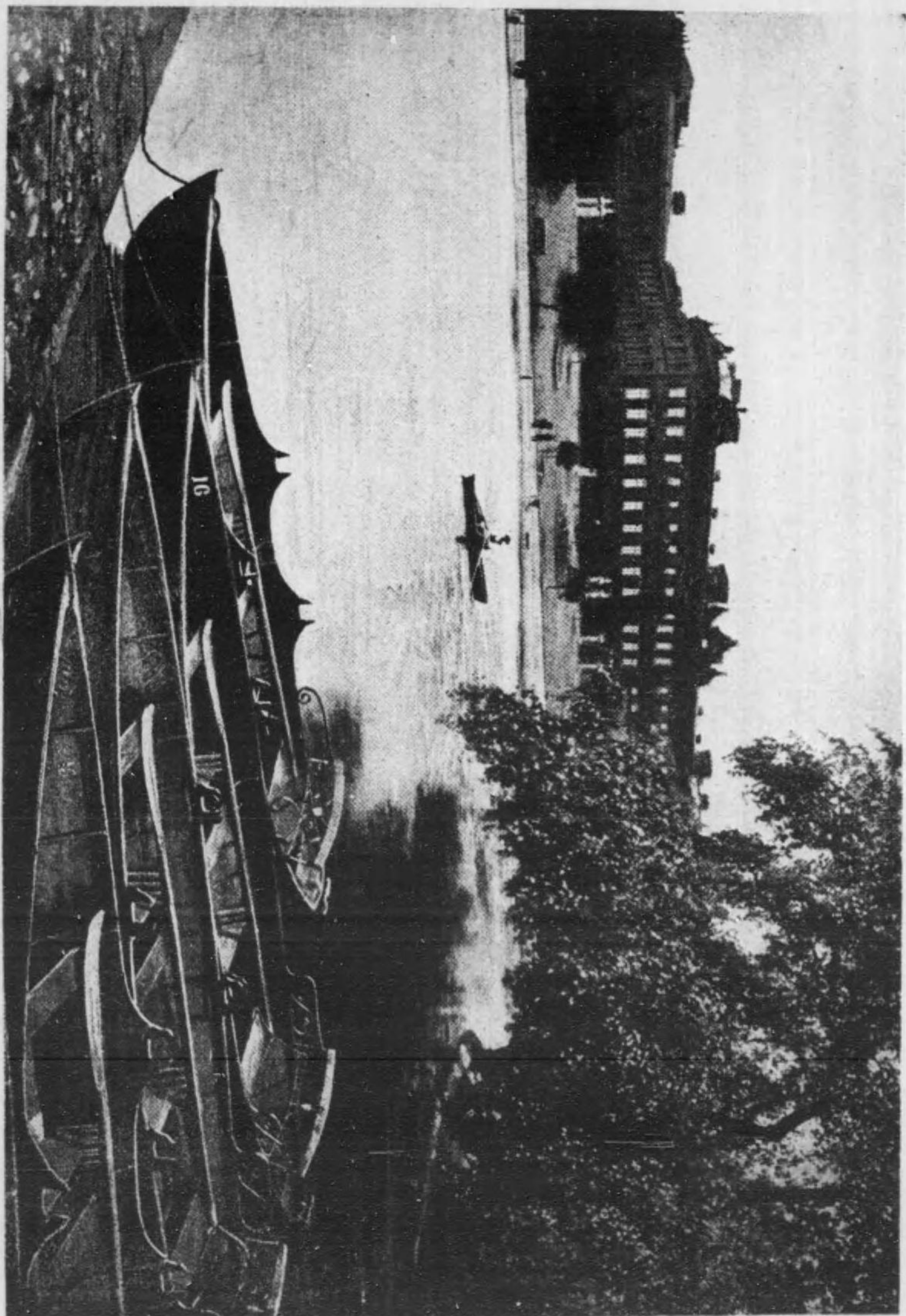
アングロサクソンの名稱

此點こそ東洋の英國

立證せむと欲したまでいある。即ち今日の英人は、世界に於いてアングロサクソンと云はるゝが、其名前の表はすだけでも、既に單純なる民族に非ざることが明かである。アングロサクソンとは、アングル人とサクソン人との混血を意味するてはないか。併しながら右の説話に於いて明かなるが如く、英人は決してアングロサクソンではない、アングル人サクソン人の血液の外に、ブリトンの血液あり、ケルトの血液あり、スコットの血液あり、ピクトの血液あり、デエンの血液あり、又ノルマンの血液がある。此複雑なる由緒を有する民族にして、始めて世界に於ける優勝民族として立つに堪へ、民族的、國民的、社會的、功業を成し遂ぐる事が出来るのである。

複雑なる由緒を有する民族の社會的、事功の堅實にして、且偉大なるものあるは、是れ社會學上の一大理法である。併し此所では斯かる抽象的説話を休めて、更に興味ある一二の事例に徴するならば、此點に於いてこそ、日本を目して、東洋の英國と云ふの極めて適切なるを認むるのである。日本民族の如きも、亦實に極めて複雑なる由緒を有する民族の一事例である。今日に於いて日本民族は、世界に有り

ふれたる單一なる某々人種なりとしては、殆ど取扱ふべからざるもので、蒙古人かと思へばさにあらず、馬來人かと思へばさにあらず、勿論滿洲人にも非ず、漢民族にも非ず、猶太人に肖て居る點もあるやうであるが、勿論猶太族に非ず、印度人に非ず、世界に於ける一種特別なる民族を化成して居る。是は固より其管て、日本民族は、南洋の馬來人、北蒙古滿洲の人、漢人、朝鮮人、恐らくは又中央亞細亞及び西亞細亞の Arya 民族の完全なる渾蕩鎔冶を以て、極めて好運なる事情の下に化成せる、複雑なる由緒を有する一大民族であるのである。此日本民族が、其數に於いては未だ最大卓越の境に達せずと雖も、夙に偉大なる社會的事功を遂げ成して、以て四隣の雄となり、世界の注視と歎服とを集むるに至れる所以の者、恰も英國人が、稍純粹なる愛蘭を越え、極めて純粹なるウエールスを越えて、英國に強大なる統一王國を建設せるのみならず、更に世界到る處偉大なる功業を遂げて、漸次民族の盛名を博するに至つたと頗る似通へる事實であるのである。若しも日本を目して東洋の英國とし、英國を目して西洋の日本と呼ばむとするならば、それは社會學上固より排斥すべきではない、併し其ポイントには、實に右の點に存するものと承知せねばならぬ。



英吉利國。倫敦。

パッキンガム宮。

セント・ジエムス公園より望む。

希臘羅馬

稍、小規模ながら、古に於ける希臘人、羅馬人が、其當時の絶倫なる、遠く群類を抜ける偉大なる社會的事功を成し遂げたのは、亦、一は、其人種の複雑なる由緒に歸せらるゝのである。希臘人は有名なるドーリアン移轉の後、ドーリア人、エオリア人、イオニア人等の渾蕩鎔冶の結果として、新たに生れ出てたる複雑なる由緒を有する民族で、此民族こそ、實に二千有餘年の昔し夙に歐洲の一角に、一大文明を化成するの大事功を成し遂げた民族であつたのである。羅馬亦然り、半神話の形に於いて傳はれる、サピン人と羅馬人との奪掠婚姻の話説の如きは、即ち羅馬人が複雑なる由緒を有するの活きたる證據となるので、當年夙に其近傍の衆部落を越えて、七市の小さな併しながら確かなる社會を建設し、其結合を以て歴史の初頁を起し、浩浩蕩々、歴史の流れの進むに隨つて、遂に當時知られたる限りの天下大一統の大業を成すに至つたは、亦偶然ならざるものである。

之に反して、民族の停滞不動より社會の衰弱を招けるの例は、亦、比々として數ふべきである。我平安朝に於ける平安人士の如きは、其萎靡不振に陥りしは固より種々の原因あり、其政治上の原因、經濟上の原因に至りては、既に三善清行、新井白石、

平安人の
萎靡不振

頼山陽等の史論家の明白に辯明せるが如くであるが、併し是等の先輩が見落した所の社會上の原因が、亦幾多數ふべき無きに非ずである。其中唯今の話説に關係ある點のみを言ふと、彼等平安人土ばかり狭き天地、少數の家族の間に、血族結婚を爲して、民族血液の停滯不動に平氣で居つた者は無いのである。勿論彼等は斯の如き點に餘り多く氣付かなかつたであらう、併し事實は斯の如きもので、之を南船北馬、晨に國司の任に吉備若くは筑紫に赴き、夕に更に上總介相模守として關東東北に赴任せる者に比して、彼等の智識見聞の狹隘貧弱となれるのみならず、一世二代を經るに従つて、其血液が漸次不健全なるものとなつたことは、争ふべからざる事實である。平安人土の如何にもセンチメンタルにして、神經質で、感情的で、玉の杯が二重底で、矢鱈に涙脆く、物の哀れを感じ、動もすれば蓬髮して出家すると云ふが如きに成り下つたのは、其客觀界表に現れたる所のものは、曰はく詩歌文章、曰はく經典宗門、曰はく天地の風光明媚にして、笑ふが如き大井川、嵐山の景色、蒲團著て寝たる姿の東山、加茂川の清き流れ、斯の如きが手傳うたものに相違ないが、其主觀に於ける生理的、有形的基礎は、實に右の社會上民族上の一大事實に依るものに非

ざるはない。中央よりして地方に派遣せられたる各守介掾目は、業に既に其家に於いて健全なる血液を有すべき事情を有ちしのみならず、是等の者が其任地の土人と婚嫁を通じて、而して家の子郎黨なる一種の混血部族を成し、斯の如くにして彼等が各地方々々の社會民族の中核を成し、其周圍に向つても優勝の地位を占め、勿論平安人土に向つて亦遙に優勝の地位を占むるに至つた。封建の勢は次第に成り、王權は下に移るに至つたことを、動もすれば單に莊園制度の發達に歸する者があるが、是等は矢張地方の權力の強くなつた外形の現れに過ぎぬので、其主體的民族的關係に於いて、右の如き事實のあつたことを注意せねばならぬ。斯の如くにして日本は、中央平安朝廷附近に於いてこそ、舊日本民族の甚だしき萎靡不振の狀態に陥れりと雖も、地方に於いて、新たなる生氣を以て勃興せる新日本民族あり、此新日本民族の備英として、大首領として立てる者が即ち源頼朝である。政體の變革としては、我々は固より鎌倉幕府を歓迎する意味は、毫も無いが、併しながら既に平安朝廷附近の日本民族が、大江山の酒願童子にすらも、慄ひ上つて恐れ入る狀態であり、東京ならば僅に池上の本門寺までにも、至らざる所の鞍馬山には、天狗が

棲んで人間が行くことの出来ない處と考へる程までに成り下つて居つた斯かる情けなき状態に對して我日本の活氣活力を新たにし新なる民族的氣魄を振ひ起すに於いて成功せるものとして社會上より鎌倉幕府の時代に於ける民族的活動は、大に歡迎すべき理由がある。

話が餘り横道へ外れるからこれだけに止めて置くが斯の如く、凡そ複雑なる由緒を有する民族は、常に社會的功事に於いて大なるものを期すべく、多くの場合、單純なる由緒を有する民族は、之に對して指を咬へて後へに瞠若たるべき運命を負はざるゝものである。將た亦一旦複雑なる由緒を有する民族となつたにしても、數千百年の年所を経て、竟に變ることが無ければ、其間亦次第に民族の生理的活氣力は減衰して、更に新たに複雑なる由緒を有すべき境遇と運命とに在る所のものに、其優勝の地位を讓るべく餘儀なくさるゝものである。斯かる抽象的説話を、唯一層分り易くする爲に、我國及び外國の一二の事例を以て説き明したのである。而して今や我輩が觀察を試みむとする所の英國民族は、既に其一を有し、而して或は亦其二にも陥らむとしつゝあるの形勢が見えぬでもないのである。

二 歴史上の先進優勝

ノルマン征服より未だ幾くならずして十字軍の物興あり、中世騎士の絶好の標本たる獅心王リチャードは、半生を其浪漫的なる、小説的なる、軍事的遠征及び微行に費し、而して其不在中に國は遂に不悌なる弟に奪はれ、不悌なる弟は亦不仁なる君主であり、而して茲に彼の有名なる大憲章の發生する因縁を開いた。大憲章は英國人民政治上の自由の最初の保障であるが、併しながら實は人民に取つての自由の保障と云ふよりも、君權に對する最初の制限であつたと云ふを適當とする。如何となれば、大憲章に於いての君權の制限は、一般人民、即ち近世の所謂第三級團に對してに非ずして、寧ろ貴族に對してであつたのである。其唯一ヶ條に、人民に對して民權の保障に類する規程が設けられてあるだけである。併しながら兎も角も君主の限り無き權威の濫用に對する制限を、立憲的に、即ち公々然として社會民衆より加ふるに至つたことであるから、其内容の如何よりも、其形式に於いて英國

先進國、先覺民族

に於ける立憲政治發達の史上、極めて重大なる意味と價值とを有するは言ふまでもない。而して斯の加きが第十三世紀の初め、實に千二百十五年といふ古に在つたことを思へば、英國民族が天下に率先して内治上立憲政治、自由政治の基を開き、單に此點のみを以てするも、英國民族が天下の先進國を構成すべき光榮ある責任を完うすべき先覺民族であつたことは、殆ど斷定せらるゝのである。

先手打ち

大陸の狀態如何

凡そ圍碁又は將棋に於けるが如く、先手を打つ者は何時までも其優先權を保有する。英國民族が内治上政治上に對して斯の如き先手を打つに至つたことは、實に限り無き便益形勢の利益を英國民族に與へた所以である。當時歐洲大陸は如何なる狀態であつたかといふと、神聖羅馬帝國の夢未だ覺めず、獨逸に於いてホオヘンスタウフン皇室の下に、ウエルフン黨及びギベリン黨相軋り、而して内列侯の統一動もすれば破綻を生じ、外羅馬法王の威壓盛に加はる。此帝國にして既に然り、其他の各地は、大小の侯伯群雄割據の狀態にして、宗教上否寧る政教上羅馬法王の獨り卓然として雄視せるあるの外、政治上の君主は、皆何れも各地の小頭目たるに止まり、封内の統一にすら維れ日も足らざる勢であるから、到底政權の自由内治の

第二、宗教關係

法王廷の腐敗

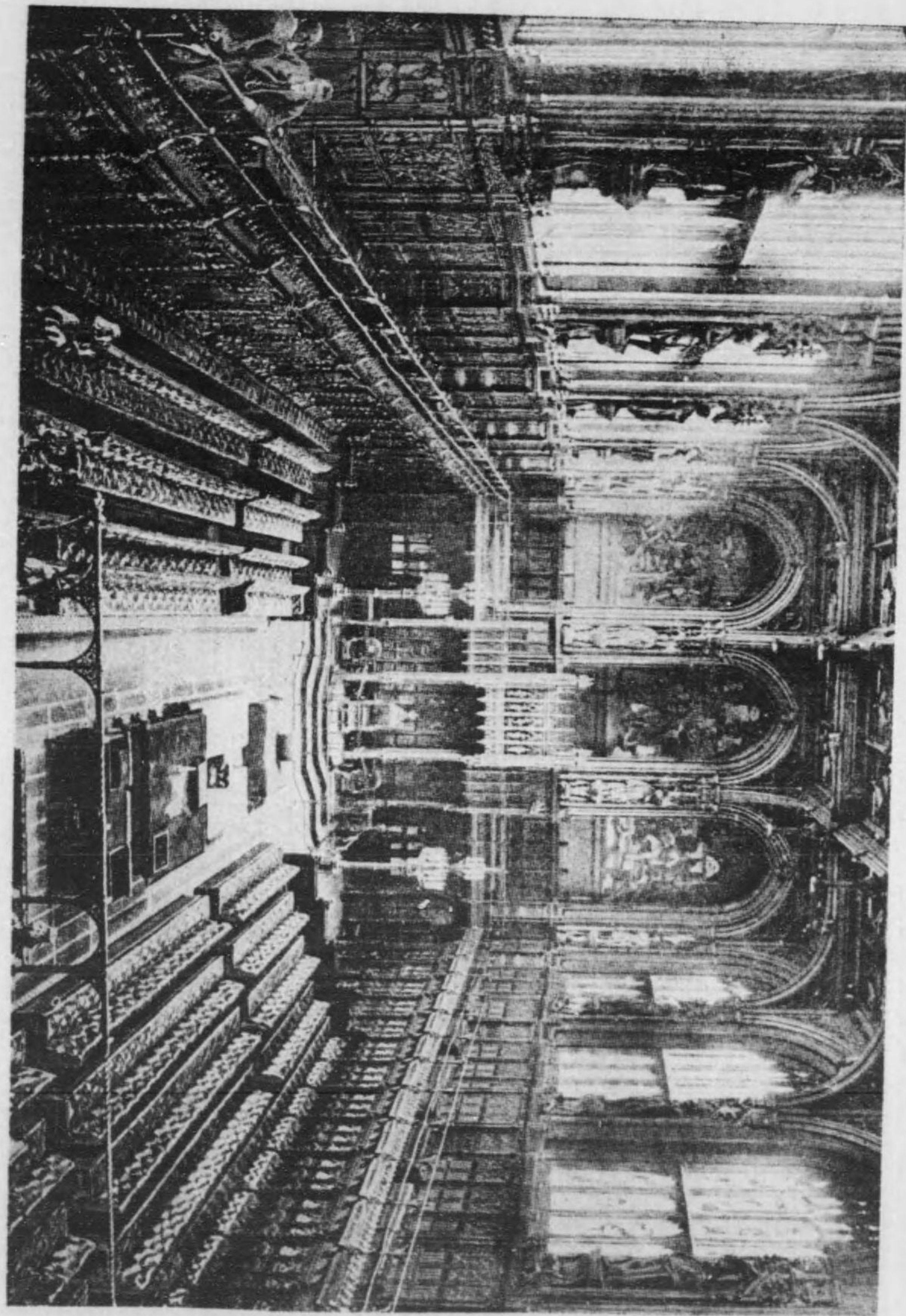
更革と云ふが如き進める政治上の段取りは、夢にも思はれざる次第であつたのである。英國が今日に於いて世界の先進國として立つ所以の第一歩は、實に千二百十五年、今を距ること七百年前に於ける、此大憲章に於いて在つたと云はねばならぬ。

然るに英國が島國であつたといふ利益は、更に第二の點に於いて大なる効果を呈して居る。乃ち羅馬法王の威壓は、遂に英國に餘り多く加はるに至らなかつた。中世の終り、羅馬法王廷の腐敗するや、彼の有名なるベネツォレンス(お情け金)即ち一定の上納金を納むる者には、其罪を赦すの制度と云ふが如き、馬鹿氣切つたる制度を以て、東洋の二三の國々にある賣官よりも更に陋劣なる、賣罪主義の實行をまて試むるに至つた。此布令が治く英吉利まで届いたのが、第十五世紀の初め、チユドル王統の終り、ヘンリー七世の時であつたので、英吉利は斷然之を刎ね付け、尋いてヘンリー八世出づるに及び、時の英吉利の大僧正にウルセイと云ふ怪傑あり、王ヘンリー八世は、又自家の後宮の都合より、己が意に満たざる婦人を處置するに、羅馬法王廷の掟に従ふ事の不便なるを感じて、斯かる私の都合上からは、云ひながら

ウルセイ
ヘンリー
八世

アングロサクソンの生活

七九



第三、海上權力、
エリサベスと西班牙

亦斷然、羅馬法王廷の節度を蔑視するに至つた。斯の如くにして、宗教上特に民間布衣の士例へばルウテル、カルヴァン、ツウイングリイ等の、赤手空拳、理論上より天下に絶叫せるが如き困難なる運動の結果を待つまでもなく、容易に英國の宗教社會隨つて英國社會民族は、羅馬法王廷の文明の進行を逆戻しに引戻さむとする暴虐なる手より脱離するに至つた。教法改革と云ふ騒ぎに先だち、而も國家を擧つて、易々と且完全に、宗教の反文明的勢力の羈絆を脱却することは、是れ亦英國に取つて非常なる幸福と謂ふべきで、然も其世紀が言ふまでもなく、歐洲列國に比して、約一世紀半を早めたことであるが故に、英國民族が今日世界の先進民族となつた由來の第二の事情は、實に此に存すと云はねばならぬ。

既にして王統更に一轉し、世はスチュワルト王統となり、西班牙のイサベラ、我國の神功皇后と動もすれば並び稱せらるゝエリサベス女王、此國に君臨するに至り、時恰も西班牙が海上に覇を稱した時代に際し、西班牙の眼中歐洲の列國無く、唯、獨り海上の雄者、競争者としては、一英國あるに過ぎなかつたので、此英國をさへ壓付け、るならば海上の覇權は悉く我に歸すべしといふ考から、エリサベス女王の時に、彼

英吉利國。倫敦。

巴力門(國會)。

上院内部の光景。

元寇

クロムウェル
と和蘭

の有名なる西班牙のアルマダ二百五十隻の襲來があつた。之を歴史上に比類を索むるならば、恰も我國に對する元寇の如きものである。此強敵に打勝つ所の、受身の位置に於ける國家は、寧ろ非常なる好運に際したものと謂ふべきであつたのである。西班牙アルマダの壯圖一蹶して、西班牙は少からざる打撃を受け、而して英國は是より以上の收穫を握つた。既にして世は數十年の間に幾度の政治上の變遷を爲し、第十七世紀の半にクロムウェルの守護職時代となり、今度は和蘭と海上に角逐して、又其十數年の戦役の結果、遂に和蘭に對して優勝を占むるに至つた。當時發見植民の時代よりして、西班牙、葡萄牙及び和蘭が海上の優者であつたのに、此エリサベス及びクロムウェルの禦侮に於ける成功の結果として、茲に英吉利は、獨に大憲章及び宗教關係に於いて對内的の先進國となつて居つた其成績を對外的に發揚し、海上に於ける争ふべからざる優勝の地位に立つに至つた。是れが英國民族所謂「アングロサクソン」が、今日に於いて、新大陸即ち亞米利加に於いて、及び遠くは印度、濠州に於いて、世界に於ける最大植民地經營者として、偉大なる成功を爲すに至つた第一歩であるのである。

英國は又議院政治に於いて、歐洲列國に先だちて大なる成功を遂げ、寧ろ模範を示した。勿論議院政治の圓滑完全に行はるゝは容易な事ではない、英國と雖も國會の機能が最初より今日の如く圓滑完全に行はれた譯ではないが、併し英國を除くの外、宇内列國未だ議院政治が眞に難有きものであるかどうかにか就ての確證を與ふるまでには少しも進んで居らぬ、英國だけは稍、議院政治の難有味を示して居るのである。勿論茲に議院政治と云ふは、議院行政ではない、我國の政論家、往々議院政治を誤つて議院行政と爲す、行政機關に黒う人を使はぬものが、どの國にあるか、器用なる人は、自分の住宅の設計は自分でも、誰も自ら職人となつて鋸鉋を使ふ者は無い。利休居士の茶室と云つても、成程利休居士は茶室の設計はするが、併しながら之を建つる者は必ず大工左官である。議院政治と云ふのは、政治上の利休居士的設計をするのが、議院である、と云ふだけ、之を實行する事まで、行政まで、議院がやる、即ち利休居士が自ら鋸を使ふ者と誤解してはならぬのである。市町村の行政に於いては、市町村參事會なるものが、執行機關、行政機關である、而して此參事會員は、議員の中から選ばれるゝ所から、百姓議員、町人議員が國會をも斯く

誤解したこともあらうが、國會も亦若干の市參事會員の如きものを選んで、之をして行政の任に當らしめ得るものである、かの如くに誤想するやに見受けらるゝ論客が随分無いでもない。英國の議院政治の發達と云ふことを斯く誤解して、而して英國の宇内に於ける先進國たり優勝國たる理由の一とするならば、それは飛んでもない我輩の此項を説明する所以の意に反くのである。全體市參事會員と云ふが如き言葉は、之を各員各個から見れば、市參事官、又は市參事員と譯してもよい言葉であり、又合議體として云へば、市參事會は、省參事官會議と云ふと同じことであるのである。兎角日本で法律規則を作る人の翻譯も亦紛はしい事があり易いので、益、覺束なき民間の評論家等を誤つたことも、無いではないやうに見受けらるゝ。英國の議院政治は、國民の意思の發表、國民の政治思想の發達として、非常に價值がある事であるが、又此美妙なる議院政治の執行機關として、殊に近來英國でも優秀なる官僚を養成し、専門的技能を有する官僚を用ゐることに極めて熱心、銳意改良に次ぐに改良を以てして居ることを注意せねばならぬ。

例へば、英國の文部省の如きは、教育行政は、法律家てはいけなないと云ふことに、極

めて痛切に著目して、其省の初等教育局、中等教育局、實業教育局、大學教育局、並に博物館、地質調査局、及び調査報告局、此の七局は悉く皆教育家を以て之に充て、唯、一其法律局に於いて、法令の審査及び立案の形式等に對してのみ、法律家を任用する。即ち我國に於けるなどは、正反對にして、英國文部省は實に教育家中の統御的行政的手腕のある者のお捕となつて居るのである。我國にては、文官任用令の改正と云へば、民間の人例へば議員などに適するやうな人を官吏とせむとし、常識及び經驗に於いて發達して居つても、専門的學識は必ずしも之を有せざる人士を以て充てむとするのが、民間に於ける文官任用令改正論である。之に對して所謂官僚派の議論は、文官試験を通過せる者に非ざれば高等文官に任用すべからず、即ち行政機關を組織すべからずと云ふこととて、行政機關は、其教育行政たり、民事行政たり、將た經濟行政たり、遞信省、農商務省たり、内務省、文部省たるを問はず、總べて法律家たる高等文官試験通過だけの専門家を以て組織すべしと云ふのである。然るに英國の行政機關は之よりも更に専門的で、文部は宜しく文部専門の官僚より組織せらるべきこと、恰も外務は外交専門の人より、陸海軍は陸海軍の軍事的専門

我民間論
我官僚論

英國の實際

三段

我陸海軍
行政と同様

我民間の誤解
我現今官僚界の誤解

知識ある者より組織せらるゝが如くならざるべからずと云ふのである。丁度之を順序を立て、見ると、我民間の文官任用令改正論者は最も非専門的で、我官僚主義の法律家萬能主義は半専門的で、而して英國の官吏任用主義は實に純専門的と謂ふべきである。我國にては、法律の知識さへあれば、遞信可なり、教育可なり、農商務可なり、大藏可なりと考へて居る、併し陸海軍だけは、流石に餘り可なりとは考へて居らぬものと見えて、陸海軍には、法律出身の參事官が二人づゝしか居らぬ。英國の行政機關組織の主義は、我陸海軍に於けるが如き、式を滿遍なく徹底的に實現せるものである。是は固より爾かあるべき筈で、おなじく利休居士の設計を實現すべく茶室建築の事に當るものとしても、左官に大工の代用をさせられず、屋根屋は亦左官の代用をする譯に行かぬ、而已ならず、建具の如きも、極めて精良なる物を拵へやうと思ふならば、矢張大工よりも、建具屋として造詣の深き者の方が適當である。議院政治を誤つて議院行政と思ふ者は、利休居士の茶室と云へば、土臺石を据ゑることから、建前から、壁を塗ることから、屋根を葺くことまで、皆な利休居士が自分でやるものと認むるの類である。利休居士の設計に従つて、大工だけを以て

アングロサクソンの生活

英國の實際

壁も塗らせ、屋根も葺かせ、無論、建具も拵へさせると云ふのは、即ち我國の現状である。而して英國では、職人若くは棟梁は、詳に利休居士の言ふ所に耳を傾け、其間に茶の湯の事や風流文雅の事に就いては、殆ど知る所無き棟梁が、矢鱈に喉を挿むことをせず、充分に設計者たる利休居士の考を奉じて、而して各、大工は大工、左官は左官、屋根葺は屋根葺、石屋は石屋と、それらの専門に應じて、それらの受持の事に當り、以て完全なる茶室の建築を、すると云ふのが、即ち英國の議院政治及び官僚行政の實際であるのである。我々賢明なる國民は、果して孰れを擇ばむとするのであるか、世界列國の大勢に鑑みて、飛んでもなき誤解が無いやうに、擇ぶ所を知らなければなるまい。兎も角も英國の議院政治の發達は、斯の如くにして、歐洲大陸諸國に先だつこと數十歩、是れ亦英國が、歴史上、夙に先進國となり、優勝國となつた所以の第四の原因として、數へなければならぬ所である。

國民はいづれを擇ぶ

結果

斯の如く、第一に大憲章、第二に宗教關係の解釋、第三に海上權の繼承者、第四に議院政治の成功者、此四點に於いて、歴史上、英國は夙に先進優勝の國家となり、民族となつた。其總結果として、第十九世紀の後半頃より、既に明かに世界に於いて、認識

經濟的先進國

せられたる英國の地位は、宇内の經濟的先進國たる點に在つたのである。佛蘭西も或意味に於いて、宇内の先進國であつた、第十七世紀の終りより、第十八世紀の初に至る、所謂、ゲルサイエの朝廷、路易第十四世の時代に於いては、佛蘭西は歐洲大陸に於ける最大國となり、殊に最大の文明國となつたのである。佛蘭西が世界の先進國たり、優勝國たることは、文明的先進國、文明的優勝である。之に對して英國は、宇内の經濟的先進國、經濟的優勝國を實現するに至つた。文明に於ける先進優勝も固より其影響は遠く且つ永きものあるに相違ないが、經濟の實力之に繼ぐに非ざれば、此聲價此光榮を維持することは頗る難い。英國は、文明的先進優勝の點に於いては、或は佛國に對して一籌を輸したのであるが、其經濟的先進國なる所以に於いて、而して又我々獨得の一種の文明上の趣味及び造詣に於いて、何等佛國の下に出でざるのみならず、其聲價、其光榮の持久的價値に於いて、復に之に過ぐるものあり、今日の世界に於いて、横行濶歩争ふべからざる優勝の地位を、世界列國の間に認めらるゝに至つたことは、其國民數百年間の努力の結果として、實に偶然ならざるを知るべきである。

何時まで
續く

一般の餘
裕

家屋

大なる特
色

世界列國の大勢

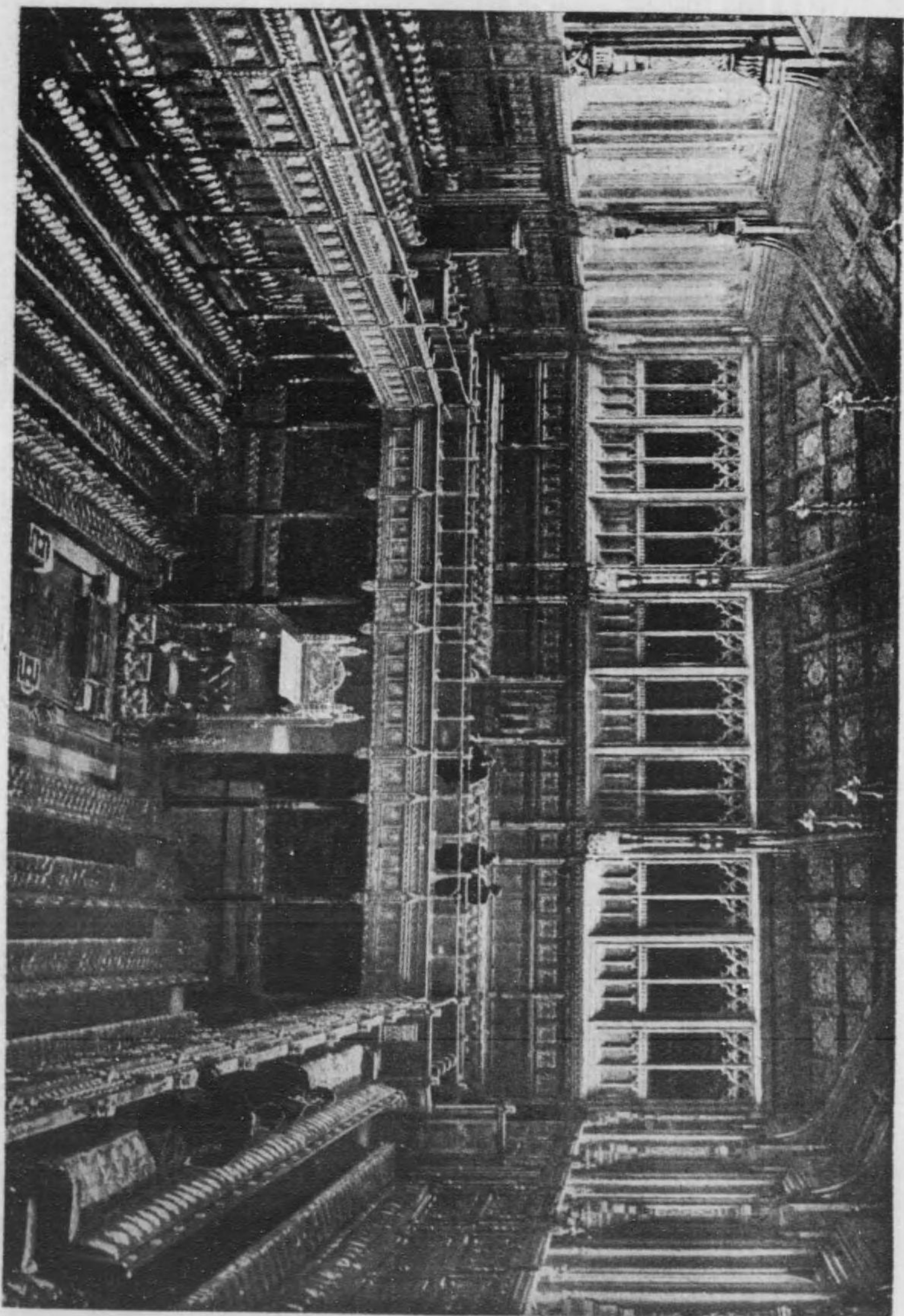
併しながら此先進此優勝は果して何時まで續くであらうか何時まで續き得るの實勢を示しつゝあるであらうか是は更に大に研究を要する問題である。

六八

三 趣味及生活

衣食足つて禮節を知り、倉廩實ちて榮辱を知ると云ふが如く、將た又恒の産ある者は恒の心ありと云ふが如く、斯かる經濟的優勝に達し得た英國人は、如何にも悠たりとせる、品格のある者が多く、又其一般生活の状態も、何となくおつとりせる、裕なる所があるやうに見受けらるゝ。

英吉利の家屋は、外部に粧飾あるもの極めて稀で、多くは硬き煉瓦で堅牢に造り做されてある。西班牙、殊に葡萄牙へ行くと、恰も室内の壁紙の如き、或は赤、或は紫の模様を、市中の外壁に多く見受け、巴里ワグラム街三十四番館、我安達博士の住家の如きも、固より斯かる俗惡初等なるものではないが、頗る美麗なる粧飾を外壁に施してある。斯の如きは英吉利では夢にも見ざる所である。殊に英吉利の家屋



英吉利國。倫敦。

巴力門(國會)。

下院内部の光景。

大陸では

家族本位の
家屋

家庭趣味

外での食
時

の特色は、椽の下から屋根までが一軒であるので、随つて店の街衢と住宅の街衢とは全く區別あるものとなる。大陸の都會では、第一階が店で、第二階が多く店の主人の住所、第三階が全く別な乙家族の住所、第四階は丙家族、第五階は丁家族と云ふが如く住するのが常である。故に商賣屋が軒を列ねて居る所の第三階には高等官が窓を列ね、第四階は會社員が窓を列ね、而して第五階は小學教員が窓を列ねて居ると云ふ状態に於て、小學教員、會社員、高等官及び店屋が皆同一の街衢に住して居ると云ふ結果になる。然るに英國には斯の如き事は殆ど無いので、高等官は勿論、小學教師も、皆其住所は椽の下から屋根までが己れの住所と云ふことになるので、随つて猫の額ほどなりとも、若干の庭園が之に附屬することが出来る、要するに家族本位の家屋と云ふことが英國の特徴であるのである。

斯の如く、家屋の構造既に然りて、家庭趣味の英國に發達せることは、實に著しき事實である。小學教師、會社員は勿論の事、更に優勝なる富の程度に於ける人々ても、其勤務先に於いて中食を取るべく餘儀なくさるゝ場合には、極めて簡單にして質素なる中食を取る。故に英國の中食宿は、極く簡單質素、また随つて低廉なるも

家庭の
食時

家庭行事
のつた
晩餐

御馳走も
亦エエベ
ネルフエヒ
ネル理法

のが常である。相當の銀行會社のある街衢例へばビショップスゲエト街あたりでも相當なる銀行員會社員の爲にする中食宿は大理石の卓子に机掛も掛けないものが極めて屢である。往々又檜木の卓子であることもある。大凡そ食事は家庭に於いてすることの本義とする。英國の朝食は大陸の朝食に比して頗る濃厚である。大陸では通例麵包、珈琲、牛乳、それに時として鶏卵が附屬することがある。くらのに止まるが英國にては更にオオトミールの粥に牛乳及び砂糖野菜ベエコン即ち鹽豚の焼肉是れだけは殆ど必ず取るものとなつて居り、其他尙一二の食物が附屬する。英國の晩餐に至りては殊に一日の勞を慰め、且家庭團樂の重要な家庭行事の一つとなつて居るので、會社員と中等社會の稍低き家庭に於いてすらも、晩餐の食卓に列なるときは、家人が多く、燕尾服に改めて、盪嗽して然る後に食卓に出て來る。食卓に酒を用ゐることは大陸に於けるよりも甚だ稀で、長者が己が嗜好を満足せしむべき長者本位の食卓と云ふよりも寧ろ一般家族本位の食卓と云ふべきものとなつて居る。全體人が食事に於ける美味を感ずると否とは、前回との比較に依るものである。即ち中食に御馳走を喰へれば、晩餐はそれ以上何割の御馳走

品位の上
進

倫敦と東
京

を食はなければ御馳走と感ぜぬ、此何割と云ふことが御馳走を感ずる程度であり原因であるので、而して是は中食との比較である故に食卓に於ける變化、即ち三食を平らに御馳走を食べぬと云ふことが、食卓に於ける一の原則である。是は心理學上所謂ウェエベル及びフエネルの理法、刺戟と感覺との關係を數理的に表明せる理法の一應用たるに過ぎぬのであるが、世人殊に我國人などは、往々之を等閑に視て居るらしい。而して英國人は、正に此點を極めて巧みに應用せる慣習を有して居る。中食を極めて簡單にし、晩餐を家庭團樂の裏に豊富にする如きは、正に極めて巧妙なる右の心理學上の理法の應用である。而して快樂を外界に求めず、家庭に於いて人生の快樂を享有する斯の如きは、英人が其經濟上の裕なるが上に、更に品位の優勝なる點のある一つの重大なる原因として認めねばならぬ所である。

我國の諺に、傾城買ひの糠味噌汁と云ふ事がある。是は往々傾城買ひから來る經濟の逼迫から、糠味噌汁を啜ると云ふことに解釋せられ、若くは外に向つて、びらを切つて傾城買ひなどをする者は、内に向つては、極めて吝嗇の糠味噌汁啜りである。と云ふ意味にも或は解釋せらるゝ。併し右英國の風俗に對しては、正に此諺の裏

面が當籤るので、英國風俗の裏面として、此諺を解釋するには、家庭に於いて、糠味、噌汁を啜る者ほど、外に向つて歡樂を欲求し、遂に傾城買ひに至ると云はねばならぬ。熟ら東京に於ける不健全なる中等社會の生活を察するに、往々それがある。婦人に於いて調理の何たるを解せず、插花若くは活花若くは茶等、總べて家庭をして高尚に、閑雅に、而して和樂あり、歡樂あるの境地たらしむるの術を、少しも解せざる者ほど、晚餐後には、寄席へ行き、土曜日の午後には、芝居へ行くと云ふやうなことに熱心する。主人の商賣柄、寄席や芝居に漬かることが出来ぬとなると、名を交際に托して、極めて個人的慾望の満足たる美服を身に纏ひ、或は慈善團體、或は婦人會等に出掛けることに腐心するに陥る。斯の如きは、即ち是れ糠味、噌汁の傾城買と謂ふべき現象で、凡そ歐洲列國民の中で、糠味、噌汁の傾城買ひより、最も遠く離れ、最も此憫むべき惡弊を免れて居る者は、實に英國人である。

食倒れと著倒れと
巴里婦人

越後の食倒れ、上方の著倒れと云ふ諺は、我輩越後生れの田舎漢の、幼少より耳にせる所であるが、是も亦頗る面白き社會風俗、趣味及び生活の問題に觸るゝことである。巴里の婦人などは、實に食倒れに非ずして、著倒れてある。土著巴里人の生活

江戸兒と上方贅六

佛人と英人

英人と越後人

の實に家庭に於いて、食物其他に於ける質素の状態は、殆ど想像以外である。食倒れと極めて縁遠きものは、實に巴里人であると云つて宜からう。而して彼等の外に出づるや、實に著倒れの甚しきもので、江戸兒が上方贅六を嘲るに、往々嵐山の花見を以てし、其重の中の實に粗末なるに對して、上方人が著物を著飾り、而して其著物を大切にすることの太甚だしきを言ふ。是等の點に於いて、東西の大關とも謂ふべき大都會生活に就いて言ふならば、如何にも巴里は上方方式で、越後の食倒れと云ふことは、英國の家庭に就いて或は當筈まる事であらう。併し、所謂越後の食倒れなるものが何を意味するかは、寧ろ岡目八目の銳利なる批評に譲り、さて英國人が家庭を和樂の境地に化するの巧みなるに、比すべきに於いて、我輩の狹隘なる、併し直接明確なる觀察の範圍よりすれば、特に北越邊の田舎の上等社會の家庭生活を推奨せねばならぬ。物見遊山、宮寺詣と云ふが如き事に非ずんば、人生の歡樂無しとするが如きは、北越邊の田舎の中等以上の家庭の甚だ恥辱とする所である。健全なる家風を維持する家庭にては、其家庭に於いて總べて和樂歡樂のあるべく務め、而して之を務むるの任は、其家の主婦は勿論、若しも居るならば、其家の隠居た

る老人夫婦等が之に當る次第である。是に於いて茶必ずしも形式的の茶の湯といはずの如きは、家庭の毎日の行事の重要な一部を占め、三度の食事の外に、朝夕若くは午後及び夜と云ふが如く、二回茶あり、此間に、小兒は必ずしも之に列らずとするも、家庭團樂の機會を供し、而して農作を談じ、盆栽を品し、又さまで高價なる物に非ずとも、家庭に持傳へたる繪畫若くは道具を品し、時に新聞若くは新聞に現れたる若くは町村の出來事等を談じ、斯の如くにして、毫も外に向つて、或は芝居或は寄席と云ふが如き、歡樂を外間に追求するが如き、惘れなる、果敢なき、寧ろ情なき生活を送ることから、絶對に遠ざかり、あるのである。

北越邊の田舎の中等家庭に於ける茶を説き來れば、端なく、英國の茶を想ひ起さざるを得ぬ。英國の食事は、朝、朝飯あり、午後零時半若くは一時に晝飯あり、夕七時若くは七時半に晩飯あることの外に、必ず家庭團樂して取る所のものが、午後四時の茶である。此時には印度、或は贅澤なる者ならば臺灣の茶を入れ、而して其菓子として乾葡萄を入れたるカステイラを、極く薄く切りたる、所謂レイジンケエク、及び精良なる白麵包を千枚漬の如く薄く切つて、之に精良なるバターを附けたるもの

を食ふのである、人々の好みに依て、此時野菜を少し用ゐる人もある、併し是は稀有の例である。此午後四時の茶の外に、往々又午前十時に茶がある、但し此場合は忙はしき人は多くは食堂に出づること無く、或は其私室、事務用の卓子の上で茶を取るか、或は全く取らぬことである。さて事は右の如く、我國人は、動もすれば、宇内紳士の手本として、健全なる生活の模範として、英國人を推奨するが、其美風をつくりが、北越邊の後れたる、或る地理學者が、北越は島國なりとまで言つたほど交通の不便なる、日本の他の各地方とは懸け離れたる、其片田舎にすらもある事であるから、况や健全なる日本全國各地の田舎の中等以上の社會には、勿論比々として見らるべき事であらうと思ふ。唯、今日の怪しげなる、東京のでも、中等社會生活を觀て、我國の危機、到れりと爲すが、如き社會觀察者は、先づ、以て、汎く日本の田舎を觀察すること、を要するのである。斯かる田舎の健全なる家庭に育ちたる、若くは育つべき運命を受けて生れ來れる好運なる子女が、過つて東京の寄合世帯なる、出來合生活なる女學校の寄宿舎などに入り、躬親ら健全なる生活の經驗をしたことも無い、不運なる、女教員等に指導せられ、遂に英國風とは、日に日に、遠ざかり行くが如き、素直

社會腐敗の第一歩
俱樂部生

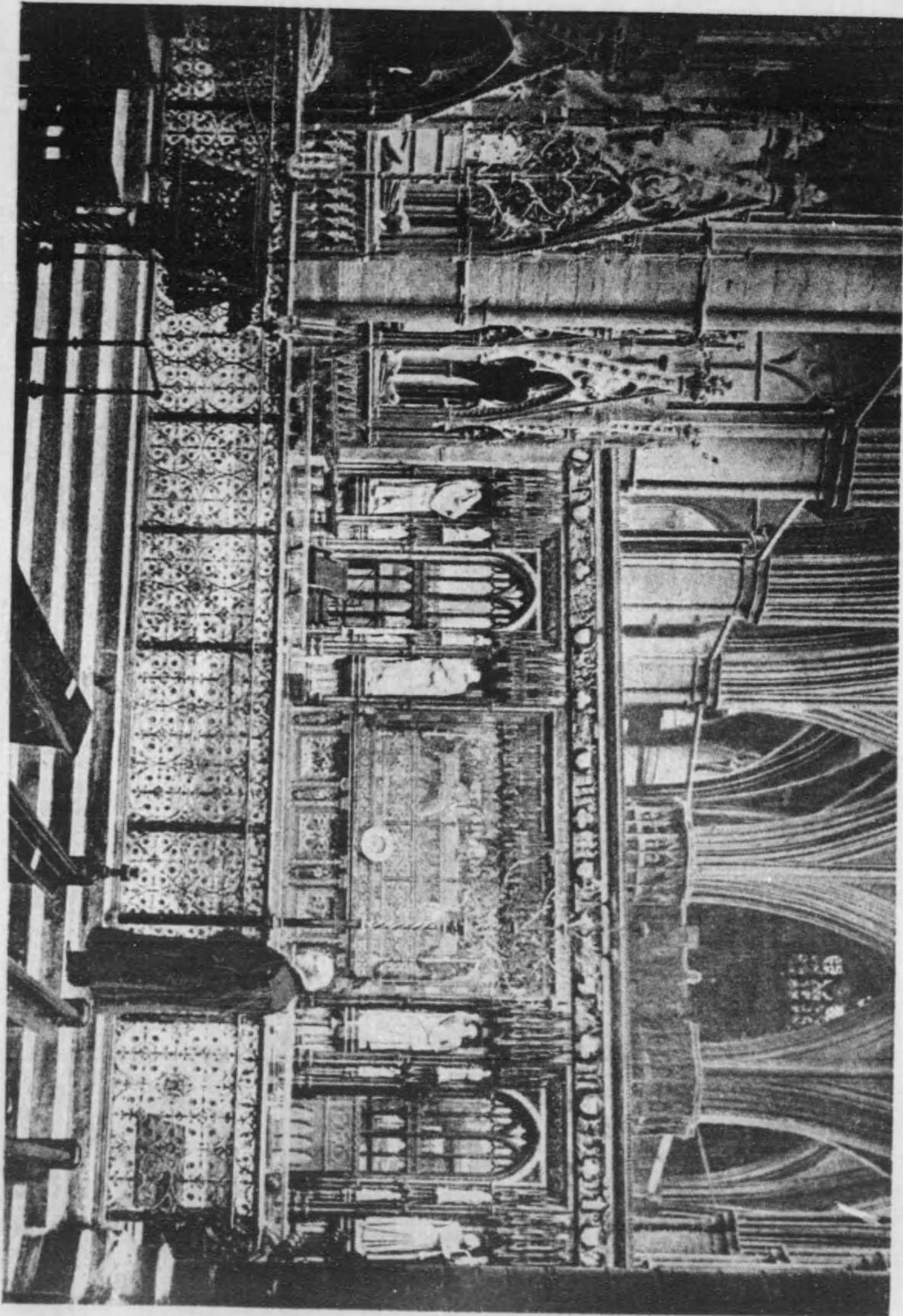
在學證書
の保證人

俱樂部生
活の内容
及特色

女人禁制

たる、沙漠の如き乾燥無味なる都會生活に墮し了するに至るの勢あるは歎すべきである。家庭の索寞無趣味は是れ直に社會腐敗の第一歩である。

英國生活の名物の随一として俱樂部生活を看遺してはいかぬ。政治上の俱樂部はさまで言ふほどでもないが、純然たる社交俱樂部の發達は眞に歎服を値する。俱樂部の仲間入りするのは必ず確實なる紹介を要する、わが國にては紹介といへば唯一通の紹介状を書くこと、甚だしきは唯一枚の名刺を與ふることを意味するに止まるやうな歐風の輕薄なる寫しが普通の様だが、右いふ英國の俱樂部其他への紹介といふは寧ろ我國ていふ保證の類である。俱樂部に入會するは、その俱樂部から仲間として認識されること、丁度十八結交健兒社其社の仲間となると同様、若くは松下村塾の塾生となるといふと同様、本人の價値も、世人はこれで大抵評價する次第である。俱樂部生活の内容も、殆ど塾生の塾舎生活に似たもので、俱樂部員の談笑嬉戲、讀書閑適、先づ我國ならば塾内青年の生活及彼等の間の關係と見て大なる違ひはない。随分眞率、淡泊、輕易、活潑が俱樂部生活の特色として發揮されて居る。女人は特別なるもの以外すべて俱樂部には大禁制である、この點に於



青年的
子的交遊

社交と家

樹木

いて亦俱樂部生活を以て青年の塾舎生活と比較すべき一大事項を認むべきである。西洋普通の社交はいつも、女人につき纏はるゝを免れず、つきまとはるれば直に男子側の重荷となる、かゝる女人の繫縛から全然解放されたる、粉膩離れのせる眞率、淡泊、輕易、活潑なる社交、青年的、男子的、交遊は、俱樂部生活實に之を供し、實に西洋紳士の生活に於けるいのちの洗濯である。我國でたまに見受ける俱樂部は、そこで寄り合つて用事を足す、一種の用辨的、手形交換所の觀があるが、英國の俱樂部はそんなものとは全く違ふ、唯我國で幾分俱樂部の必要を、英國に比しては薄うすともいふべき理由は、社交に於ける女人の附き纏ひ、重荷の未ださまでい、ない點に存する。所て近頃は、丁酉倫理會の家族會など、女人まじりの重荷社交が却て我國に始まつて來たやうだ。かゝる友人同志、細君、子供までの交らひは、英國でもわが國での田舎の如く、社交に於いてせずして、家と家との間の交際、即ちいはゞ家交に於いてする。右の重荷社交を、倫理會員の藝妓引連れ遠足と世間、殊に首府の新聞までが誤解した所で見ると、まだ我國では餘程珍らしいことが分る。

佛國の樹木は、其葉が多くは廣きに過ぎ、且つ繁り過ぎるの弊がある。英國の樹

草苑

木は繁りの中にも、陶淵明の句にある、屋を遶つて樹扶疎、所謂扶疎の趣を備へて居る風景の稍、日本人の趣味に適ふは、斯かる事どもに因るが多いことであらうと思はれる。

樹木の事をいへば、英國では、倫敦の如き大都會の附近と云はず、將た亦是より遠く離れたる田舎と云はず、假りに名づけて草苑とも謂ふべき所の多いことは、實に著しき特色である。草苑、所謂ヒースを云ふので、これは唯、天然の儘に放置せらるる草原ではない、頗る手入れせられたる草原、寧ろ草の庭と謂ふべきで、彼方此方、参差として老樹の立てるあり、其間毛氈を敷き擡げたるが如く愉快なる芝草が繁り、固より土地は眞平まんなかでなく、愉快なる曲面を描いて、多少の紆折まがれのある隴畝である。

悲しむべき歴史

斯かる草苑の由來に就いては、やゝ悲しむべき歴史の伴ふことが多いのである。英國人はこれを誇るかも知れぬが、我々は必ずしも誇り一方の事實とは看做さぬ。乃ち英國は、既に海上の覇者となり、植民政策に於いて成功し、海外貿易に於いては、争ふべからざる宇内第一の巨額に上つて居る。是に於いて英國人は、自國に穀物を生産するの必要を除き多く感ぜざるに至り、随つて英國の農圃、田畑は、次第に必

上流のみ成り立たぬ

各國の食料の豊否

要の減却よりして、先づ以て牧場に變り、此牧場が復た更に其必要の減却より、斯かる草苑となつたのである。即ち之を小さく喩ふれば、財産の次第に進める家が、昨年まで野菜畑としてあつた宅地附近の畑を潰して、果樹園と爲し、更に其果樹園の果樹を抜き去つて、松、楓と云ふが如き庭木を植えて、庭と爲すと云ふと同様の順序である。勿論一面より云へば、斯の如きは頗る其家の誇りとするに足る事であるが、併しながら他の一面より云へば、其國の生産力が次第に減り、殊に其國民に、上流のみ徒らに多くなり、而して國の骨髓となり、若くは手足となるべき中流及び下流が、次第に減じつゝあるの實證となるのである。斯かる形勢よりして來る所の英國の前途には、遠慮ある者の社會の爲に、深憂大患と爲す所のものが、潜みつゝあるのである。

少しく古き統計ではあるが、自國で生産せる穀物を以て、自國人民の食料を供給するとすれば、歐洲列國で、埃太利、匈牙利は、一年三百六十五日の中七日分不足する。佛國は三十五日分不足し、獨逸は百二日分不足し、而して英吉利は二百八十六日分不足する。是が即ち前條の説話に對する統計上の事實である。

霧の生活

再び英國と北越

年百年中同じ景色

英國殊に倫敦の霧の深いことは既に述べたが、此霧の生活は併しながら頗る趣味のある生活と謂ふべきである。三冬十旬、一天暗澹たる濃霧の裡に生活する者にして始めて一陽來復、春日の熙々たるに對し、實に東帝の駕を回らして斯土を惠むの恩澤を感謝するの歡喜の念に充たさるゝのである。此點に於いて又英國は、日本に於いては北越地方と對比すべき點がある。實に十月の末、東京では小春の日和など云つて居る頃から始まつて、十一月、時雨の頃ともなれば、越後地方の空の色は、殆ど歐羅巴獨逸邊り、北緯五十度以上の地に於いてならては見られぬ如き、暗澹たる天地の悽愴悲痛を現すが如き風色となるのである。之に比ぶれば、太平洋岸の逗子、葉山、鎌倉、由井ヶ濱、七里が濱、八松原の邊りはいふに及ばず、東京の如きも、年百年中春の如き光景である。恰も以太利のナポリ、佛蘭西のニイス邊りに於いて見るが如き、年中空の開いたる、長閑過ぎるやうな景色で、隨つて割合に斯かる地方では、日本と云はず、西洋と云はず、天地四時の變が乏しいのである。まことに、さのふこそ早苗取りしか、いつの間に稻葉をよぎて秋風ぞ吹く、袖ひぢてむすびし水のこぼれるを、春たつ今日の風やとくらむと云ふが如き、詩人の感懷を催すべき趣

獨逸

英國

深沈靜慮

東京では哲學は駄目

は頗る乏しいといはねばならぬ。此點に於いて、歐洲大陸にては、獨逸は業に既にさすがにザクセン南境の山々よりハルツ山脈を控へ、是より遠く北に向つて傾斜せる土地であるだけ、越後地方など、近く四時節物の變は頗る富んで居る。英國に至りては之が更に猛烈に出て來るので、倫敦霧の生活は實に倫敦の春をして價値あらしむる所以、日本人が彌生の空を稱ふるが如く、英人の五月の空を讚美することは實に至れり盡せりである。凡そ四時の節物の變化に富むは、是れ天地の美を人間に印象せしむるの大なる所以、殊に三冬の風物暗澹蕭條を極むるが如きは、直に人を驅りて内省的、生活深沈靜慮の境に立ち返らしむる所以である。江戸兒の氣象は、その理想化せられ醇化せられたるものに於いて、極めて人心を壯快清新ならしむるものありと雖も、江戸的習氣就中今日の東京習氣などに、最も缺けたる點は、深沈靜慮、内省的生活の乏しきことに在りはせぬであらうか。斯の如く、年百年中春の如き陽氣なるそはくしたる空の色の下に於いては、餘程旋毛の曲つた變物でなければ、深沈靜慮や内省的、生活は出來にくい。縦しや時偶々深沈靜慮、内省的、生活めかしたことを言ふ者があらうとも、それは何等の深味を有せず、あら

ぬ方に向つて横流し、所謂横なぐれの思想に墮し了せるものであることが屢であるのである。斯の如き天然の下には、亦それ相應の長所があるべきものであるが、心の底から眞面目なる哲學思想は、我日本ならば東北北陸若くは山陰地方からならでは出ぬものであらうかと思はれる。我日本に於いて、曲學阿世は固より沙汰の限りであるが、眞に心の奥底から出る所の哲學眞に其名稱に値する所の哲學思想を涵養せむと欲せば、必ずや是等の地方に於ける帝國大學の文科大學に於いて之を期待せねばならぬことと思ふ。日本海沿岸を目して裏日本と云ふことが常であるが、成程地中海が全盛を極めて居つた時分には、波羅的海は勿論、北海、白海、英吉利海峽の沿岸地方は、是れ裏歐羅巴であつたのである。併しながら今や則ち如何地中海こそ世界の公道であれ、地中海沿岸は寧ろ裏歐羅巴で、歐羅巴思想の精華文明の中樞は、寧ろ嘗て裏歐羅巴であつた所に於いて存するてはないか。而して裏歐羅巴中の裏とも謂ふべきは、其裏をも外れたる島國、英吉利に於いて在るのである。所て歐羅巴人の中で、最も生眞面目なる思想、生活品性を有する者は、英國人である。歐羅巴に於いて、最も生眞面目なる哲學思想を發達せしめたものは、獨逸で

裏日本と裏歐羅巴

地氣の變遷

古物保存

老木に注連繩

品位人情の表現

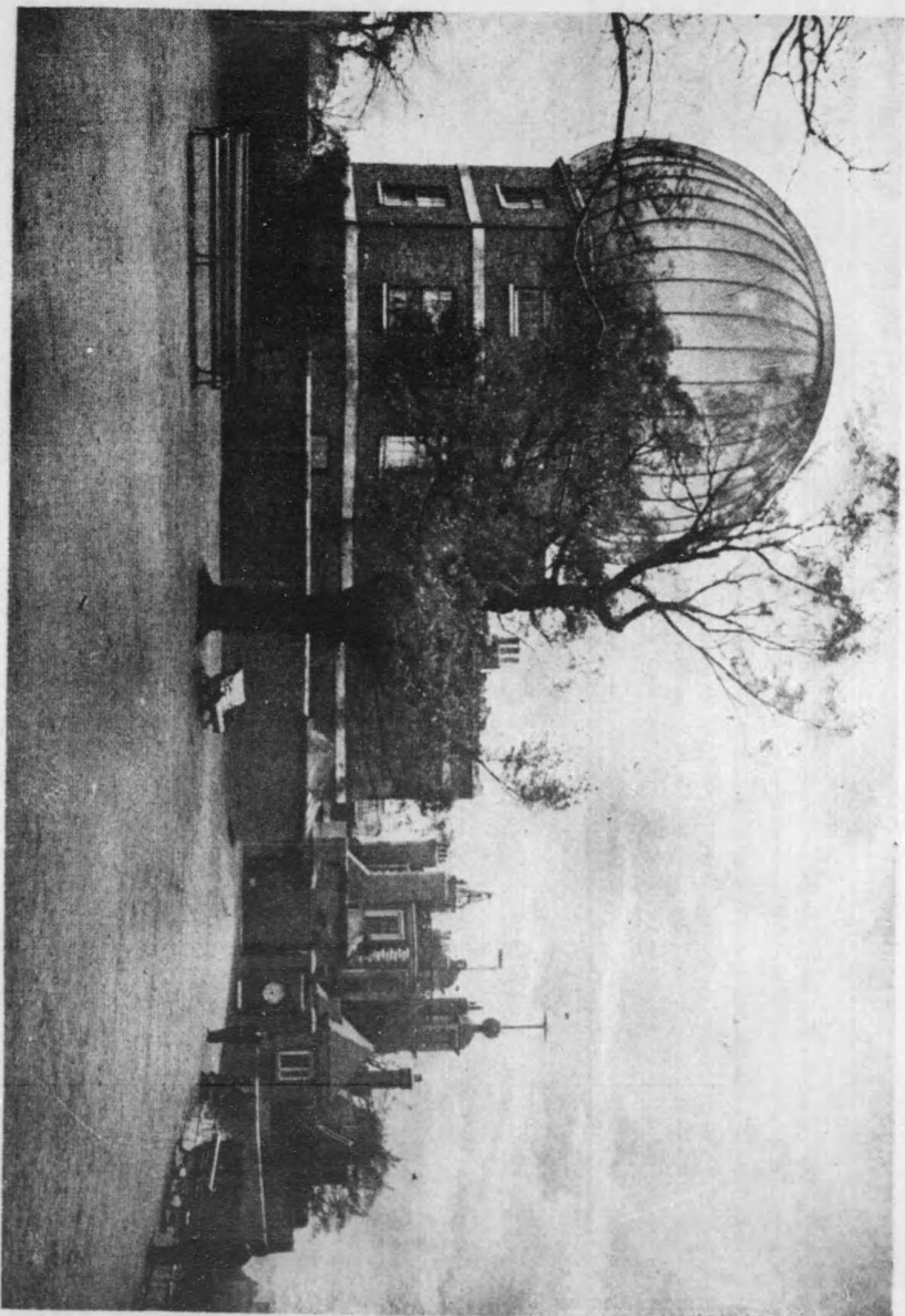
東洋の英國!

ある。斯の如き點は、日本の地氣に多少の注意を拂ふ者の、一面には尊重を以て、一面には興味を以て觀察し考慮すべき點であらうと思ふ。

古物保存は英國の一大特色である。六月十八日、ケント州、ホオクホルスト村に、先年來の畏敬する知人、此國高名の思想界指導者、フレデリック・ハリソン翁を訪うた。此村の寺院は、ノルマン征服以前百餘年、既に建立せられたるもので、而して其寺院の門前に、楡の老木がある。恰も我國で老木に注連繩を張つて之を保存すると同様、さながらの注連繩が張られて保存せられてあるのである。斯の如きが獨りホオクホルストに於いてのみならず、英國に於いては比々として之があるので、人工の精巧を極めたる古代美術と云ふが如き物でなくとも、一草一木の微と雖も、時代を経ると云ふ點に、非常に重きを置いて、大切に保存する。古物を保存すると云ふは、其美術上の價値は姑く措いて問はずとするも、實に人情の極めて醇厚なるを徴すべきもので、英國人の品位は、復た斯かる點にも、現はれて居ることは、明かである。電車の往來に都合が悪いと云ふので、聖堂の森を伐り倒すやうな民族とは、英國も東洋と西洋とで、多少違ひがあるやうに思はる。

英國民族をば、品格ある國民とすることは殆ど世界の通りもので、此點は我々の如き、英人に對して同盟をも結び、且普通教育の外國語に英語を學ぶといふが如き國民は勿論の事、多少の反情を英國に對して有する國民でも、共に認むる所の事實である。實に英國人は、他の特色は暫く措き、他の長所は暫く言はずとするも、品格ある國民と云ふことだけは、殆ど世界に通つて居る。而して、飲酒の少きことは英國に於いて最も著しく、賭博の少きことも亦頗る著しい。尤も此の賭博に關しては我々日本人から見れば何も特に言ふに足るほどではないが、歐洲人の一般の標準からすると、實に英吉利の或は、或は珈琲店、其他に於いて、トランプ等の賭博に耽つて居る人士、若くは勞働者の稀なることは、甚だ目立つ所の事實である。

英國民の言語、即ち英語に於ける言語の精緻は、既に佛國の政治學校教授ブットマイ氏の、英國民族心理に關する研究にもいへる如く、是れ亦英國民の一大特色である。氏も擧げて居る如く、「美しい」と云ふ意味の言葉が、佛蘭西には四つしか無いのに對して、英吉利では實に十二ある。同じ美しい、併しながら多少心持が違ふ所の「美しい」といふ性質の形容として、十二通りも種類が變つて言葉がある、餘り言語



英吉利國。倫敦。

綠威(グリニチ)天文臺。

實に世界子午線の基點なり。

の貧弱でもない佛蘭西語に對しても、實に三倍の優勝を現して居ると云ふ事は、是れ實に英國人の一つの誇りとすべきである。斯の如くにして、哲學思想に於いては、或先生の如きは、獨逸語でなければ哲學を學ぶことも出来ぬとまで曲論し、自家の英語に關する知識の貧弱は考に入れない者もあるやうに、兎も角獨逸語は哲學思想の發表としては頗る發達して居るが、思想殊に實際の事項に關する思想を言ひ表す所の國語としては、英語の如く發達せる國語は無いのである。是は、ブ、ウ、ト、ミ、イ、氏の斷案で、我輩も亦之に和せむとするのである。併し氏はそこまでは言はなかつたが、我輩は此點に就いて更に一言を加へやうと思ふ、乃ち此美しきを表す所の十二種の英語は、其語源を見るに、アングロサクソンの言葉なるあり、羅甸の語源を有するあり、又はノルマン、デエン等、各種の語源を有するのである、即ち斯の如く英吉利が言語に豊富なることの一原因は、實に亦嚮に述べたる、其民族が複雑なる由緒を有する民族たるに存する。我國にても亦然りて、若しも我國が所謂大和言葉のみであつたとするならば、決して言語の豊富は致し難いのである、今日古調の和歌に於いて用ゐらるべき語彙の如何に貧弱なるかを見れば、思半に過ぐるであら

亦民族
由緒の賜る

う。併しながら若しも我々にして、各地方の俗語及び漢語を用ゐるとすれば、美しいといふことの形容詞も、五種や七種に至ることは必ずしも困難でないのである。斯の如く、英國民族の優勝が、其來歴たる民族の複雑と相應して、其言語にも、列國民の企て及ばざる特長を有するに至つて居ることは注意すべき事柄である。

四 對外的英人

英國は、古來他國の侵襲を受け、甚だしきは、征服を受けしこと、嘗に、一再のみならず、りし點に於いて、甚だ我國と選を異にする。然るにも拘らず、茲に極めて不思議なるは、英人の氣性の昂々乎として、獨立不羈、毫も外人外物の拘束を受けず、殆ど無愛想の危險に瀕するまでに、自主自立の面目を保持し、發揮するの點に存する。我國は古來未だ曾て外國の征服を受けしこと無きのみならず、偶々我國の邊境を覬覦する外敵に遭ふことあるも、斯かる機會に際して、毎に我が威武を發揮し、未だ曾て何等の損害凌辱を被りしことあらざりしに拘らず、事毎に外人の鼻息を窺ひ、外

在外英人
の象徴及
生活

二に二が
右も左顧
四

日英の兩
不思議

外人に墨
付のよか
らぬ英人

決して化
醇せず

ピアリッ
ツ英人の
一例

物外事の支配影響拘束を受くることの甚だしきは、亦是れ實に不思議なる現象と云はねばならぬ。我國人は、二に二を加ふれば四となると云ふ斷定を試みむとするに際しても、先づ獨逸の學者は之に就いて如何に解けるか、佛國の識者は、之に就いて如何なる解決を下せるかを參酌せる上ならては、斷々乎として自家の眞理と信ずるの造詣を公言することを敢てせぬ。我、不思議なるか、彼、不思議なるか、斯の如きは東洋の英國と西洋の英國とに於ける、正反對の事實と云はねばならぬ。

英人の無愛想に瀕するまでに、獨立不羈、自主自立主義の完全なる發揮は、一面に於いて、英人をして、外人の間に、不人望とまでは行かぬとしても、餘り墨付のよき方ではなくするの原因となりつゝある、殊に英人は、一たびおのが故郷を離れて外國に流寓し漫遊し、外國社會民族の間に雜居するに至りても、殆ど寸毫も其英國風の生活、英國風の社交の調子を枉げ、若くは化醇すること、を敢てせぬのである。佛蘭西の南方、ビスケイ灣の灣心に近き所に、ピアリッと稱する風光明媚なる避暑地がある。此地は佛國及び外國の中流以上の紳士の避暑別莊地であり、勿論國防上相當の規模を有する兵舎もあるが、此別莊地に於いて頗る重なる勢力を占め、主なる

アングロサクソンの生活

七

部分を占めて居るのが英國人である。佛國人は最初富める英人の別荘を此の地に建つることを歓迎し、遠からずして英人は我店に就いて野菜を求め、我店に就いて雜貨を購ふてあらうと待設け、盛に供設を張つて、以て其品位あり購買力ある顧客を持ちつゝある。併しながら此新來の英人は、是等に就いて何等沒交渉の態度を執りつゝあり、而して彼等は、其要する所の殆ど總べてを英國より持來たし、其斯くして得られざる物に於いても、純然たる英國風に化醇して、佛人が之を臺所口より持參し、殆ど憫を乞ふが如き態度を以て上納するに非ざれば、敢て佛國の品物を手にしやうとせぬ。生活品、必需品、既に然りであるから、彼等の言語、應對、風俗、慣習等は、固より何等交譲の態度を執ること無く、宛ら其身の外國の領土に在ることを知らざるものゝ如く、而して其土地の主たる佛蘭西人は、久しからずして之に屈服し、佛人の方で却て次第々々に英國風に化し、英國風の言語、應對を執るに至るのである。

斯の如きは唯、獨りピアリッツに於いて現に行はれつゝある事實たるのみならず、實に英人の國外に出づるや、到る處に見る所の事實である。英人は其本國に於

自他くまで
自主自立

外客に對
する態度

英人の對
英人感情

いては、外來の異民族、旅客に對して、何等生々しき露骨なる國自慢をしやうとせぬ、されば外人の來りて英國に遊ぶ者は、獨逸に於けるが如く、必ずしも國自慢の壓迫に對する不快とまでもないが、多少重苦しきやうな感じを有たぬのである。英國人は、來つて己れに投ずる外來民族に對しては、彼れ其れ我を如何せむやといふ價値も無いと云はむばかりに鷹揚なる、殆ど其人の外人たることを、何等念頭に置かぬが如き態度である。此點に於いて獨逸民族とは頗る違ふ。獨逸民族は、既に外人に對しても國自慢をするほどであるから、英人が其國外に出て、振舞ふ態度、即ち英人が獨逸に遊んでも依然として其態度を改めず、ピアリッツに於けるが如き特有なる態度を發揮するに對しては、國自慢の稚氣滿々たる獨逸民族の、甚しく感觸を害する所である。輒近に至りて、獨逸の國勢、國運の隆々たる成績は殊に著しく現はれ、千八百九十九年までは、キールの海軍兵學校の卒業生年々僅に三十人を算ふるに過ぎざりしものが、一躍百三十人を出だすに至り、海軍の上にも、今や英國の二國を敵として之に備ふるの主義は、稍、動搖を始めたが如き觀なきに非ず、而して其主なる眼底の敵國は、實に獨逸に在るか、の如き感あり。吾人の將來は海

上。に。在。り。と。宣。言。せ。る。獨。逸。皇。帝。の。理。想。は。端。なく。も。其。外。戚。の。國。たる。英。國。の。國。是。と。海。上。に。於。いて。陰。に。陽。に。相。衝。突。せ。む。と。す。る。の。氣。勢。を。示。し。つ。い。ある。が。故。に。英。獨。兩。國。民。の。餘。り。工。合。善。き。間。柄。に。非。ざる。は。當。然。て。ある。が。併。し。な。が。ら。斯。か。る。國。是。の。敵。對。が。根。本。を。爲。す。と。云。ふ。よ。り。も。英。獨。兩。國。民。間。に。は。右。の。如。き。民。族。的。社。交。の。調。子。に。於。ける。衝。突。が。頗。る。先。天。的。に。相。合。は。ざる。も。の。ある。に。坐。す。と。云。は。ね。ば。な。ら。ぬ。

陰陽相和す
東洋人の癡癖事大主義
英人の東洋に受け所

英。人。の。東。洋。に。於。ける。や。却。て。陰。陽。相。和。す。る。の。觀。が。あ。る。即。ち。曩。に。珍。奇。不。可。思。議。の。雙。幅。と。し。て。擧。げ。た。る。如。く。精。悍。驍。勇。眞。に。其。英。氣。に。於。いて。東。洋。の。盟。主。た。る。に。愧。ぢ。ざる。一。種。の。氣。象。を。具。ふ。る。日。本。人。と。雖。も。が。外。事。外。物。を。氣。に。掛。け。外。人。の。鼻。息。を。窺。ふ。に。於。いて。殆。ど。民。族。の。先。天。的。癡。癖。て。ある。か。の。如。き。感。が。あ。る。即。ち。斯。か。る。少。く。と。も。態。度。に。於。ける。事。大。主。義。は。是。れ。東。洋。人。の。癡。癖。と。云。つ。て。差。支。な。い。而。し。て。斯。か。る。癡。癖。は。極。端。な。る。獨。立。不。羈。自。主。自。立。主。義。の。英。人。に。對。し。て。は。恰。も。酸。と。亞。爾。加。里。と。が。相。和。合。し。相。融。和。す。る。如。く。何。等。の。衝。突。扞。格。を。來。た。さ。ぬ。の。て。あ。る。獨。逸。民。族。と。英。國。人。と。の。間。に。於。ける。が。如。き。柄。鑿。相。容。れ。ざる。不。便。な。る。現。象。は。東。洋。に。於。ける。英。人。と。東。洋。民。族。と。の。間。に。は。現。は。れ。來。ら。ぬ。の。て。あ。る。是。れ。英。人。が。案。外。東。洋。に。於。いて。受。け。の。好。

東西普通語の相異

對外經營の機敏

傍若無人

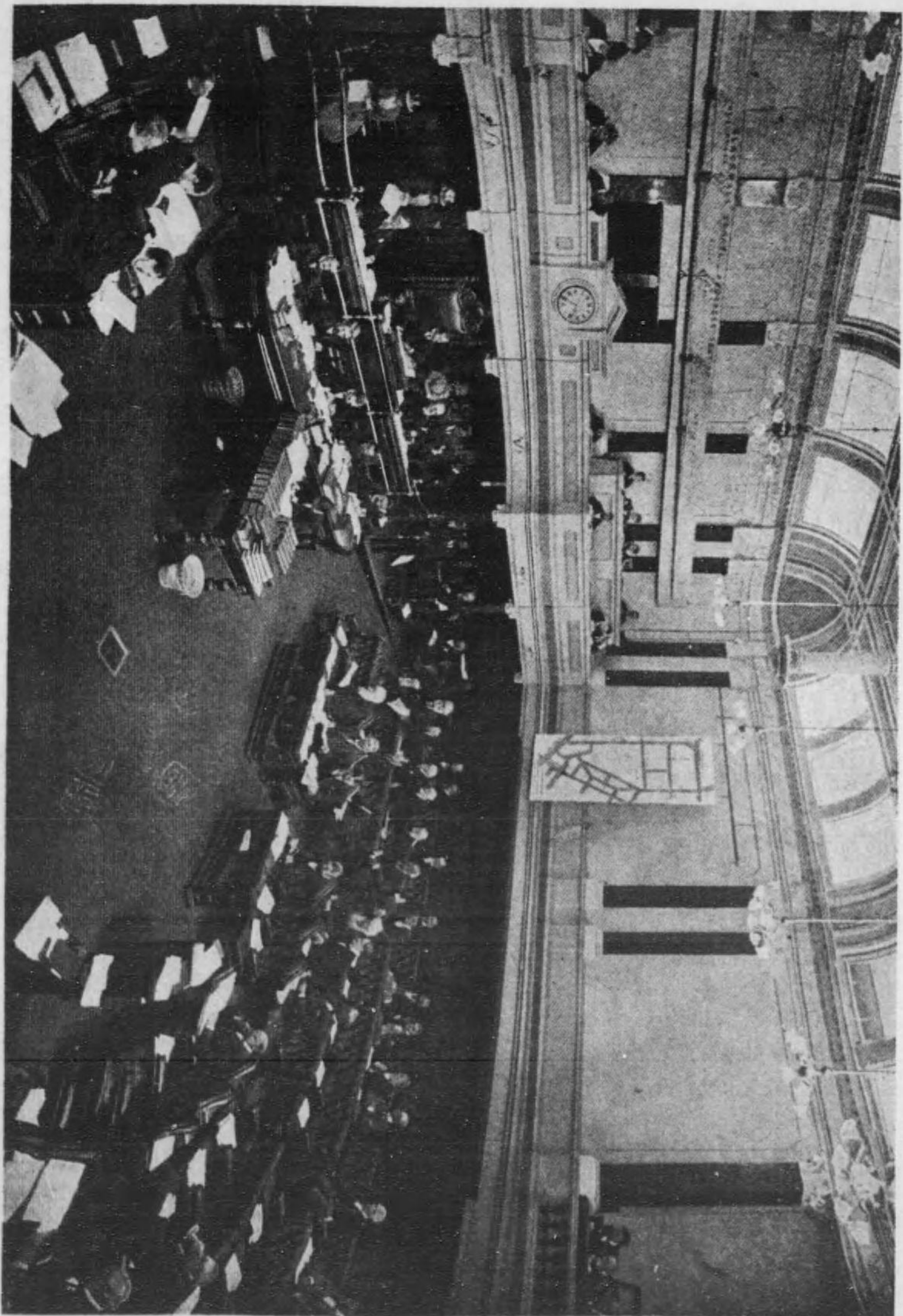
き。所。以。に。し。て。而。し。て。東。洋。人。の。目。よ。り。見。れ。ば。其。應。揚。に。し。て。迫。ら。ず。飽。く。ま。で。且。那。式。貴。族。的。態。度。を。發。揮。す。る。に。於。いて。比。較。的。成。功。し。つ。い。ある。所。の。英。人。が。却。て。東。洋。に。於。いて。多。く。の。尊。敬。を。受。く。る。所。以。て。あ。ら。う。と。思。ふ。今。日。歐。洲。大。陸。に。於。いて。佛。國。語。を。以。て。普。通。語。と。爲。す。に。相。對。し。て。東。洋。に。於。いて。は。英。語。が。普。通。語。と。な。つ。て。居。る。の。は。固。より。英。國。の。海。上。權。力。の。夙。に。東。洋。に。發。揮。せ。る。に。も。因。る。が。亦。是。れ。斯。か。る。社。交。の。調。子。に。於。ける。東。洋。人。對。英。國。人。の。相。互。關。係。に。も。職。由。す。る。と。せ。ね。ば。な。ら。ぬ。

斯。の。如。く。極。め。て。無。頓。著。な。る。が。如。き。應。揚。な。る。態。度。を。有。す。る。英。國。人。は。其。對。外。經。營。に。於。いて。社。會。と。し。て。も。個。人。と。し。て。も。頗。る。亦。機。敏。を。失。は。ざる。の。長。所。を。有。し。て。居。る。商。業。上。の。取。引。に。於。いて。然。り。國。際。關。係。外。交。關。係。の。機。先。を。制。す。る。に。於。いて。然。り。區。々。た。る。尾。生。の。信。宋。襄。の。仁。に。拘。泥。し。て。外。交。關。係。に。於。ける。大。計。を。失。す。る。が。如。き。は。英。人。の。夢。に。も。陥。ら。ざる。所。て。あ。る。是。等。の。點。に。於。いて。英。人。は。亦。頗。る。傍。若。無。人。な。る。所。が。あ。つ。て。爲。に。對。手。國。の。感。觸。を。害。す。る。事。が。往。々。無。い。て。は。な。い。併。し。な。が。ら。斯。の。如。き。は。今。日。の。國。際。道。德。の。水。準。よ。り。す。ば。固。より。何。等。擧。げ。て。言。ふ。に。足。ら。ざる。事。で。寧。ろ。之。に。對。し。て。指。を。咬。へ。て。他。の。成。功。を。羨。み。若。く。は。他。の。成。功。を。妬。む。者。が。意。氣。地。が。無。い。

アングロサクソンの生活

と云はねばならぬ。

英人の長所、寧ろ特色が、其對外的に發揮せらるゝや實に斯の如きものあるが故に、植民地經營の發展成功は、實に近世三百年の史乘を通じて、英人の社會的事功に於ける一の大なる誇りである。英人は第十七世紀より第十八世紀へ掛けて、先づ北米合衆國の地に於いて成功し、尋いて其北、加奈、太版圖に於いて成功し、第十九世紀に至りては、濠洲及び新西蘭に於いて成功し、第十八世紀の後半より、東印度商會の徴々たる機關を通じて、遂に第十九世紀に及び、印度三億の人口を支配するに於いて成功し、其餘力延いて後、印度に於ける海峽植民地に及び、既に此咽喉を扼せる英國は、第十九世紀の後半に先づベンガル灣頭の緬甸、エラソ、ゾイ河口のデルタを占領するに成功し、尋いて第十九世紀の盡くる前十五年に、緬甸の版圖全體を狼吞するに於いて成功し、第十九世紀の後半に於いては、著々埃及の死命を制するに於いて成功し、第二十世紀の劈頭に於いては、力と財とを費すこと驚くべき巨額なりしにも拘らず、結局亞弗利加の南方、其嘗てより有せる岬角植民地の體面を完成して、亞弗利加經略の基地を建造するに於いて成功し、第十九世紀の末葉に於いては、



英吉利國。倫敦。

倫敦郡會(カウンティ・カウンシル)。

開會中。

其十

其十一

軍略上の
要地の占

其一

其二

其三

其四

長江沿岸の利源に占據し、經濟的策源地を支那に樹立するに於いて成功し、餘力は
今や復た幾分南米の一角にまで加はりつゝあるのである。

植民地の發展斯の如きものあるのみならず、英人の泰然自若たる鷹揚の態度の
中にも、極めて機敏なる銳鋒を内に藏して居ることは、其軍略上の要地を殆ど漏れ
なく占有せるにも知らるゝ。地中海の咽喉、其大西洋との聯絡に於けるは實にジ
ブラルタルである。英人は夙に西班牙との一の紛争事件に乗じて、第十八世紀の終
りに於いて、此要地を占領して了つて居る。地中海の要地、埃及の前衛として、シ
ロス島があり、是れ亦業に既に英人の占有に歸して居る。蘇士運河は、其地中海と
紅海、さては印度洋、尋いて東洋に通ずる、實に世界有数の要害の地である。而して此
運河開鑿を思ひ立つた者は佛人であるにも拘らず、此運河の全權は實に英人の掌
中に歸して居る。此要地を握るは、實に埃及の死命を制する所以なるのみならず、
亦實に世界の海運、海上權力の死命を制すべき一重要地點である。而して紅海と
亞刺比亞海との間に於ける頗る樞要なる一海門、亞丁は、亦是れ既に英國の占有に
歸して居る。之に對して佛蘭西は亞非利加のジブウチイを占有せりと雖も、形勝

其五

世界列國の大勢

七二

到底亞丁に對抗するに足らぬ。印度洋は赤道より南に向つて廣漠たる海の平原を開いて居るが併しながら斯かる大海原にも亦自ら要地がある。印度半島が遠く南方に突出せる、其南端の海角錫蘭島の南古倫母は即ち是れて西、亞刺比亞の半島バベルマルデブの海峡より東海峡植民地に至る、其間、普通今日の汽船航路を以てすれば約十日、その中央の要地を占むるのが即ち古倫母である。亞細亞の東南端はやがて東印度群島に連り、東印度群島は延いて濠洲の大陸を控ゆ。而して東印度群島の最も大なるものはスマタラ、瓜哇、ボルネオ、セレベス、之に續いてバプア一名ニウギニアは既に濠洲の一部を形造る。斯の如き廣大なる島々は、亞細亞大陸と濠洲大陸との間に横はり、是等島々の咽喉は實にマラッカ海峡である、而して英人は夙にマラッカ海峡の死命を制すべき海峡、植民地を經營し、新嘉坡の要港を固めて居るのである。馬來半島の岬角を過り、磁針一たび東北方を指すや、比律賓群島を右舷に見て、而して臺灣海峡を指しつゝ、北上する、即ち亦香港の要地を英人は夙に經營して居る。轉じて亞弗利加を窺へば、喜望峰の發見が歐洲と亞細亞とを海上より結付けけるの重要な事件であつただけ、それだけ此喜望峰の占有者は大西洋

其六

其七

其八

其九

新大陸に於ける經營の成功と失敗

本國對植民地の運命

及次印度洋の死命を制すべき形勝の主權者なりと云はねばならぬ、而して斯かる主權者は實に英國である。東大陸に於ける英國の成功既に然り、西大陸も亦其例に洩れず、英人は始ど西大陸の上半に占據し、茲に歐洲北方文明の輝きを示しつゝある。

併しながら談一たび新大陸の經營に及べば、我々は英國人が民族的事功に於いて成功し、而して國家的事功に於いて幾分の失敗を爲せるを擧げねばならぬ。亞米利加合衆國は明白に英國民族の民族的事功の成功である、併しながら亦是れ明に國家的事功の失敗と云はねばならぬ。遮莫此一面に於ける成功は、業に既に是のみを以てするも、英國民族の世界に於ける優勝を成すに足るもので、他面に於ける失敗ありと雖も、尙英國人をして列國の間に横行濶歩せしむる所以となりつゝある。併しながら斯の如く世界各地に散在し、本國よりも實力に於いて恐らく更に優勝なる、且將來更に大に優勝を増すべき植民地の經營の竟に如何なる運命に終るべきかを説明する所以の、一標本として、英本國對亞米利加合衆國の關係成績は、一個の著しき事件と云はねばならぬ。今や濠洲の地方三百萬方哩、而して共

アングロサクソンの生活

七三

和政治の一大聯邦は此地に起り、今尙英本國と分離するに至らずと雖も、或は或る他日何等かの機會に於いて、此土亦北半球の新大陸に於ける運命を追ふものに非ざらむを。

セシル・ロオツの壯圖は、其餘り長からざりし生命と共に亡びず、南亞戰爭の結果、英國は亞弗利加の南方に於いて、既に頗る廣大なる植民地的帝國を築くの基を成したることであるが、是れ將た他日英本國と如何なる關係に終るであらうか。印度の將來に關しては、今茲に絮説せず、加奈陀に就いての將來も亦茲に説かざるも、斯の如く觀來れば、日輪未だ曾て其版圖を沒せずとまでいはるゝ廣大なる而して、世界の各地に散在せる英國の領土、植民地、經營は、其遠き將來に於いて如何なる運命となるべきか。民族的事功に於ける成功は、是れ固より言ふまでもないが、果して能く國家的事功に於いても、尙相當の成功を收め得べきであらうか、是は頗る攻究を値する問題と云はねばならぬ。

本國と植
民地との
密關

將來の問題は、姑く措き、斯の如く經濟上優良なる成績を收めつゝある所の植民地を有する英本國の經濟は、實に植民地と密に相關する。加奈陀、コロンビアより

英國と阿
房宮

經濟獨立
の失却

の麥粉、濠洲よりの木材、印度よりの茶、亞弗利加よりの羽毛、凡そ世界の珍奇なる物若くは生活の必要資料は、之を其廣大なる世界各國の我植民地より蒐め致して、其昔し秦の始皇が、燕趙の精銳、齊楚の積蓄を阿房宮裡に蒐集せるよりも、更に羨むべく誇るべき、盛なる社會經濟生活を英國は今や營みつゝあるに至つた。併しながら、此羨むべく誇るべき社會經濟生活は、やがて復た英本國の經濟の獨立の失却である。若しも今日の英國にして、一たび或る事變のため是等の植民地を失ふか、將た之を失はざるまでも、是等植民地との交通が何等かの故障を受けるならば、英本國四千五百萬の人民は、明日より直に疲弊困憊の暗憊たる悲境に陥るべく餘儀なくさるゝのである。之を例へば、石油ランプを用ひ、おさんの手を太くし、鬢を焦して、粗末なる薪を焚く初等なる臺所經濟に比ぶれば、一莖の燐寸能く瓦斯を點じて、條々數行の調理を成すべく、一たびスキチを拵つて煌々たる電燭條々滿室の不夜城を現する、其便利其効果、是れ實に羨むべく誇るに足るべしと雖も、斯の如きは畢竟依他的生活に過ぎず、寧ろ曩者の獨立生活の安全なるに若かざるは、是れ是非もなき事實である、今や英國の社會經濟は、亦頗る電燈、瓦斯生活に類しつゝあるので

依他的生
活

アンクロサクソンの生活

ある。既に述べたる如く、英本國に産する穀物を以て英本國の住民を給養するときは、一年三百六十五日の中、僅に七十九日を支ふるに過ぎざりしは、既に十數年前の過去である。今日に於いては、是よりも尙更に數量の低さを示しつゝあるのである。

自由貿易主義

斯かる特別な經濟事情よりして、英國に於ける經濟説が、從來極端なる自由貿易主義をも聞くことの屢なりしは、是れ固より自然の結果である。世界到る處自由貿易説とコブデン、ブライトの名とを説くは、實に斯の如き社會事情の根柢を前提とすべきである。社會事情の根柢を異にする國に在りて、尙且斯かる英國流の經濟説其儘が繰返さるゝならば、是れ極めて珍らしき事と云はねばならぬ。

一大貴族社會

併しながら由來豪華なる生活は人の羨む所、而して英國人生活の豪華は、常に有形物質上に於いて其精美を加へつゝあるのみならず、自ら亦其無形生活にまで影響して、社會の裡に於ける階級が必ずしも更に數層の複雑を加ふるに非ざるも、全體に於いて其生活程度が昂まり、其品格が上下の間に懸絶し、遂に英國の全社會を背りて、一大貴族社會を現出せざれば休まざるの勢となりつゝある。勿論何れの

中等下等社會の衰弊

社會と雖も、貧民の數は絶ゆるものではない。英國社會の貴族的向上發展の盛なるは、是れ一面に於いて貧富の懸隔を益大にする所以である。英國社會が全體として貴族的に向上發展しつゝあることは、社會に於ける極めて必須なる要素たる中等社會乃至下等社會の成立を減衰に向はしむる所以である。斯の如くにして、英國は獨り社會經濟上に於ける獨立を危くしつゝあるのみならず、併せて又金錢を以て致さるゝ範圍の外なる、其國防的氣力、國防的精力に於ける獨立の危殆に瀕するの弊をも致しつゝあるのである。

國防の危機

農本主義の空寂

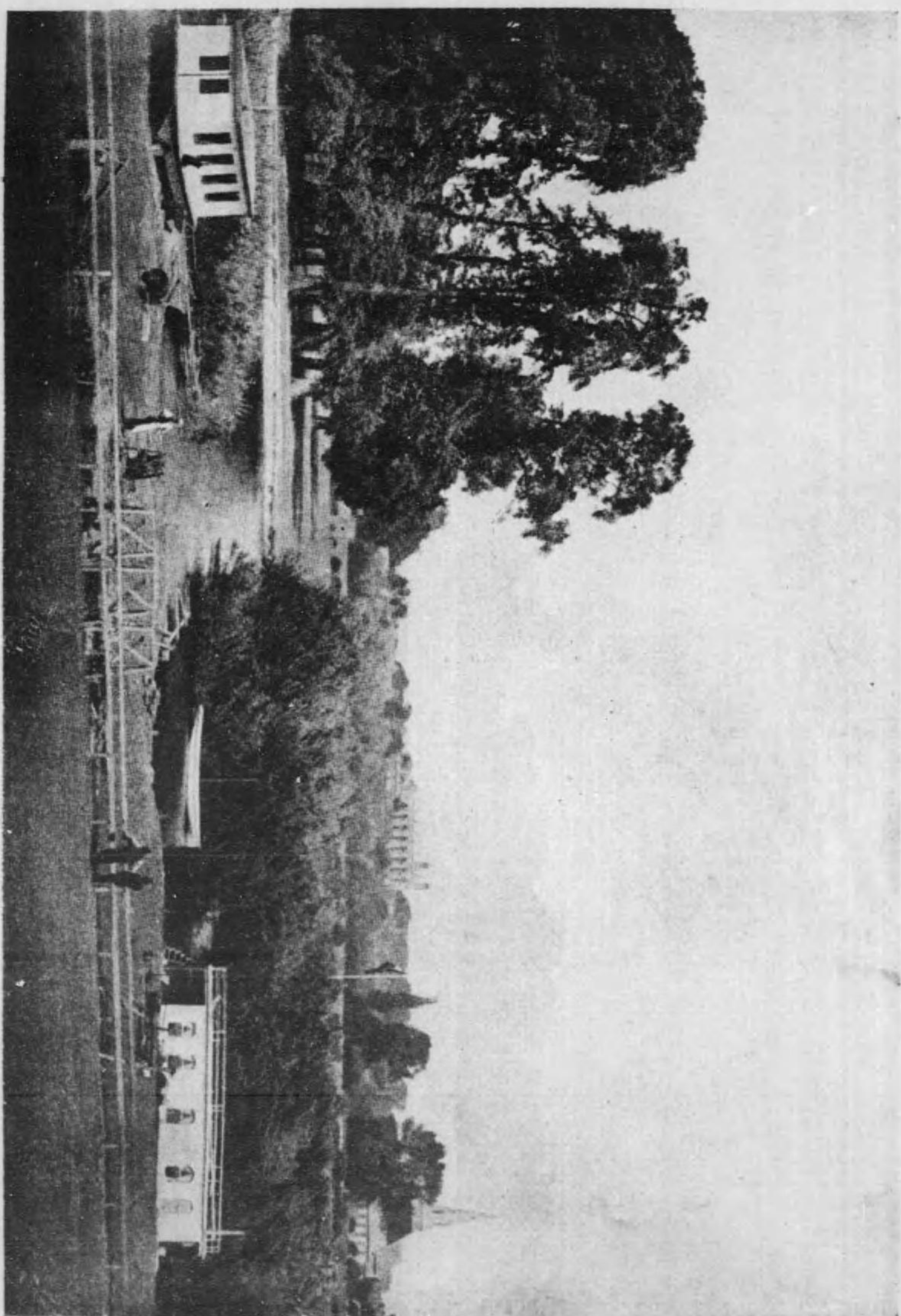
植民地經營に於ける英國の成功に伴ふ弱點は、右の二點に止らず、更に尙一點の擧ぐべきがある。それは即ち英國に於ける農本主義の殆ど地を拂つて空しきに赴き、商工主義の極端に發達しつゝある事である。古と今とは固より社會進化の段階に於いても異なる所あり、宇内の國際關係に於いても、少しく趣を異にする所あるが故に、我輩は敢て直に史上の事實を以て、今後世界の將來を斷ぜむと欲するものに非ずと雖も、由來農本主義を極端に擺脫して、極端に商工主義の立國を成せる國にして、國際競争上實力ある競争場裡の優者となるに於いて成功せるものは

國運の危機

無いのである。フェニシア然り、カルタゴ然り、自由政治の淵源とも謂ふべき雅典の希臘列國の間に於ける將た亦然り。斯の如くにして、英國が社會經濟の獨立を失ひ、國防精力の獨立を減じつゝある間に併せて又商工主義の弱點を發揮せむとしつゝあるは是れ實に英國の社會民族國家の將來の爲に深憂大患とすべき事項であらうと思はるのである。

併しながら右は特に通例世俗の注意を逸脱し易き點に就いて一言を費し併せて又説明の便宜の爲に幾分顯微鏡の下に微菌を持ち來たして以て社會研究に於ける隨つて社會病理解剖學に於ける素人たる世間の志有る人士に供覽せるまでである。否顯微鏡どころではない一寸した玩具の眼鏡の筒の中に乾酪の一塵を持ち來たしても十餘種のまざ／＼しき昆蟲が或は匍匐し或は飛廻り到底之を食うて舌を鼓する氣にはなれぬそれにも拘らず乾酪は矢張乾酪て之を食ふ者が敢て命を隕しませぬものであるが如く我輩の社會病理解剖學の供覽に懲りて直に英國社會の運命を極端に悲觀するが如きあらば是れ亦素人たるを免れぬのである。以上の説話の終りに乾酪の蟲眼鏡視きの一節を附け加へて世俗の或は我輩

乾酪は矢張乾酪



英吉利國。
大西鐵道より、
エトロン中學を遠望す。

を誤解せむことの豫防として置く。

五 輓近の變遷

千九百十年六月、時しも例年の如くロオヤル・アカデミイの展覽會開設最中、一日之に向つて車を驅つた。此展覽會に於ける畫に就いて、最も先づ目を惹いた事は、其畫題の著しく宗教と背離し、殆ど宗教とは完全に没交渉となれるの點に存する。凡そ繪畫彫刻其陳列せられたるは遙に千點に上つて居る、然るに其中宗教に關係ある物は明かに十點を出てない。其昔し、歐洲の美術は、殆ど宗教美術であつたのに比べて、千九百十年の今日、斯の如き展覽會の成績を見ることは、亦以て人心の歸向する所を見るべきである。

美術の手法に就いて云へば、其造詣は、餘り表號的なる物が無く、筆遣ひも沈著き、て狂氣じみたる所無く、風景にせよ人物にせよ、能く描かれたるが多い、今日ながら、も此國人の趣味の未だ餘りに浮付かぬことを見るべきである。

ロオヤル
アカデミ
イ

非宗教的
畫題

手法

英國の大學教育は、今より一代前までは、全く貧しき子弟の前には、鎖されてあつた。但し蘇格蘭の大學は、必ずしも此限でなかつたが、此代に至りてバルミンガム、マンチェスター等の地方大學が開設せられ、稍大學の閉鎖主義が一變した。千九百一年五月十二日、我輩が先年英國に遊んだ到着の翌々日は、實に記念すべき日で、倫敦大學は、第二十世紀の第一年の此月此日を以て、其教授機關としての開校式を舉行したのである。英國の大學教育も、劍橋牛津に於いて最も完全に發揮せらるゝが如く、閉鎖教育主義の一方に偏するのみにては、國運の要求に應ずるに不十分を感ずるに至り、國家社會の須要に應ずる學術技藝を教授し、及び其蘊奥を攻究するを以て目的の一部とすること、我帝國大學令の規程の如くならざるべからざる世運に立ち至り、一言に之を言へば、幾分歐洲大陸に於ける大學の主義を加味するに至つたことは、輓近の著しき趨勢である。

獨り大學教育のみならず、此國の中等教育も亦大なる變遷を経た。千八百八十一年、獨逸の炯眼なる視察員ウイゼと云ふ人が、數年間英國に滞在して仔細に英國教育の真相を視察し、半ば本國民に對する警告の意味を以て、『英國教育の真相』と題

する一書を草して復命報告書と爲し、盛に英國教育の長所を擧げて、本國獨逸の教育の缺點と對照した。然るに今世紀に至りて、最近にコウルトン氏は、大陸諸國の教育と英國教育とを對照して、英國教育の一時は如何にも理想的の完全に達したものであつたけれども、今日に於いては、實に時勢に後るゝこと萬々にして、到底斯の如き教育を以てしては、英國民が大陸諸國民と譽を並べて國際競争場裡に馳騁することは不可能であると云ふことを痛論して居る。

實に英國の中等教育、英國の品性教育は、それ自身に於いて頗る敬すべく又重んずべきものあるに相違ない。エトン、ハアロウに於ける中學教育、劍橋、牛津に於ける大學教育は、實に世界に教育のあらむ限り、それ自身一個の完全なる模範として、甚だ敬重すべき教育上の標本たるの價値は失ふべからざるものである。併しながら、今日列國競争場裡に處し、所謂國を以て世界に處する上に於いて、其國の健實なる中樞成分を成すべき人士の養成としては、どうも之を以て足れりとする譯には行かぬ。所謂治世の良民は亂世の平凡、亂世の姦雄にして始めて治世の英雄たるの喩に漏れず、英國教育に獨得なる、中學大學に於ける品性教育の成績たる人物

養成は、兎角に圓滿無事なる人物を養成するに僻する弊がある。且斯かる教育は、經濟上頗る高價なるものである。牛津に於ける學生生活は、其廉なるものを以てして、一ケ年に要する所一人六千圓と云ふが如きは、前世紀の終りに於て書かれたる書物にも明記してある所である。今日は想ふに更に之に軼ぎたる巨額の學費を要することであらう。如何にも、劍橋牛津の大學生の寄宿舎生活を見ると、學生一人が各、客間、寢室兼讀書室、及び臺所、此三室より成る所の一つ宛の住居を有して居る。而して其客間は、時に食堂ともなり、此所に學友のみならず、學友若くは友人の家族、貴婦人令嬢等をも晚餐に招待するだけの設備までが出来て居るのである。成程是れは一ケ年六千圓ぐらゐては随分苦しからう。故に、假令英國流の品性教育が、理想的には、希ふべきものであるとしても、之を以て我國の如き貧國の、而も、上下一般に通じて行ふべき教育とは、到底爲し得ぬのである。若しも我國に之を適用せむとするも、學習院あたりの、全國教育の中では、極めて一小部分にのみ適用されるべきものと云はねばならぬ。

併し英國の教育界其者も、固より其品性教育を以て、短所多しとして捨て、缺點の

みなりとして除き去るべきではない、是は是て、固より充分保存せねばならぬ、又保存しつゝあるが、そのみでは、今日以後の英國をして、依然たる世界に於ける優勝先進國の地位を保たしむるに足らざるものと認め、而して其足らざる點を補ふべく、熱心銳意大陸諸國の教育に於ける成績造詣を參酌して、新たに運営規劃しつゝあるのである。是に於いて英國の文部省は、特に其の固有なる假令必要より生ぜるにもせよ、亦實に以て英國教育行政の一の誇りと爲すべき調査報告局の一局を有し、千九百十年には、極めて有爲なる春秋に富める、智慮あり學識あるヒイス博士を以て、大學局長兼調査報告局長に任じ、熱心に教育的規劃の參謀本部の事に勤めつゝあるのである。この局の事業は、凡そ英國に於いて有り得べき教育上の諸問題、殊に外國に於ける優良なる教育制度、及び教育機關の規劃及び實際を調査して、漸次その報告を出版し、英國の官民、上下一般の、參考に供し、熱心銳意英國の教育を改善するを以て任務とする。露西亞の教育、獨逸の教育、和蘭の教育、佛國の女子教育、佛國の師範教育、獨逸シヤロテンブルグの工業大學校の規劃及び實際と云ふが如き、各種の題目に關する、完全にして精到なる報告は、年々冊を積んで出てつゝ、

外交、國防、經濟、教育

宗教と教育

ある。而して右「シャアロテンブルグ工業大學校の規劃及び實際」と稱する報告書の如きになると、直に英國政府より禮を厚うして同大學校長に囑托し、而して同大學校長は、亦或る意味に於いて光榮として之に應じ、自家の事業の英國に紹介さるるの愉快より、綿密周到なる調査報告を英國政府に提供し、英國政府は之に對して、國王陛下の思召を以て光榮ある叙勳の榮典を以て之に謝禮すると云ふが如き仕組である。大凡そ外交は其背後に國防なかるべからず、國防は其背後に經濟なかるべからず、而して外交、國防、經濟の最後の背後には、最も奥底の背後には、實に教育なかるべからずである。故に獨り參謀本部に於いて、列國の作戰計畫、國防軍備の消長をのみ鵜の目鷹の目にて調査することが一國の存亡上必要であるのみならず、否、寧ろ之にも増して必要なるは、列國教育上の設營規劃及び其實際の調査である。英國の政治家、行政家の如きは、實に能く務むる所を知ると謂ふべきである。

英國では、宗教と教育とが相離るゝは、随分困難なる事業であつた、殊に宗派の多きが爲に、此困難は更に加はる次第であつた。併しながら、今日では、此兩者は、相離れても宜い事となり、居り、既に少數の學校では之を試に行ひつゝある、即ち倫理修身の教育に全く宗教を疎外しつゝあるのである。但し一般に、此國でも亦、小學教育は寺小屋から始まれるものであるから、僧侶が建つる私立學校すら、今日尙成立して居る、これは全く特殊宗派の手に在り、故に宗派學校ともいふ、これには、僧侶にして自ら學校に出て徳育の講義を擔當するもあり、其弊は、如何なる小村にせよ、特殊の宗派以外に、他の宗派もある事であるから、此派のものは甚だ之を喜ばず、其利はといへば、宗教に取り、僧侶が將來の國民たるべき幼童に親むくらゐの所である。

宗派學校

新聞の變遷
一片は我
四錢

宗教上一般の大勢は、國教からは、段々に分離するものが、殖る、教育からは、際立つて、宗教の疎外を見、學校も追々宗立が減りつゝあるの實勢である。

英國新聞の變遷は、頗る亦注目し、値する。抑々英國の新聞には、一片新聞及び半片新聞の別がある。半片新聞は、主として、雜報に力を入るゝが故に、殊に高等教育ある記者を要せぬ、一片新聞就中タイムス、モオニングポストの如きは、幾分高等教育ある記者を要する。併し、凡そ一片新聞にして、其發行高十萬に上るは、無い、然るに、デイリー・ニュースの如きは、嘗て一片新聞なりしを、變じて、半片新聞として、其

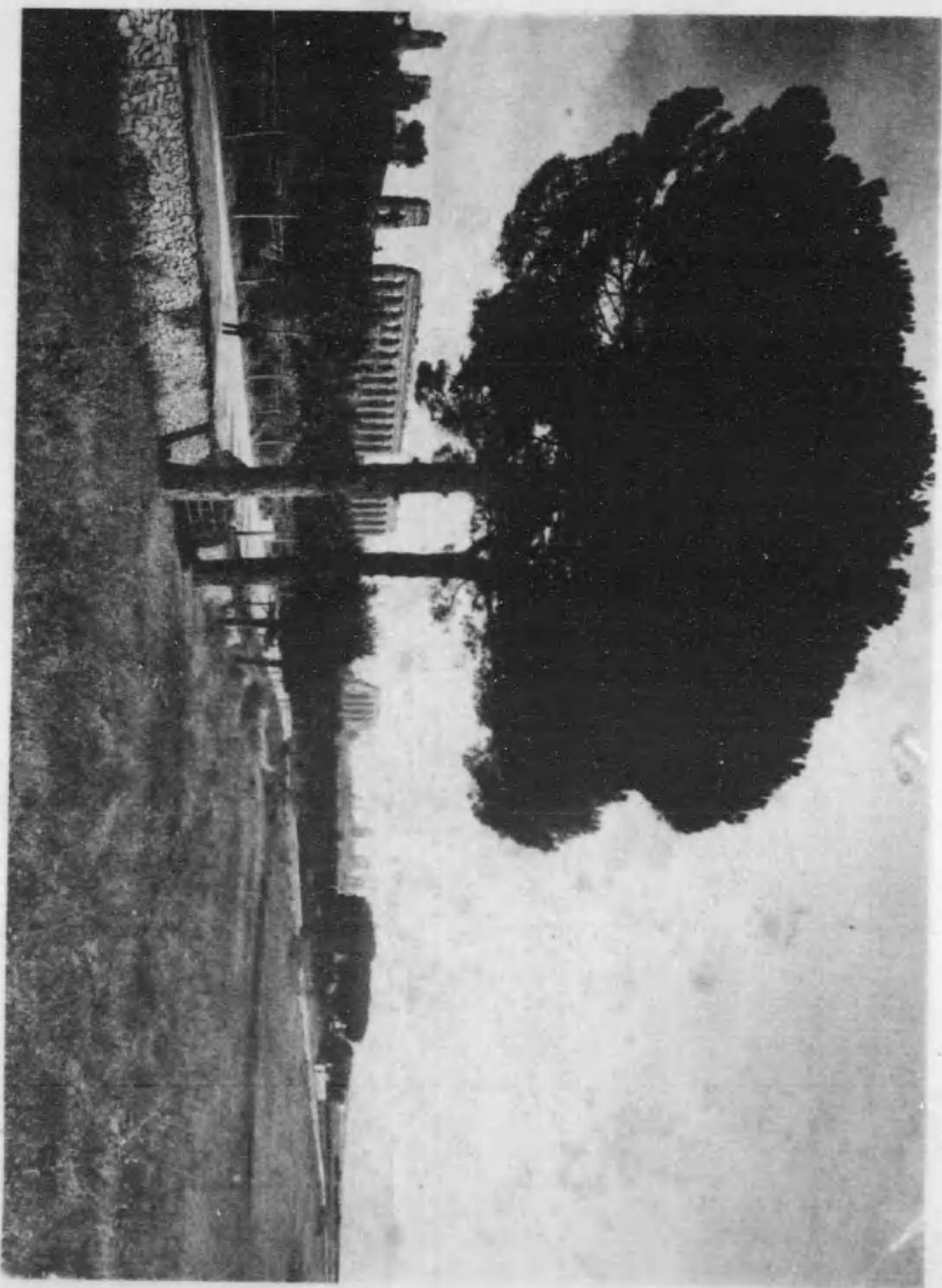
新聞記者
の人格

發行高は先の六七萬から昇つて今は四十萬に上つて居る。

此國にも新聞記者養成學校はある、其校長はウィリアム・ヒル氏で、其組織は必ずしも大ならず、又夜學に速記の教授があり、是等の素養を以て新聞生活に入る者も亦尠からぬ。新聞記者には、主筆記者及び探訪員の三段がある。今や記者でも其知識の皮相なる者が多い、探訪員の如きに至りては、近頃殊に其知識及び人格が低下に赴きつゝある、其原因は新聞事業が機械的となつたのに存する。凡そ新聞記者の間に政治上社會上の信念衰へ、新聞界は唯、小さな功名心を有し、小さな淺くとも廣き世間生活を希望するが如き、輕薄なる青年を需要するに至りつゝある、此事は殊に小新聞に於いて著しい。昔しは英國新聞の探訪員と雖も、倫敦カウンティ・カウンシルの事を執るの材幹があつたと云はれたものである。

社説なく
中心なく

英國新聞は、舊時は主義意見の中心があり、毎日其社説を發表したが、今は多く部門別となり、デイリウ・ニュースなどは實に二十部門に別れ、各部門には長があり、そこで經營が寧ろ重なる力量を要する方面となつた。蓋し近頃の新聞は極めて複雑となり、恰も軍隊に類するから、此大なる有機體を運轉するには、斯かる事も必要と



古羅馬水道の敗殘。

アッピア街道より白山を遠望す。

「午後古羅馬の遺蹟をバラチンが丘に尋ね。レギ家の壁畫など今尙残り、其花鳥は宛然格山若くは和亭の趣あり、唯神人畫や則ち大に趣を異にす。丘上就中尤も行客の感懐を惹くは、アウグストス帝宮闕の遺址なり、或は敗壁の聳立を存し、或は斷礎の頽零を遺す、就中大帝の政事堂玉座の遺、今は葛蘿の纏綿を見るのみ、俯仰古今、唯水の西流あり、紀念の爲に其葛蘿の一葉一花を摘採して遂に家山に寄すと云ふ。

天の下、八隅知るといひし、アウグストの、高御座のあたり、重微摘む吾は。

古を、吾が訪ひ来れば、風を寒み、バラチンの丘の、春暮れむとす。

低回逍遙、連峰の蜿蜒を望み、暮雲の漫々を歎じ、夕告ぐる鐘の聲に促されて、六時半僅に此古址を去る、昔在安莊、又葛蘿の偉觀、即今零柯敗屋の趣、綿々の恨を春の曉風に寄する、滿目異鄉征人在り。」

十年前の拙著『西遊漫筆』

主筆より
も營業部

記者組合

なつたのである。而して主筆の統制中央集權は減じたのである。

一般に英國の新聞は、十年來紙數が大に増加した。營業部と編輯部とは從來全く分離し、記者は營業の事を談ずるを恥ぢたことであつたが、機關が發達し、新聞經營の機械的となれる結果として、營業部と編輯部とが漸く相接近するの傾がある。

新聞記者の組合はもと持主と記者との組合があつたのが、三年以來更に全國記者協會ナショナルジャーナリストと云ふ組合が出来た、これは記者だけの團體で、全く同業組合の性質である。又新聞出版業財團がある、是は慈善的のもので、養老金を新聞記者に給與するの機關である。

凡そ新聞紙は、文明生活に在りて、實に空氣の如く、又米の飯の如きものであるから、如何なる人も、即ち如何なる新聞嫌ひも、空氣を呼吸せず、飯を食はぬ譯に行かぬ。故に其汚濁し其腐敗するは、取りも直さず其國民生活の反映と見て宜しく、又取りも直さず其國民を汚濁せしめ腐敗せしむるの原因と見て宜しいのである。新聞紙は國民生活の結果であり、又原因である、英國に於ける新聞界近時の變遷は、此意味に於いて多少注目に値する。

アングロサクソンの生活

世界列國の大勢
英國軍制の變遷は、洵に煮え切らなくて政治家の頭を悩ましつゝある。殊に陸軍改革の不完全は實に著しき事實である。英國は本來、スチュアート王朝の頃には備兵制度であつたのが、今は義勇兵及び國民軍制であるけれども、甚だ不完全である。倫敦大學開校式の當日、陸軍大臣ブロードリックの軍制改革案が議會の議に上つたけれども、遂に成立するに至らず、千九百九年ロバアツ元帥更に徵兵法案を上院に提出したが、二十票で破れてしまつた。斯の如くにして英國の陸軍改革は今尙彷徨の域を脱せぬ。

英國海軍は常に二國を敵とするの本位に坐して其規模を維持して居つたのである。然るに近頃英國の地中海艦隊は佛國との協商を遂げて之を減殺し引揚げやうと云ふ議があるのである。斯の如くになると英國も業に既に列國との競争上、其二國敵對主義を維持し切れぬやにも見ゆるので、即ち對二國主義より對獨主義となつて居るのではないかと疑はるゝ節もあるのである。海軍の精銳は古も今もさまで聲價の變遷があつたとも聞かぬが、併し英國の海軍の規模が退いたのではなく、列國海軍の規模が進んだ所から、勢ひ列國の間に於ける英國海軍の地位

に多少の變遷を來たして居るとも云へるのである。
英國近時の變遷を數ふる中で、美術、教育、新聞、軍制の外に、更に大に擧げなければならぬ事實は實に人口減衰の一大事實である。人口減衰は未だ絶對に人口が減衰に赴きつゝあるのではない。人口減衰は普通の場合に於いては、人口増加率の減衰を意味する、即ち一國の人口總數が、昨年は一昨年より減じ、本年は又昨年より減じたと云ふことではなく、是も佛國邊りにはあるが、昨年は一昨年ほどに増さず、今年は又更に昨年ほどに増さぬと云ふ事である。英國に於ける人口減衰は、即ち斯かる事實を指すのである。尤も斯かる人口減衰は、獨り英本國に於ける事實たるに止らずして、實に、アングロサクソン民族の住地一般の事實である。濠洲然り、新西蘭然り、加奈陀然り、南亞弗利加亦然り、南亞弗利加の如きは、彈丸黒子のボエエル人を克復せんが爲に、三十億の財と四萬の人員とを以てして、二十有餘月にして纔に其功を成したのであるが、然るにも拘らず、今日人口關係に於いて英人は、ただ増すこと無く、之に反して和蘭人、ボエエル人が頻に増しつゝある次第で、業に既に主客全く顛倒の状態となりつゝある。人口減衰が決して食物の匱乏に因せざ

アングロサクソン民族の通事
サングロサクソン民族の通事
食物とは無關係

る事は、濠洲の如き、尺寸の新變なくして、今の十倍の人口を收養して餘りあるにも拘らず、人口減衰の事實の歴然たるにも明白である。英國はマルサスの名に於いて人口制限宗の本地たるの光榮を有し、此光榮の代償として今や實に人口減衰の尤も恐るべき社會的肺病、社會的勞瘵に、刻一刻と陥りつゝあるのである。

體格の變遷

人口減衰と相伴ふ所の事實として、英國人の體格の變遷がある。日本の或る田舎の百姓言葉で、苧殼と云ふものがある。英國の壯丁の體格は、今や競馬用の馬の如く、脚若くは、貂の如く、細くして極めて長く、所謂苧殼式に漸次傾きつゝあるのである。斯の如きは強き堅實なる體格とは到底云へぬので、固より脚の長さ、脚の長さ、其他長短釣合を仔細に觀來れば、多少の長所はないが、要するに嘗て一般に言語の變遷に就いて論ぜるやうに、發達は發達に相違ないが、理想上、甚だ好ましからぬ發達、即ち變遷と云はねばならぬ。

根氣の減耗

斯の如くにして、英國民族は、曾ては、世界到る處、創業、且守成に長ぜるものであつたが、今日はどうも、英國民族の根氣が、昔日の如くてないやうである。歐洲各國民族の競進場裡とも謂ふべき北米合衆國に於ける、アングロサクソンは、事實の經始

守成の事漸く衰ふ

者としては、今も尙昔日の名譽を失墜せぬが、何故か根氣が續かずして、大概事業經始の事が一段落となると、直に去つて復た新しき所に向ひ、毫も粘り強き氣力を以て、守成の利を收むることをせぬのである。此事はカリフォルニア邊では今や普通に見る所となりつゝある。其狀恰も五十年前に於ける佛蘭西人に髣髴たるもの、即ち今の北米合衆國の地に於ける植民にも先鞭を著けて而して之を放棄し、印度經營にも先鞭を著けて放棄し、蘇士運河然り、埃及經營然りと云ふ當年の佛蘭西人にも似たりて、今度は順番に、人口減衰も佛蘭西よりか少し晩く來て、頻に佛蘭西の後を追ひつゝあり、經始のみあつて守成の出來ざる、根氣無く粘り氣無き事業の仕振りも亦佛蘭西の後を追うて、頻に佛蘭西が陥つた深淵に向つて、急ぎつゝあるかの觀があるのである。

六 英國の將來如何

此國の文豪マコオレイは、六十年前、其莊麗なる文筆を以て、テムス河畔の夕陽

アングロサクソンの生活

に、思を遠き將來に馳せ、嘗ては地中海の咽喉を扼し、世界海上權力の覇者の榮爵を以て飾られたる、フエニシアの首府タイアルの風物も、今や夕風に暴さるゝ網代木に寂しき漁父の船歌を聞くに止まる事を思ひ比べ、此歌吹海裡不夜城を現し、世界の富と豪華と、歡樂と、智識と、文明との最大中樞たる倫敦、テムス川の川浪、四六時中未だ曾て其忙しき文明の競ひに靜まること無き此河畔も、他日或は寥落たる一個の漁村となつて空しく、弔古の文士をして其昔を追懷せしむるの地となるの運命を荷はざるやを嘆じたるのである。斯の如きは我輩今日に於いて到底想像にも及ばぬのである。英國は我國の最も親善なる同盟國である、政治上の同盟あるに先ちて英國を目して西洋の日本と云ふ評家あるや否やは未だ之を聞くを得ざれども、我日本を目して東洋の英國と爲す論客は、夙に多く之を聞きつゝあるのである。斯の如き尊ぶべく親むべき英國民族、英國社會の將來は、固より大に樂觀すべき希望に充ち満ちたるものがあるに相違ないのである。

但し外交の進遷は河の流れの如きもの、仁者は山を樂み智者は水を樂む、此間の消息は暫く去つて他の道學先生に問ふべきである。

第十五 米國社會の眞相

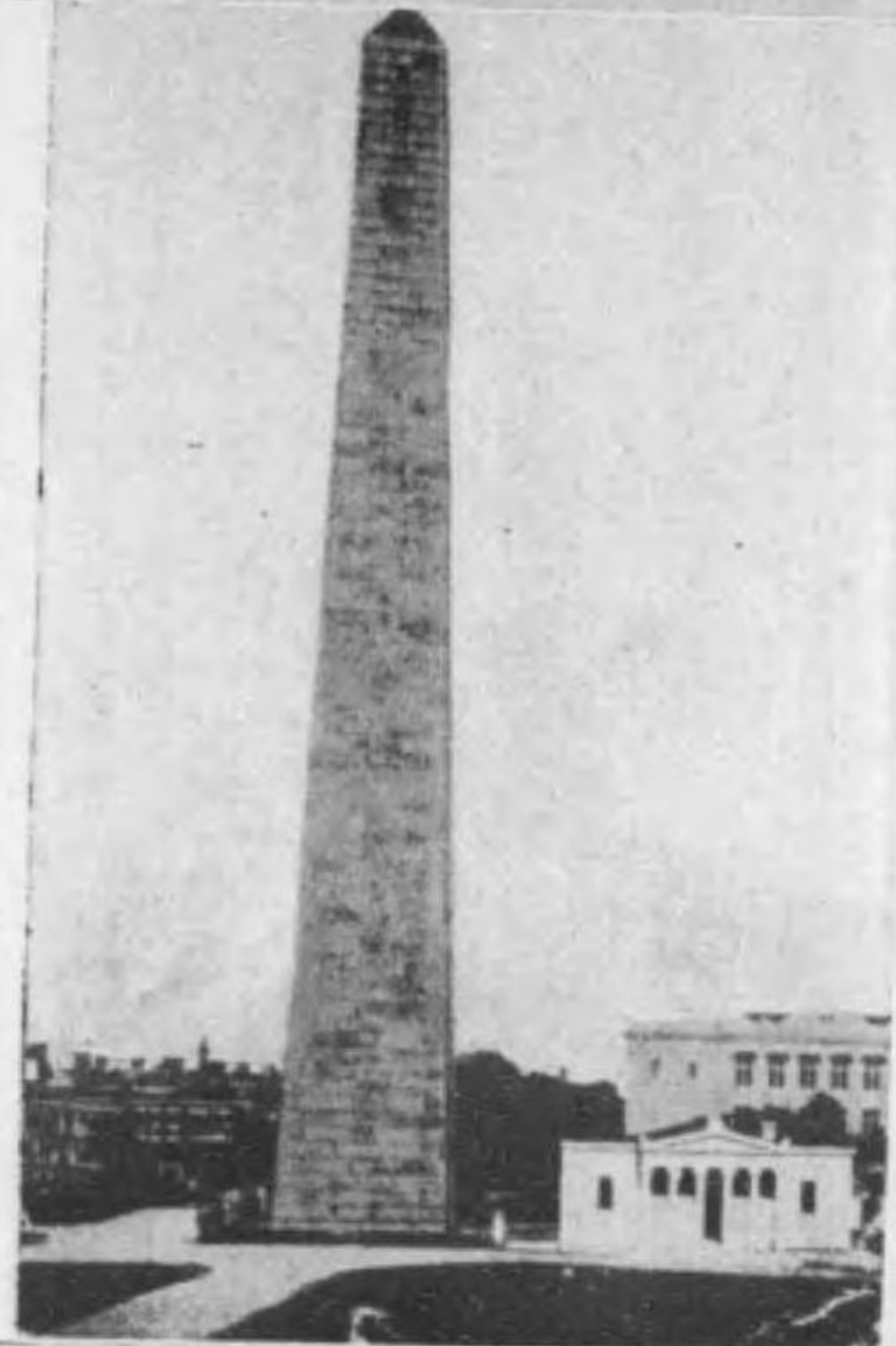
一 即目

六月二十八日倫敦を辭し、汽車リヴァプールに到り、白星會社のポストン通航船シムリックに搭じ、夕六時半、微雨の間に英國の海岸を辭し、折柄驢として知人の贈れる數百輪の白百合、常夏薔薇等の名花を以てわが食卓を賑はし、百數十人を包容せる大食堂の視線を悉く之に惹き、歩一步故國に背き、更に西に向つての航海ながら、一日と故國へ歸り著く時の近づくに、自ら心も勇みて、賑かなる晚餐、朝食、午餐の卓を重ね、航海の常とて、直に幾多の紳士淑女と樂しく笑ひ興ずるの交を訂し、翌二十九日午前十一時に、愛蘭のクインスタウンの港外に假泊し、やがて此地を拔錨するや、雲烟渺茫はてしなき大西洋に向つて進み行く時、折、四本の檣頭を見舞ふ海鳥

ボ ス ト 府

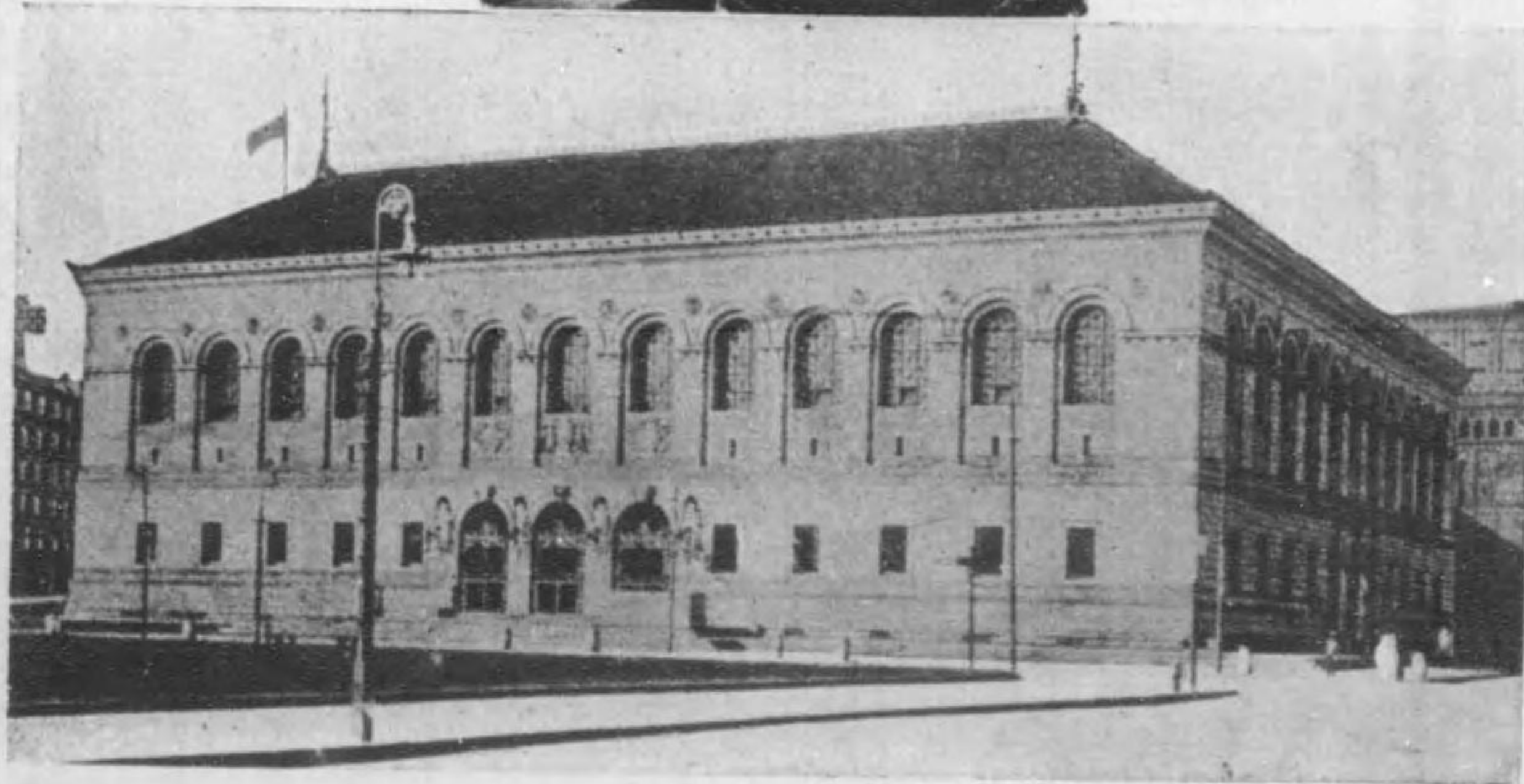


ボ ス ト 港



バンカルヒル古戦場記念塔

ボ ス ト 図書館



米語

米人の變化

中年増の林檎投げ

世界列國の大勢

七美

の群に賑かざるのみにて、波又波、雲又雲、海、天、萬里の望を、縦まにしつゝ、毎日無邪氣なる航海を續けた。

船中米國生れの中年増、然も子まである婦人の、林檎を鞠に代へて紳士連と鞠投げの遊びを爲す、斯の如きは我國のみかは、歐洲にても見られぬ光景である。

嘗て佛蘭西の社會學者フイエ氏の著書に、歐羅巴人が米國に移住して指の長くなる旨を記せるを讀んだが、今は又米國人が次第に亞米利加印度人の風を帯び來るを、書にも讀み、ロオズ氏著米人の精力事實にも見た。口大に、顴骨高く、顔面の表出に優しき所無く、寧ろ精力強く、而して意地悪き表出の進める、一體に優雅の風が失せて、粗大の容貌の進めるは顯然たる事實である。婦人の反齒多く、且つ口の大なるは、殊に歐洲から來ると目立ちて見ゆる。料理の分量が、歐洲殊に佛蘭西の四五倍もあるのは、口の大なると關係ある事實でもあらうか。

英國の言葉、英語と云ふならば、米國の言葉は、之を米語と呼ぶこそ、至當であらう。同じく英語と云へばとて、東洋例へば香港神戸邊りの英語、又は埃及の英語が眞の英語でないならば、米國の英語も亦眞の英語たり得ぬは當然ではなからうか。

訛りの多きは實に驚くに堪へたる程である、口調の不規則にして、且つ忙しく鄙びたるは殊に聞きにくし。Yes, it is と云ふに、yes は六、it は一、is は八の時を要する。When it will be と云ふに、When は六、it と will とにて一、be に八の時を要する、されば右の二又は三は、餘分に波だちて調子を取るのである。總べて米國の最後の一語は過分に長くして、以て前の言葉を忙しげに云ひ去るの慣とし、且つ三きだに波打たせて言ふ、is はビ、イ、イである、其中ビは A(イ)の音、イは E(ホ)の音、後のイは又 A(イ)の音である、あやしく鄙び下様めきて居る。

上陸切符と云ふものを、上陸前に、小蒸汽にて船に乗り來る吏員が各の乗客に渡す、必ず何國の國籍なるかを問うて、然る後に渡すのである、佛國人將た巴里婦人なども、唯、其何所何家に行くかを問ふのみなるを、我輩だけに對しては旅行券を調べ、吏員が其大體を謄寫し、さてホストンの港にて上陸を許す旨を裏書し署名して渡した、面白い事である。

其日は七月七日、大西洋の航海も紐育通ひと違つて、ホストン通ひは却て日數を要する、蓋し餘り念入の航海をせぬが爲である。ホストンの港外は相當に國防設

古の新英

備も整ひ、此所彼所に多少の砲臺も見ゆる。勿論浦潮斯德程の嚴めしさは無いが、新英蘭の自由の郷、自由の搖籃地として考へると割合に、異様の威を惹かぬでもない。ポストンは新英蘭で最も古の風を維持せる所であるが、併し今は新英蘭と云ふは、羅馬と云はむが如く、將た希臘と云はむが如し、古のシンシナトスの國、古のエバミノンダスの國、ベリクレスの國、古のワシントン、フランクリンの國と思ふならば、それこそ大なる間違である。さればポストンと雖も、人氣は他と異ならず、米國式である。波止場から旅館まで馬車で著けば、旅館の給仕が五十仙を出して拂はむとするを、馬丁は二弗を強要する。

黄色新聞

ポストン到着の日、其夕刊ポストンアメリカンと云ふ黄色新聞は、此度日露の協商から直に「日本戦争を計畫す」と、二寸大の活字を以て報告して居る。此旅館の小賣店の若者は、黄色新聞を御覽なさらぬかと、數種の小新聞を薦めつゝある。黄色新聞と云ふ名稱は、此國でも普通なるものと見ゆる。

公開圖書館

併し名譽領事ワルコット氏の親切なる案内に依り、若干の一般的觀光を爲せる中、ポストン公開圖書館の如きは、洵にポストンと云ふ其名に背かざる、品位あるもの

男女共學の問題

の〇と見〇受〇け〇た〇。莊麗なる建築の外部に、創設の年〇を〇記〇し〇且〇ポ〇ス〇ト〇ン〇市〇民〇之〇を〇建〇て〇而〇して〇之〇を〇學〇問〇の〇進〇歩〇の〇爲〇に〇ポ〇ン〇ト〇ン〇市〇に〇寄〇贈〇せ〇る〇旨〇を〇大〇なる〇金〇字〇に〇て〇記〇して〇ある。唯、斯かる圖書館の有ると無いとが、文明と野蠻との區別であるのである。されば我國にても、大に教育學藝を列國に吹聴するが宜い、之が我國の平和的なるを世界に知らしむる所以の、唯一の道、而して最上の捷徑である。内に如何なる變動があらうとも、人心の動搖あり、人氣の頹敗があらうとも、斯かる學問の進歩の爲にする大なる營造物あるは、何となく人をして、其地、其民に向つて敬意を起さしめ、親み易きの念、随つて亦安堵の思を惹起さしむるものである。

米國東部の諸大學は、男女共學には、勿論反對なりと聞く。ハアヴァド大學は、全く分離せる女子コレエジを其一部として有すと聞いて居つたが、其機械體操場のみ共學の行はるゝを目撃した。然も女子は、何か講習中であるのか、運動服の儘で一緒に集り、然も赤條々なる希臘男神像の下に集まれるなど、怪しき風俗と見る天保觀察家があるかも知れぬ、我輩が其脇を通れるとき幕を以て遮つた。抑々斯かる事も、米國などでは、弊は案外小なることであらう、傍觀者たる我輩の眼中にも

根本的
問題

女子が餘り女子として印象せぬにも知らるゝ。斯かる女子と共に運動し共に跳ね廻る青年學生は、さまでにはなよやかなる女子と共に居り共に遊ぶの感じは無いことであらうし、其弊は固より舞踏に比して軽いことであらう。併し茲に根本的の一つの問題がある。斯く男女の區別のみに成り行き男女の相類似し相接近し行く事は、社會全體の發達上果して希ふべき事であるか、どうかは、大に攻究を値する問題である。此問題を攻究して然る後にこそ、内八文字若しくは外八文字の利害得失の問題は解決せらるべきである。

教育に於ける
美果の自治

教育に就いても、米國又或る程度までは英國も、自治の美果を收めつゝある。さりながら濠洲のテエト氏の歎稱せし如く、是れ他國の學びても得べからざる所、之を學ば、虎を描いて猫に類するに陥らずには止むまい。嘗に他國のみならず、本家本元の米國が何時まで此美果を收め得るかも頗る問題であらう。自治の何たるを解せぬ元素が國民の中に増殖し行くの勢が業に既に顯然たるものあるてはないか。

大學教育

米國の大學教育が漸く實際と離るゝに向ひつゝあるは、二つの兆候に見えて居

化の非實際

る。一つは職業教育が大學を歸向點とする正統の教育系統以外に立ちて其本義を全うするに至れるの事實である。二つは新聞社が大學教育を迷惑に思ふの事實である。ポストンイヴニング・トランスクリプトの如き極めて眞面目なる新聞に於いても、又其主幹オオブリエン氏の語る所に據るも、新聞界近時の傾向は争ふべからざるものがある。近頃の米國學風の獨逸かぶれは、亦此傾向を助長せるを疑ふことは出来ぬ。但し一國の進運の爲に斯かる所謂高尚なる學術研究の傾向を可とすべきか、若しくは寧ろ實際的なる卑近なるを可とすべきか、或は又兩面の駢び存するを理想とすべきかは、深く攻究を値する問題であらう。

役所

ポストンでは、マッサチウセツ州の文部省統計省其他一二の役所を屢訪問した。凡そ役所では、午前一回、小僧の菓子花など賣りに入り込むを許し、以て其生活の單調を破らむとしつゝある。統計省に婦人の眩暈發病の爲に臨時假寢床の設けがある。婦人の役所務めは、米國婦人たりとも、随分心力を要することの大なるを見るべきである。

市街生活

米國の市街の生活は、西班牙流の人の聲の囂しさ、物賣る店人の呼聲の高さ、さて

は人々の血眼、忙しげなる歩き振り、敷石の大なる磊砢、輾轉たる車の軋り等、あらゆる活動に伴ふ、あらゆる物音を、無遠慮に吐き散らす喧しきである。倫敦のしつとりと沈著のある物音とは、實に同じアングロサクソンと俗には云ふ條、似も付かぬ大なる反對である。

説教聴聞

七月十日、將にボストンを去らむとする日曜の午前、或る寺院に、紐育から來たといふ有名なる説教師の説教と云ふものを聴聞した。銀行や商業は信用を必要とし、宗教は信仰を必要とすと云ふが趣旨である。さて宗教の批評などは全く無意味である、と擯斥した。さうして見ると、銀行の信用調査も亦無意味と云ふのか知らん、覺束ない論理である。抑、信仰を強ひ、大前提を強ふるは、專制的の仕業である、強ひて人心の基礎を宗教に置かむとするに於いて、佛蘭西のみかは、米國の末路も亦矛盾の爲に自殺を來たすの虞れ無きことを得るか。さて宣教師とは、銀行の番頭としては、最も鐵面皮なる廣告者、押賣人を云ふこととなるであらう。此寺の建築も亦甚だ奇態である、一階は普通の店となり居り、二階以上が寺である、其寺の構造も頗る異なる様式で、殆ど屋根の上のみから其光線を取つてある、内部は恰も我神

寺の建築

米國も亦
盾病か

基督教の
舞臺

藤と木

髭

公園の狼
藉

田の青年會館に似て更にざつとして居る寺院としての鬱然たる尊嚴は、斯かる建築に於いては、毫も之を見るに由ない。全體米國の寺院は歐洲の寺院とは全く異りて、其大きさも古さも、一般家屋と立ち並びて、少しも目立ち際立つことが無い。米國寺院の建築は、やがて亦米國宗教の社會的地位の標徴として見らるべきである。基督教の爲に、羅馬の渾一大帝國は好き舞臺を供へたのである。藤は大なる松の樹に絡み、遂に此松樹を枯らし、暫くの間は獨りて立ち、さて復たやがて外の木に絡んで成長繁茂しやうとする。羅馬は松の樹である、中世の法王廷は藤が獨立したのである、神聖羅馬帝國は更に絡まられたる他の木である。今や各々の木々は皆藤が木運の發展に有害なるに氣が付いて、其羈絆を脱却せむとしつゝある、此運動を名づけてセパレーション、政教分離とこそは云ふのである。

髭の如き無用の長物は、忙しき米國人には之を容るゝの餘地無きものと見ゆる。歐洲では髭の無い者は、メフィストフェレスなどの類あるのみ、如何にも米國では、メフィスト面せる人相が多い。

ボストン公園の狼藉は、歐洲にては見られぬ状態である。反古函もあり物を投



棄して公園を汚す者は、二十弗の罰金に處すといふ揭示があるにも拘らず此狼藉である。是も人種の變遷せる證據であらうか。

支那の教育は中等社會的である。然るに外國へ出稼するくらゐの支那人は、勿論下等社會である。されば儒教の實績を斯かる下等の支那人を以てトせんとするは誤である。斯く中等社會的教育なるが故に、普及の點に於いては固より極めて不充てであるが國を維持するの實効は、案外に大である。教育の普及と教育の効力との相關相異に就いては、十二分の考慮を要する。さて如何にして支那の教育が斯く中等社會的となつたかに就いては、別に問題として攻究するを要する。

我輩は今突然支那の話に掲げ出したのではない。之を以て略、英國の教育關係の或る要めなる事項を説明することが出来ると思ふ。英國の教育は、之を大陸諸國に比しては本來甚だ貴族的である。もう少し碎いて言ふならば中等社會的である。さて英國其者では、實に此教育を以て國家を維持し、社會を維持するに極めて實効があるのである。併しながら斯く貴族的であり中等社會的であればある程、それが社會の極めて低き下層の末々まで行き渡ることは、是は到底出来ない。相談であ

支那の教育は中等社會的

英國の教育の要めなる問題

北米合衆國。シアトル市。

アラスカ館。

近時米國に多く見る所の摩天樓式建築の一例なり。紐育、シカゴに在りては、階數五十に垂んとするもの亦之を見る、此館の如きは寧ろ此式建築の小規模なるものなり。其様式の極めて散文的なるに注目すべし。

英國の上及
社會の下の
比較の比等
社會の下の
比較の比等
相違との大

英蘭と新

米國の下
歐洲のそ
れ等社會と

る。然らば英國の教育は、國を維持し社會を維持するには、十二分の實効を發揮せりと雖も、普及と云ふ點に於いては、餘り多きを望まれぬに相違ない。随つて英國の中等社會、上流社會、即ち外國人、殊に外國の紳士などが交際して、英國人として印象を與ふる所の、其標本的英國人は、歐洲大陸の他のどの國人よりも立派なる者であるにせよ、若しも下等社會を取りて比較するならば、英國の下等社會は、大陸の下等社會よりも必ずしも立優らず、事に依ると、一層低い者であるかも知れぬ。さて米國に於けるアングロサクソンはと云ふと、概して英本國より移住せるものである。故に英蘭が大層立派な國柄であると云つて、新英蘭が亦それに比例して、若くは同様に立派なるものであると解することの出來ぬ理由は、實に此に在るのであるからうか。日本と英國とを比べることは世間で普通であるが、我輩は斯かる教育關係に於いては、東洋に於ける支那と西洋に於ける英國とを比べるのが甚だ適切であらうと思ふ。而して其餘論として、新英蘭の英蘭と日を異にして語らなければならぬものであると云ふ事が出て來る。

米國社會の真相

から来て而して健闘の結果成功せる成上り者である。即ち成金である。米國の下等社會の者は、歐洲にも見られぬ程度の者無しとも限らぬ。斯かる成上りの人間成上り社會を、我國から彼地に渡れる精神的成上り者が觀察し紹介して、さて米國に對する一般の誤解が由來したのであるらしい。總べて腹が空しく、何等の素地素養も無き者が、一朝にして多少の所得に接する、之を成り上りと云ふ、智識に於いて然り、經濟に於いて富に於いて亦然り。我國の文物學問に何の素養なく、米國にて多少の學問を得、自分から推して、我國には本來何の學問文物無かりしと貶す者は、是れ即ち精神的成上り者である。

米國にては、書籍にまで關稅を課する、出版後十年以内なる英書は二割の稅を課せられる。凡そ物價の總べて高價なるは、消費者に損であるやうであるが、畢竟消費者も必ずや何等かの生産者であるから、是は相殺して痛痒を感ぜぬ。結局斯様に關稅を以て物價の一齊一列なる高價を維持するに於いて、米國は金の低廉なる國となり、またせられつゝあるのである。ところで人は皆金を欲する、食を欲する者は食物の廉なる店に群り至る、金を欲する人間、共が世界の各所から金の低廉な

金の廉い國

米國に對する我國人の誤解の成上り觀客體

關稅政策

る米國に集まるは、自然の勢と云はねばならぬ。

斯く書籍關稅などの疊的政策をも敢て行ひ、而して毫も他國の手前などに構はず、勿論他國人の意向などは聽かむとせず、若し他國の非難に逢ふときは、昂然として、我は我國の利益を保護し、我國の繁榮を圖るの權利と義務とを有すと宣言する。最初他國も或は之を怪み、或は之に對して小面憎しと感ずるも、後にはやがて之が此國のお株となり、他國も亦之を怪まず、非難せざるに至る、我國の關稅改革當局者などは、少しく米國を參考しても宜からう。

米國の攘夷主義は亦同じ事である。若しも外國が此攘夷に苦情を持込むときは、答へて言ふ、地を換へて貴國が我此地位に立たばどうなさる。斯の如き言説は何も珍らしいことは無い、吉田松陰の主義と同じである。先年ハアトと云ふ歴史學の米國大學教授が、我大學に見えた時分に演説したことがあつたが、全くこの趣旨を述べたのである。

米國固有の人口の減衰之を償ふには、來住を以てせねばならぬ。來住を獎勵する爲には、金錢を低廉にせねばならず、金錢を低廉にするには、物價を一齊一列に高

攘夷主義ハアト教授

人口減衰

人口の新
陳代謝

加奈陀の
風物

数多き米
國通

世界列國の大勢

七

くして置かなければならぬ。さて人口減衰し、來住多く、即ち人口に於ける新陳代謝の盛なるに氣が付けば、歴史を顧みず家を顧みざる、ギッチングス君一流の社會學說あるも亦讀めるであらう。

加奈陀の鐵道沿線の景色は、既に英國の趣味を含み、既に多少の含蓄あるやうに見受けた。殊にその曉の景色は頗る愛すべき所がある、米國の殺風景にして何の含蓄無きとは大に違つて居る。

二 社會實質の變遷

我國より米國に遊ぶ者は、歐洲に遊ぶ者よりも、數に多數である。柏林に於ける日本人は、一昨年て約百五十人、倫敦に於いては約三百人、巴里に於いては約七十人、千九百年博覽會の時を以てして、其一番多い時が四百人に過ぎぬ。然るに米國は如何と云ふに、紐育には常に三千人、カリフォルニア州の如きは、今日と雖も六萬以上を算へて居る。斯の如く、數多き米國通が、或は彼地に居つて通信し、或は日本へ來

米國を誤
解して
差支な
かりし
時代

下の關
金の還
附債

今日は何
如日は何

て其通を振り廻す、然るに斯かる米國通を、英吉利通、佛蘭西通、若くは獨逸通に比べ、ると、其必ずしも素養と言はず、下地が大分違ふのである。諄いことは言はぬが、兎も角も米國の日本に紹介される其さ、れ方が、或は英國の、或は佛國の、或は獨逸の紹介さるる其さ、れ方とは、稍違つたものとなるのは、言ふまでもないのである。

併し米國に就いての誤解が、格別大騒ぎをして訂正されずとも、よい時代が、これまで随分長く續いて居つた。明治十七年、我輩が今まで話しつゝあつたボストンを首府とせるマッサチウセツ州選出の、米國國會議員某某二氏が發議して、文久二年、英米佛蘭四國聯合の下の關砲撃の結果として、日本に強要せる償金三百萬兩の、米國の割前だけを、如何にも不條理なる不名譽なる金であると認めて、之を日本に還附せむ事の議案が出て、それが殆ど滿場一致で米國國會を通過して直に實行に附せられた事も、我輩當時小學生徒として記憶に残つて居る。斯の如き米國の精神、隨つて斯の如き日本の關係が續いて居る間は、米國を神の國と誤解し、或は獸類の國と誤解し、其孰れにするも、別段何の故障も無かつたのである。

併しながら、今日は何如であるか。曰はく蒙古人排斥問題、曰はく學童問題、曰は

米國社會の真相

七

社會の實
質
米國の獨
立

く墨西哥、マダレナ、港灣問題と云ふが如く、動もすれば日米兩國の善美なる親密なる交情を害せむとするが如き流言、蜚語、警報が續々世界及び吾人の耳朶を衝いて到る其時代に於いて、米國の日本を解するや、些の誤解あるべからず、日本の米國を解するや、亦些の誤解あるべからずである。我輩が今米國に就いて、多少世俗の見解と異なる觀察を傳へむと欲するも、亦此當面の必要を顧慮せるが爲である。

抑、社會の實質は人民である。民族である。米國の社會而も、第二十世紀の初め、千九百十二年、今月、今日、今時に於ける米國を、理解せむが爲には、必ず、先づ其社會の實質の變遷に注目する所なければならぬ。米國獨立は、世界歴史の極めて重大なる事件であるのみならず、又實に極めて高尚なる事件である。如何なる君主政治の國に生るゝ者と雖も、米國獨立の義舉を記述せる歴史を讀んで、肉躍り血湧くの感なき者は、人に非ず、青年に非ずと言つて、差支は無からう。況や我國の青年男兒は、夙に領主の横暴に抗敵せる佐倉宗吾の傳を讀むに於いて、熱して居る、况や佐倉宗吾の靈は、下總國の一隅に、宗吾神社として、百世に血食しつゝある。我輩の如きも、亦少小夙に米國獨立戦争の歴史に感奮せる一人て、而して此先入主となるの勢は、

あり變遷

豈唯丁髷
のみならず
むや

五時代五
段

第一期
列國植民
競争の時

動もすれば米國を以て、今日に至るも、尙ジョージ、ワシントン、の國、ベンジ、ミン、フランクリンの國、トマス、ジエ、ファアソンの國であると、誤想するの弊を惹起するのである。

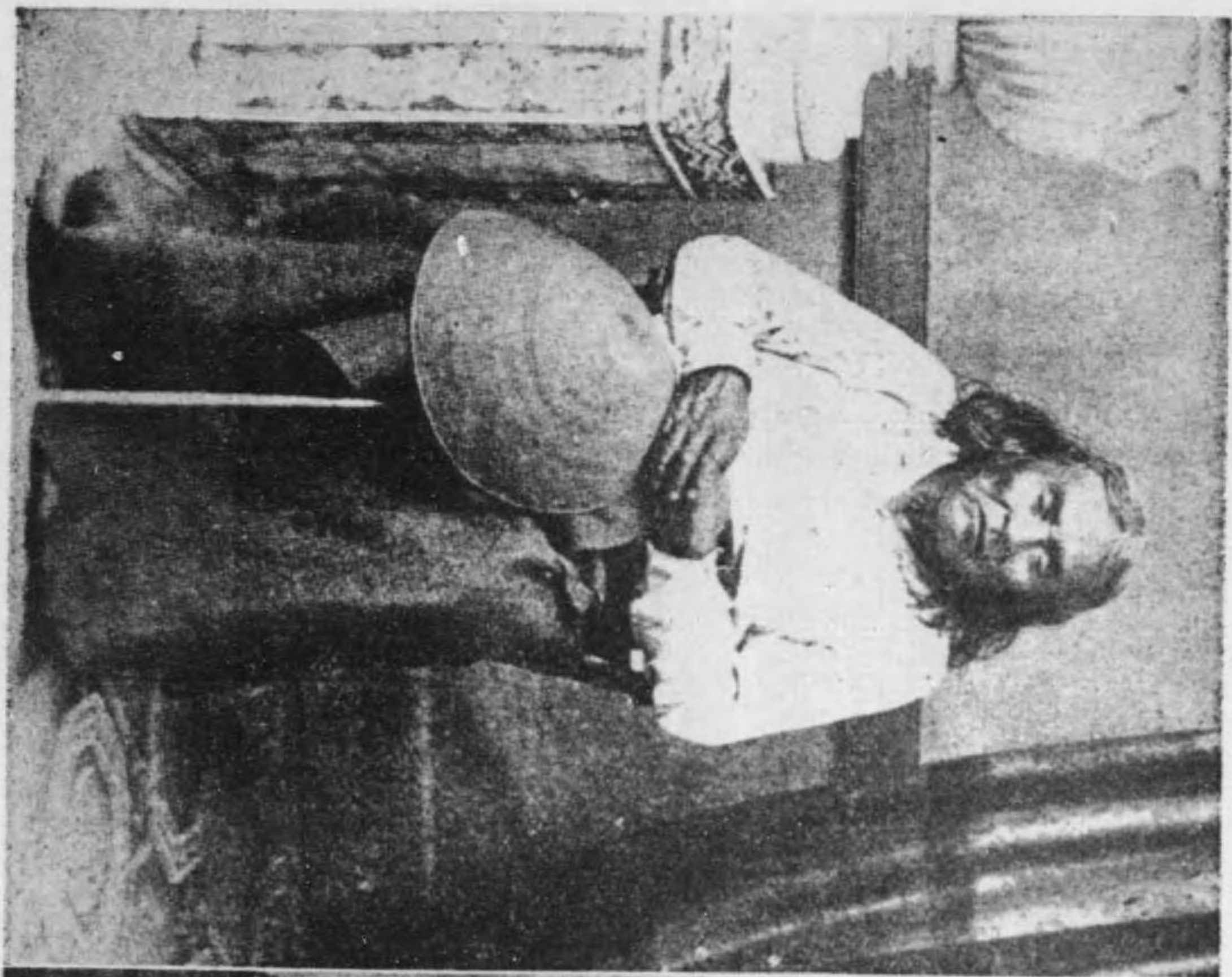
併しながら國に變遷あり、殊に米國の社會には、非常に大なる變遷がある、此變遷を十二分に審みせずして、事を論ずるならば、西洋人が往々我國を以て、今日も尙ほ丁髷を結うて居る國民と認めて、種々の旨評論を浴せ掛けるが爲に、我々が往々歐羅巴で迷惑すると同様なる事が起るのである。丁髷は髮の毛の末の事である、皮相中の皮相である、併しながら米國社會の實質、米國の人民、米國社會を組立つる民族の變遷、斯の如きは、其社會の運命に關し、社會の實相を、理解する上に、於いて、其重要なるや、決して皮相なる丁髷の比に、非ずである。

抑、米國社會の實質の變遷は、大體之を、五期若くは、五段に別けて觀察すること必要とする。米國即ち亞米利加合衆國と稱する盛大なる獨立國の生ずるに先だちて、既に此國の社會の實質となるべき民族は、此國の領土となるべき土地の上に棲息し、且繁榮して居つたのである、其第一期は即ち列國植民競争の時代である。

初め、コロンバスが亞米利加を發見するや、當時海上權力の舞臺に向つて、徐々頭

を擡げつゝあつた所の歐洲列強は、次第々々に植民を此新しき半球に向つて送り出した。而して其稍、優勝なるものに、西班牙、葡萄牙の外に、英吉利あり、佛蘭西あり、將た幾分の力を有つて和蘭があつた。英吉利人が初めて米國の土地に來たのは千五百年代の末に在り、而して流石、英國人の著眼て、植民地、經營、創業の事の未だ甚だ、行渡らざりし、早き年代に在つて、先づ第一に熱心を以て著手したのが教育の學府である。乃ち今のホストンの川向ひ、ケムブリヂに於けるハアヴァド大學の立つたのは實に千六百三十八年に在る。此時に建てられた第一の校舎は、恰も我文部省の食堂よりもまだ見劣りのする、極めて質素、寧ろ粗末なる木造の建物で、今日も、恐らくは少からざる修繕費を掛けて、大切に保存せられつゝあるのである。ハアヴァド大學が、近世の意味に於ける大學、即ち高尚なる一般學術を講習し、及び研究する場所となつたのは、最近五十年間に在るやうな始末である、乃ち英國人は米國に植民し、必ずしも今日の意味に於ける高尚なる學府、有ゆる學科を完備せる學府なる大學を立てたのではない、唯、英國人が米國植民の初期に在つて、既に成し遂げたる英國式の事業として、注意すべきは、其教育の機關、學問の機關を、先づ設けた

英人第一の事業



會長シアトル。

北米合衆國、ワシントン州、シアトル市は、この市この地方を經營せし白人に好意を表せし米印土人の會長シアトルの名を襲うて命名せる所。圖の左なるは會長シアトル、右なるは其娘アンジェイヌなり。

新英蘭

佛人の植民
イベリヤ
人
蘭人

米印人及
その地名

と云ふ點に存するのである。

兎も角も斯の如くにして新英蘭植民地に於ける礎石は置かれ、爾來順を遂うて次第に發展し、米國の通常東部と云ふが實は東北の一角に於いて、夙にアングロサクソンの殷富なる植民地を成すに至つた。併しながら廣漠たる北米合衆國の各地は、固より單に一個の特定の民族の爲に開かれたるに非ず、大體より云ふと、アングロサクソン民族の活動の中心地方の南及び西より、墨西哥灣頭に亘りて、佛蘭西人の植民あり、其間西班牙人、葡萄牙人も亦東南地方に點綴し、而して東北地方には、和蘭人が略ぼ同様の關係に於いて亦アングロサクソンの間に點綴した。斯かる植民第一期に於ける各民族の分布を手近に見やうと思ふならば、北米合衆國の地圖を繙いて其地名を見れば直に分るのである、逆も英語だけを知つて居る人では讀切れぬやうな地名が、新英蘭十三州の中にも屢々見ゆるのである。尤も地名には亦往々亞米利加印度人、即ち新來の歐洲人に對する土人以來の名稱が傳つて居る。例へば紐育市街鐵道會社をマンハッタン市街鐵道會社と云ふ、此マンハッタンは即ち紐育の大島、實に東西一哩内外、南北六哩餘に亘る此島の、亞米利加印度語の名

目て、之を今日に於いても紐育と云ふ形容詞に代へて屢々使用して居るのである。ナイアガラは英吉利人の訛り讀みて、實はニアガラである。西部諸州に行くと、州の名が既に亞米利加印度語なるものが多い、ダコタ、タコマ、イダホの如きは皆其例である。

斯の如く、歐洲各國の民族は、競うて植民人として到り、殆ど涯り無きの曠野に率うて、唯、敵とする所は、土地の占有すらも確實ならざる土人、即ち亞米利加印度人の襲撃虐殺に備ふる事、及び此曠野の間に我こそは之が支配權を有すと云はぬばかりの豹、時としては虎、獅の如きものと角逐するだけに過ぎなかつた。併しながら、斯の如き形勢は、餘り永くは續かぬ。同じく涯り無きの曠野と雖も、其間に肥沃なる土地あり、瘠薄なる土地あり、瘠薄を捨て、肥沃に懸くは是れ固より人間經濟の常則で、而して茲に各民族の折衝、争、衝が生じて來た、即ち歐洲列國の植民は、一轉して列國植民競争の實狀となつた。さて斯かる植民競争に於いて、何れの民族が果して最も優勝の地位を占むるであらうか。

此間に於いて、略、優劣成敗の旗色が分れて來たのが即ち米國社會實質の變遷第

彼の曠野に率ふ

第二期の優勝民族の時代

二期である。英、佛、蘭、西、葡、各、短所も有すれば亦長所をも有して居るとは云ひながら、結局夙に、ハ、ア、ヴ、ア、ド、大學の礎石を置くに於いて最も遠大なる著眼を現すを過たざりし、ア、ン、グ、ロ、サ、ク、ソ、ン、民族は實に此間に卓然として雄視するの運命を荷うたのである。一千米突の競走に於いて見るが如く、一步敵手を抜けば、それから先の抜き方は次第々々に著しくなつて來ると同様に、英人の優勝が少しく明かになつて來ると、それから先は加速度の勢を以て其優勝に進み、第十八世紀の中頃に至りては、遂に東部十餘州は、兎も角も殆どア、ン、グ、ロ、サ、ク、ソ、ンの植民地たるの觀を呈するに至つた。

此時に於けるア、ン、グ、ロ、サ、ク、ソ、ン、民族の植民人は、我輩が嚮に支那の教育と英國の教育との比較に於いて述べたる、下層社會の移住民とは、少しく趣を異にし、新英蘭當初の植民人中には、實に極めて優勝なる英人も混つて居つたのである。尤も此優勝は或る意味の優勝である、如何なる優勝であるかと云ふと、所謂精神的、宗教的、信仰の方面に於ける優勝である。抑々英國は、由來宗教には寛裕なる國柄であるとは云ひながら、第十七世紀に於いては、ス、チ、ュ、ア、ア、ト、王朝を覆し、次いでクロムウェ

當初の植民人の品質

當時の英國

米國社會の真相

七五

坊主派

ルの保護政治にも懲り、遂に千六百八十八年、オレンジのウィリアムを迎へてアンヌ女王に配し、漸く自由憲政の基を鞏めたる英國は、宗教上に於いても、固より完全無缺なる自由主義が磅礴として實際に行はれるまでには至つて居らなかつたのである。是に於いて當時の改革的進歩的基督教の中でも、急先鋒を以て目すべきクエエカルの一派、ピュリタンの一派は、所謂頭をくりくり坊主に圓め、坊主派と云ふ渾名まで取るほどの猛烈なる連中であつたので、斯の如きが、此歐洲では尤も進歩せる英國をも狭しとして、もう一層信仰上の自由を享有すべき樂天地も、などと眼を皿にして四方を眈みだ。茲に特に讀者の記憶を乞ふべきは、當時の歐洲各國の中で、兎も角も英國は宗教上最も自由に進み、思想上最も自由を享けつゝあつた國土であつたのである。此進める國土をも己が理想に副はずとせる程の理想派、理想と實際との調和など云ふ生ぬるき考は措いて、兎に角も理想に於いては、當時の西洋列國の社會民族で最も進める連中が、此寛裕なる英國の社會をも尙狹隘と爲し、窮屈と爲し、遠く二千里の波濤を破つて、乗り出した行先が、即ち亞米利加新大陸であつたのである。當時の米國東北部の、アングロサクソン植民人中には、斯

立派なる植民人

かる急激と云は、云へ、理想的自由主義者が、澤山混つて居つたのである。今日も尙、ペンシルヴァニア州の州名にも残つて居る所のウィリアム・ペンの如きは、實に數千のクエエカル宗徒を率ゐて此地に移住し、其名ペんに因んでペンシルヴァニアの州名が出来たのである。之を以て觀れば、當初のアングロサクソン植民人は、滿更の下層社會ではなく、寧ろ頗る優秀なる中流社會、少しく矯激なる宗旨連であつたにせよ、兎も角も修養ある品位ある、殊には理想ある、寧ろ理想倒れのする所の中流以上の社會、而して文明の急先鋒とも謂ふべきものであつたと見て、大なる間違は無い。斯かる人々に依て率ゐられたるアングロサクソン民族が、佛蘭西、葡四國の植民人に比して、一層優秀なる成績を收むべきは、多く怪むを要せず、而して彼等の理想的なりしの實證は、實にハアヴァド大學の夙に設立せられたるにも明白であるのである。

疎隔村落

斯かる當初のアングロサクソン植民人は、多く疎隔村落の形式に於いて、其世帯を構へた、即ち一家數口を以て耕し、經營し得るだけの土地例へば十町歩の土地が、其手に落ちるものとするならば、廣漠たる亞米利加の植民地に於いて、其十町歩を

成功の
大因由

大家族

宇記す
き事實

己が物と爲し、縦横三町づゝなる十町歩の地面の真中に住宅を構へ、而して其十町歩を經營し、隣の第二家も亦斯の如く同じく三町四方の真中に家を構へ、第三第四亦斯の如くであるから、家と家との距離は何れも三町づゝ離れて、さうして疎らに散在せる村落を形造つたのである。殆ど向ふ三軒兩隣、何事があつても呼聲が届かぬと云ふのが、當初の、アングロサクソン植民人の生活である。斯の如くにしても何等の落寃を感じざるは、是れ實に英國の社會生活の特色で、實に其爐邊の團樂家族中心の生活に負ふものと云はねばならぬ。

斯の如き生活に於ける家、此家に於ける家族は所謂大家族なるもので、當時の植民人は勿論の事、稍降つてフランクリン時代、即ち亞米利加の獨立前後の時代に至りても、平均一つの家には一對の夫婦と八人の子供とがあつた、實に貧乏者の子澤山ではなく、相當裕に生活して、而して外慕の念の極めて乏しき、健實なる家族生活の結果としての子澤山が、十八世紀若くは第十九世紀の初に、至るまでの米國に於けるアングロサクソンの常態であつたのである。

然るに今日の紐育邊では如何であるかと云ふと、大家族どころでは、ない、最早實

今や極端
なる小家族

所謂質の
優良も亦
社會の弊
害

に極端なる小家族が一般に行はれて居る。紐育で四方町を以て劃られたる大なる家屋、若くは家屋の群を名づけてブロックと云ふが、此ブロックに住する數百の家族の間に、時としては十三人、時としては十一人しか子供の數が無いと云ふが如きが屢ある(コンマルダル氏著亞米利加式思想)何と實に大なる變遷ではないか。當初健實なる農民生活、素朴なる生活を營みし植民人が、次第に志を得て貴族となり、是に於いて發展力、乏しくなり、是に於いて上品倒れするに至り、乃ち量に於いて減衰し、其代り質に於いて優良となると云ふ條、量の減衰は云ふまでもなく社會の弊害であり、所謂質の優良は亦實に社會の弊害で、而して雙方から押すに引いて、其に社會活力を減殺し、而して此第二期が段々に過去るべき運命となつたのである。

上品倒れは質の優良であり、質の優良も亦社會の弊害である。と云ふことは、少しく變に聞ゆるかも知れぬ。併しながら上品倒れと云ふ所謂質の優良は、我國の平安朝の貴族生活に於いて最も明白に現るゝが如く、其事はたとへ充分優良なる事であらうとも、之に倒るゝは即ち社會の弊害たる證據である。世俗に兎角入り易い俗論として、質の優良を期するが爲に量を減ずる、成るべく立派なる人間を拵へ

第三期、
新植民の
時代、
濁民の

新民族の
濁々たる
流入り

る爲に、數だけは少なくするといふことを道ふが、斯の如きは、其所謂質の優良其者も亦社會の弊害なることを顧みざる極めて淺陋なる見解と云はねばならぬ。

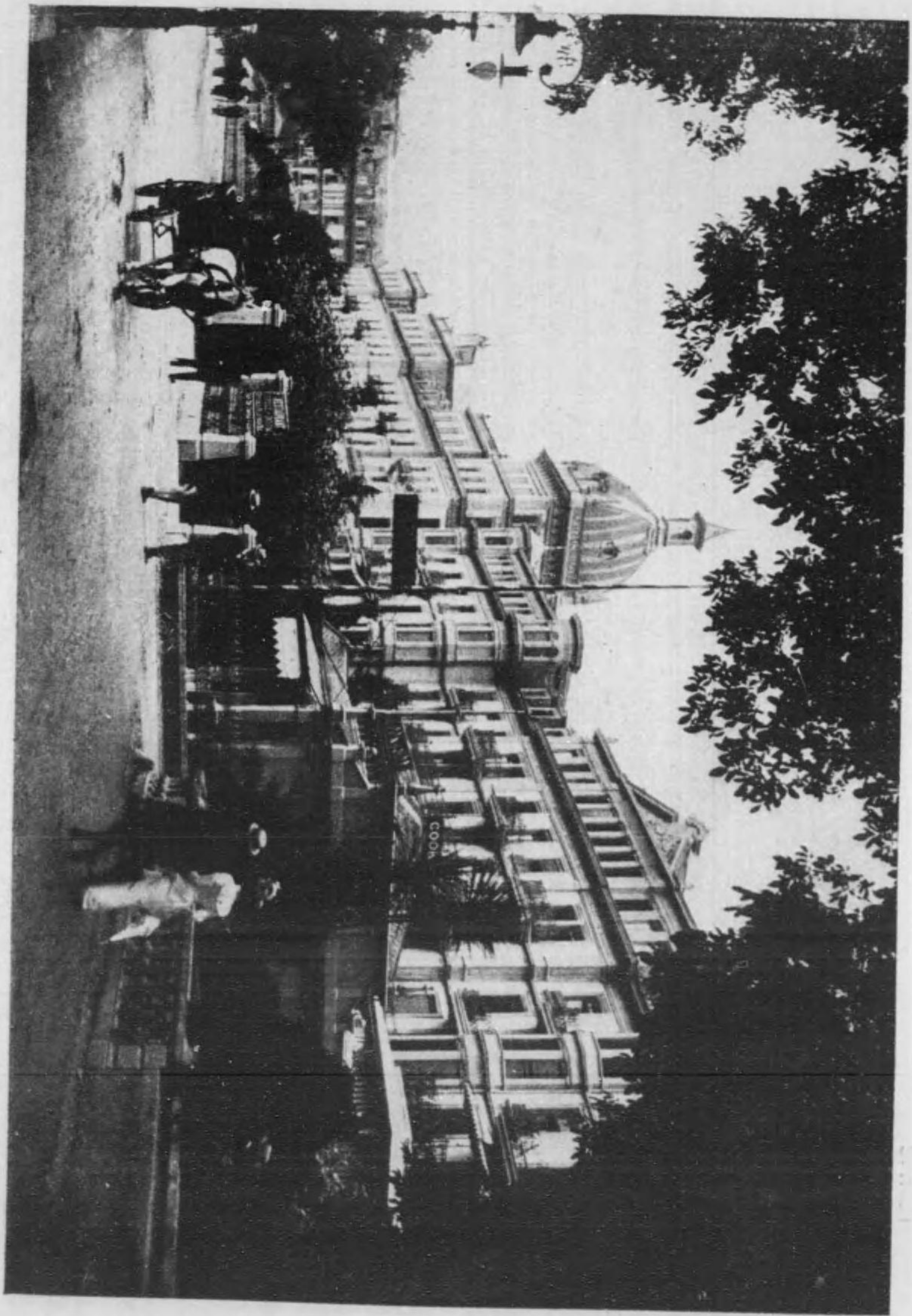
是に於いて、アングロサクソン民族の米國に於ける争ふべからざる優勝の地位は、稍動搖し始め、而して此際次第に歐洲で新たに頭を擡げ來つた所の各種の民族が新たに此地に植民するに至つた。

千八百二十年の頃には、殆ど歐洲よりの植民人は無かつたのである。然るに其後極めて徐々なる勢を以て次第に入り來り、南北戦争以後に於いて、漸く著しき社會上の事實として、新來の植民人の數は、年々米國社會の注意を惹くに至つた。

斯かる民族には、愛蘭人あり、以太利人あり、獨逸人あり、而して露西亞人あり、瑞典、那威人あり、丁抹人あり、匈牙利人あり、是等が各其最も盛なる年代は様々であるが、いづれも一進一退、續々年々歳々少からざる數に於いて米國に入り込むに至つた。

千八百三十七年に於ける市俄高の人口は、僅に四百七十を算ふるに過ぎなかつた。然るに千九百年に於ける市俄高は、實に二百四萬を有するに至つたのである。

市俄高人口の長足の進歩は、實に獨逸人、愛蘭人及び以太利人に依る。千九百年に於ける市俄高の獨逸人の數實に四十萬、愛蘭人三十



瑞西國

インテルラアケンの町。

ブリエンツ湖とベルン湖との間に在り、故に湖中の町といふ。一九一〇年四月十九日、ルツェルンよりベルンに至る、特に一日を此國の尤も山深く水清き地の迂回探勝に費し、夕近きころ此地に遊ぶ。瑞西は世界富豪の遊樂郷、就中米國の成金黨は乃ち尤も山靈水神を汚染するもの。

土著民族の人口減衰

新來人の下劣

萬、以太利人は二十四萬を算へた。斯の如き勢を以て、歐洲より人口の流れ入るの勢は、滔々として底止する所を知らざる有様であつたのである。是れ抑、如何なる因縁に依りて起りしか、今讀つて土著の民族を見ると、先づ以てアングロサクソン民族が、此間に於いて既に人口の減衰を始めたことを見通す譯に行かぬ。土著のアングロサクソン民族の人口減衰し、而して滾々として歐洲新進國民の移住者は入り來り、是等の移住者は當初の新英蘭に於けるアングロサクソンの植民人とは全く其趣を異にし、其本國、其者も當年の英國、況や今日の英國までの文明的修養に於ける進歩を見ざるが上に、更に其送り出す所の植民人は、極めて下層人民なるを常としたのである。露西亞人、匈牙利人の普通教育に於ける進歩の遅々たるは、既に詳に見たる所であるが、米國に移住する者は、獨り瑞典、那威と云はず、亦實に露西亞人、匈牙利人を含むこと甚だ多いのである。試に大西洋を航海すれば、其汽船の三等客として、毎航海數千數百の移住民が、三等の船室、三等のデッキの上に、或は蹣跚り、或は踉蹌し、實に憫むべき状態に於いて、新たなる運命を試むべく、其本國を後にして、所謂新大陸に旅し、ついあるを見受けるは、常の事である。何ぞ料らむや、其孫其

米國社會の真相

子甚だしきは其本人すらも未だ一世紀の四分の一を経る中に世界有数の富豪として金力萬能の今日同じく大西洋の特別一等船客として其生れ故郷に旅するは勿論世界を横行潤歩するに至らむとは斯の如きが即ち米國社會の真相の一面である。

二代目より赤直に人口減衰

然るに茲に甚だ面白き現象は斯の如く歐洲より入り来る所の各民族がいづれを問はず二代目からは業に既に亦人口の減衰を見ると云ふ一大事實である。獨りアングロサクソン民族のみならず米國の土地は凡そ此地に来る者をして個人的には殆ど必ず繁昌せしむる其代り系統的には血族的には之をして凋落萎靡せしめずんば休まずと云ふ状態が其本國の露たり何たり獨たり以たるを問はず必ず常に然るを見るのが今日の事實である。

人口統計

今米國の人口統計に就いてざつとした事實を擧げるならば米國の人口は其七分の六が白人で七分の一が黒人である七分の六の白人の中の半分は土著人で而して他の半分は即ち移住者若くは其二代である真に米國を以て我國と爲し我祖考の國と爲し得る者は實に全人口の七分の三に過ぎざる状態である斯の如き國

過ぎ去り又はつゝある民族

は亦實に宇内之を觀ること罕なりと云はねばならぬ。更に必ず看過すべからざる一大現象は獨り亞米利加に於ける植民人としてアングロサクソン民族が業に既に其極盛を過ぎて居るのみならず獨逸愛蘭以太利匈牙利露西亞等は亦實にかゝる順番を以て移住民中の優者の地位を占めつつあることである。既に獨逸の如きは近年其極盛の時期が過ぎ去つたので從來は二十五萬乃至二十七萬づゝ年々此國に移住し來つたのが千九百八年よりは俄に僅に五萬臺に降つたのである。

第四期、黒人解放の時代

斯の如く白人は米國に於いて最早完全絶對なる優勝者たるの地位を占むることが出來ぬ然るに傍より此勢を助成したのが即ち第四段に注目すべき時代の事件、黒人解放の事件である。今更言ふまでもなく亞米利加黒人は從來西班牙人葡萄牙人佛蘭西人に依て其南方の限り無き農業上の富を開發せむが爲に亞弗利加より輸入せられたる黒奴の子孫である。而して斯かる經濟上の必要が北方に於いて割合に少くなり來れるに對し米國の南北兩地方之を概言すればラテン及びゲルマン兩民族の民族的繁昌よりせる睽離反目の物欲上の心事が偶々奴隸解放

南北戦争

拭ふべからざる痕

に賛成すると然らざるとの主義上の旗色となつて爆發したのが南北戦争である。幸に米國に於ける南北戦争は所謂雨降つて地固まるて總體に於いて米國の爲に好結果を齎したが併し茲に拭ふべからざる一つの痕迹は當初より自由を好み平和を好み文明を愛し殺戮を厭ふ所の博愛寛裕眞にビウリタンクエカル即ち理想的耶蘇教徒たるに恥ぢざるの主義を實現し來つた所の米國民に血を嘗むるの悲ひべき經驗を與へた事である。米國民は南北戦争を以て其獨立以來初めて戦争と云ふものを經驗し而して又其結果を味ふに至つたのである。處女の貞操は茲に破れ是よりして後米國は業に既に復た昔日の米國ではないのである。

黑人解放の四結果
第一、民族濁

第二、人口率の恐

併し是は黑人解放其事と直接に關係せざる事であるが黑人解放の結果として第一に米國社會の實質は民族濁の勢を長ずるに至つた。濁とは何ぞや必ずしも黑人を以て白人に劣れりとなし玲瓏透徹せる淨かなる水に一點の濁れる黒色の塵埃を投じたと云ふ意味ではない。唯併しながらさなきだに各種の民族の混淆に依て成立せる米國社會をして一層大なる異色混淆の社會に墮し了せしめたる事は争ふべからざる事實である。第二に米國民族の人口率の上に於いて恐

争ふべき競争者

第三、黑人教育の問題

るべき競争者を新たに生じ致した事である。米國土著の白人の人口及び白人の移住民の子供の人口に於ける増加率は極めて低く殆ど佛國に於ける最近の趨勢人口一萬人に付てマイナス七乃至プラス四五に過ぎざる佛國のそれと伯仲の間に在ることであるが亞米利加黑人の人口増加率は常に一萬人に付百人以上を算して居るのである。第三に米國社會は黑人解放に依て黑人教育と云ふ新しき問題を生じて居る。今や復た大統領選挙競争場に鹿を中原に争ひつゝある現大統領タフト氏は其國務卿時代よりして最も黑人教育に腐心し其大統領就職以來を以てするも千九百八年九月十五日にはシンシナチに於いて「黒人の將來」と題して演説し同年十月七日にはガレスブルグに於いて「リンコルン及びビドゥグラスの争議」と題して演説し同年十月十六日にはチャッタヌウガに於いて「南方の鞏固及び其政治的過去」と題して演説し千九百九年一月十六日には「黒人問題の有望なる見解」と題してアトランタに於いて演説し同年同月十九日にはオオガスタに於いて「黒人教育の達觀」と題して演説し同年二月十二日にはニューオルレアンスに於いて「白人黒人の融合」と題して演説し同年同月二十二日にはペンシルヴァニア大學に

於いて「學識職業及び政治」と題して、黒人行政に對して演説し、其翌日は更に紐育のカルネギイ館に於いて「黒人活動の樂觀」と題して演説して居る。乃ち僅に半ヶ年間に於て、斯の如く黒人に關して頻々として演説し、而も其演説者が、識に於いてはタフト君の如き有識の士たり、地位に於いては米國の大統領たるを以てするに願みるも、如何に米國社會の社會心意が、黒人問題に就いて新たな煩しき問題を得たるかを見るに於いて、思ひ半に過ぐるものあるてあらう。

併しながら黒人解放の直接結果として更に一つ忘るべからざるは、亞米利加社會の一大汚辱たる、リンチ、即ち私刑と云ふが如き惡慣習を實現するの機會を、憚りに黒人を引き上げて白人と同等の社會的地位を與へたることに依て、大に其頻數を増すに至つた事である。凡そ以上の四項は、皆是れ黒人解放より致されたる事にして、然も斯かる價を以てすと雖も、亞米利加社會の鞏固を致すに與つてだに力あらば、固より言ふを要せぬが、社會の鞏固は却て壞され、而して直接の弊害、斯の如きものある以上、黒人解放の得失は、奇も大局を達觀するの眼光よりすれば、未だ遽かに斷ずべからざるものがあるのである。

第四、惡
習の増

黒人解放
の得失

第五期
亞東
の時代
の時代

日本
汽車
の時代

併し米國社會實質の混亂に赴くの勢は、實に黒人解放を以て終局とせぬ、更に進んで第五期に入り、東亞人交渉の時代と云ふが引續いて來つゝあるのである。北米合衆國人は、右の如き種々の事情よりして、自個の社會實質が、稍稍として、非常なる弱點を内に藏すべく、始まり、而して藏するに於いて、進みつゝあることを自覺した。斯く民族濁濁の弊を稍、自覺せるに際して、東亞殊に支那人、尋いで日本人の入り來ることは、米國に取りて、甚だ面白からぬ事と云はねばならぬ、況や黒人に對するよりは、黃人憎惡の感情が、先天的に白人に從來之ある以上、事は更に、危殆と云はねばならぬ。

つゝ此十日許り前六月下旬に、日本に遊べる米人の、日本の汽車に就いての觀察が新聞に出て居る。此米人旅客は、印度に於ける印度土人の王侯貴族と雖も、二等以下ならては乗らず、一等は全く白人の爲に設けられたるものとしつゝあるの常習でも思ひ出したか、日本人が日本の汽車の一等に乗ることを、大層不思議さうに書いて居る。斯の如く無學なる、無識なる、世間知らずの白人は、黃人若くは有色人を先天的に奴隸であるかの如くに考へるやうな、噴飯にも値せざる、僻見を有し

黄人憎惡
の歴史的
來歴

ネロオと
アツチラ

合理的根
據なし

附たり猶
太人

世界列國の大勢

共

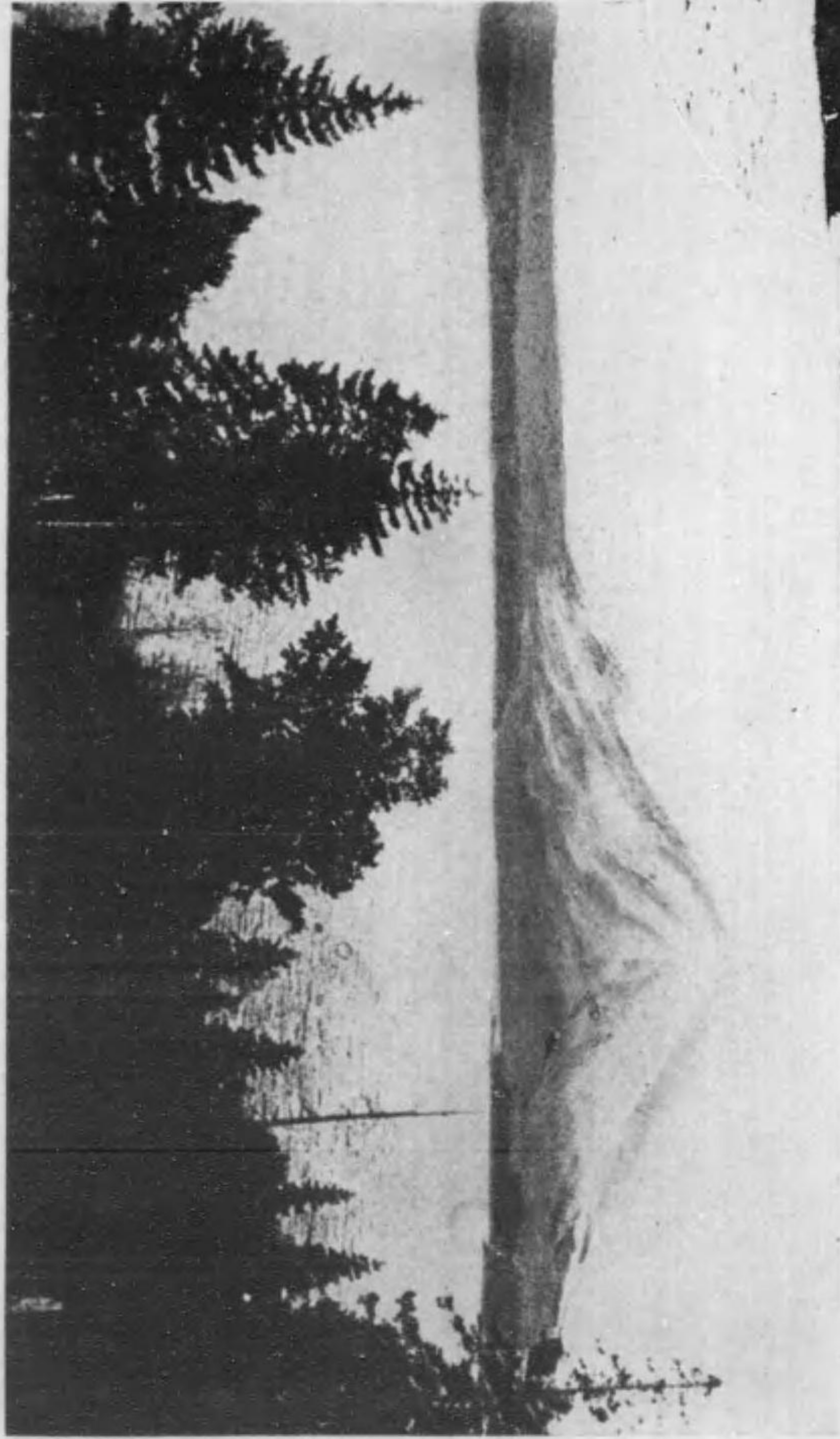
て居るが併し其歴史の來歴を討ねれば亦一片惻隱の情を起すべき事が無い。即ちアツチラ成吉思汗帖木兒等の名前は歐洲人を刺戟すること恰も朝鮮人に對する鬼上官の感があるのでマックスダンの『匈奴のアツチラ』と云ふ小説の如きも獨逸より英語其他に譯せられ汎く讀まれて居るが如何にも基督教の迫害者にネロオあるが如く歐洲民族の迫害者にアツチラありと言はぬばかりの猛烈なる記載を爲して居るのである。

米國が既に民族濁濁の弊に堪へざるが上に更に新たに黄人にまで入り來られ
ては誠に以て迷惑至極と感ずるは如何にも其理由はあるけれども併しながら又
他の一面より云へば米國民族なるものが既に非常の混民である以上東亞人のみ
を排斥すべき合理的根據は毫も之無きものである。

其上に又歐洲各國にも共通なる猶太人が米國にも既に南北を通じて五十萬た
け入り込んで居るのである。亞米利加合衆國に於ける猶太人の勢力は中々以て
侮るべからざる状態に在る。既に其手近なる一の證據は先年明治三十八年千九
百五年に露西亞が負け戦の口惜し紛れ腹の蟲の坐り所が悪かつた爲でもあるか

丸倉鐵

米國シアトル附近
在留邦人の命名せる
マコー富士



其國南方の一都會キシネフに於いて、慘烈なる猶太人虐殺の事を敢てした。此時に
 囂々として起つて其非を鳴らしたものは、米國に於ける猶太人である。米國に於
 ける猶太人は、直接露西亞の此非人道的暴舉を非難せるのみならず、更に、米國の輿
 論を促して、米國社會をして露國社會の敵たらしむるに與つて、大に力があつたの
 である。此一事を以てするも、米國に於ける猶太人が、大なる實力を備へ、而して其
 米國社會に於ける勢力の如何許りであるかは、略、推察に難からぬ次第である。

以上、年代に於いては約三百年に亘り、時期に於いては五期の大變遷を爲し、民族
 に於いては歐洲の各國人、羅匈系統の西班牙人、葡萄牙人、以太利人、佛蘭西人、愛蘭人、
 ゲルマン系統のアングロサクソン、獨逸人、瑞典人、那威人、丁抹人、スラヴ系統の露西
 亞人、波蘭人、蒙古系統の匈牙利人を含み、その外に更に黑人、及び東洋亞細亞の黃人、
 並に猶太人をも含める、米國の國土に於ける偉大なる民族運動の、稍、精到なる歴史
 的大観を試みたのであるが、斯かる複雑紛糾せる一大事象の叙述であるから、讀者
 諸君の餘程の注意を以て之を讀み、これを理解せらるゝことを希望せねばならぬ。
 之を要するに、苟も斯の如き米國社會の實質の大なる變遷に、注意するならば、米國

の國是米國の社會風潮さては米國の亞米利加魂の變遷が如何にあるべきかは、未だ之を説かざるに先ちて既に讀者諸君の思ひ半に過ぐるものある所であらう。

三 社會變遷の現形

社會の要素は人と土地とであるが、土地に於ける大なる變遷あるも亦既に社會の變遷を致す以上殊に其主要要素たる人即ち民に於ける變遷の至重至大なる影響を來さて止まざるべきは固より明白である。米國社會實質の變遷既に彼が如きものありとせば其社會其者に於ける變遷は必ずや何等かの形に於いて明々白々地に現形するものなければならぬ。果せるかな米國はワシントン、フランクリン時代よりリンコン時代を経、ハリソン時代よりクリイヴランド、尋いてマッキンレイ、ロオズヴェルト、タフト時代に至るに迫りて著しき變遷を遂げつゝある。歴代の大統領の肖像を列べ連ねたる繪を見ると、ワシントン以來の肖像は、約二十期の大統領を累ねて其溫雅にして端正なる風手に於いて餘り多く改まる所が無かつた。

大統領の肖像列べ

追々散文的となる

此間アブラハム・リンコンに於いて多少例外的なる、樸野にして堅實なる風手を見、而して現時米國に於いて最も屢遭遇するが如き米國型の顔が徐々出始めたのは實にハリソン以來である。今日の米國型の風手を有する大統領諸君に就いて通覽すれば甚だ散文的なるが其共通の面影である。堅實なる意思、銳利なる判断力等の表現は固より米國に於ける兎も角も第一流の地位に登る人々に副ふだけの、穎脱せる風采を備へて居るに相違ないが如何にも總べてを通じて、溫良、恭儉、謙と云ふ英國のジェントルマンに必ず無くてならぬ所の五つの特色は殆ど特に之を認むべき程具へて居らぬやうな風采が多いのである。斯く大統領其人の風采に於いても既にワシントン以來タフトに至るまで著しき變遷がある。斯の如き觀察は更に數歩を内に進め深く立入つて米國社會の變遷を觀察するの手引となる所の事實である。

第一、國是の變遷
米國勢力の西漸

米國社會變遷の現形は先づ其國是の變遷に見らるべきである。一言にして米國是の變遷を云へば實に平和主義より帝國主義に向つて進んだ。乃ち大統領ブカナンの時にアラスカの地を七百萬弗の價を投じて露西亞より購入し、千八百

米國社會の真相